競技規則

WSI_OD03

目次

1 **はじめに** **6**

1.1 用語の定義 6

1.2 中核的価値観 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**

1.3 懲戒措置 6

1.4 技能競技大会の公式文書 6

1.5 技能競技大会のタイムライン 6

2 **大会組織** **7**

2.1 イベント全体の管理 7

2.2 大会開催国 7

2.3 大会開催組織 7

3 **主催される職種競技** **9**

3.1 基本理念 9

3.2 技能五輪国際大会に向けた職種競技の選定**エラー! ブックマークが定義されていません。**

3.3 エキシビション職種 13

3.4 技能のタイプ 13

3.5 新しい職種競技の紹介の導入 13

3.6 将来の技能競技大会顧問団 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**

3.7 職種競技の廃止 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**

4 **登録** **18**

4.1 登録 18

5 **入場規程と認定条件** ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

5.1 WSI 加盟国/ 地域の義務 ..... **エラー! ブックマークが定義されていません。**

5.2 責任 19

5.3 大会会場への入場規定 19

5.4 ワークショップ（各職種競技場）への入場規定**エラー! ブックマークが定義されていません。**

6 **役割** **21**

6.1 選手（C） 21

6.2 チームリーダー（TL） 22

6.3 職種管理チーム（SMT） 22

6.4 職種競技マネージャ（SCM） 22

6.5 チーフ・エキスパート（CE） 23

6.6 エキスパートリード（EL） 26

6.7 エキスパート（E） 27

6.8 技術代表（TD） 30

6.9 技術代表補佐（TDA） 31

6.10 公式代表（OD） 31

6.11 競技運営委員会代理人（CCD）.....31
6.12 競技運営委員会代理人リーダー(CCDL）.....32
6.13 通訳者（I）.....32
6.14 ワークショップ・マネージャ（WM）.....33
6.15 ワークショップ・マネージャ・アシスタント（WMA）.....34
6.16 ワークショップ・セクター・マネージャ（WSM）.....34
6.17 オブザーバーおよびその他のポジション.....35
6.18 品質監査員（QA）.....36
6.19 基準評価アドバイザー（SAA）.....36
6.20 リードスキルアドバイザー.....37
6.21 職種アドバイザー（SA）.....37
6.22 最高経営責任者（CEO）.....37
6.23 技能競技大会ディレクター.....37
6.24 競技運営委員会のリーダーシップを担当する WSI 加盟国/ 地域理事会エラー! ブックマークが定義されていません。
6.25 競技運営委員会（CC）.....37
6.26 競技運営委員会管理チーム（CCMT）.....38
6.27 事務局.....38
6.28 安全衛生および環境の監督チーム.....38

7 職種管理.....39

7.1 技能競技大会準備期間.....39
7.2 技能競技大会開催時.....40
7.3 技能競技大会開催中.....41
7.4 技能競技大会終了後.....42

8 職種定義.....43

8.1 内容と適用範囲.....エラー! ブックマークが定義されていません。
8.2 優先順位.....43
8.3 入手方法.....エラー! ブックマークが定義されていません。
8.4 更新とその有効性.....43
8.5 職種限定規則.....44

9 インフラリスト.....45

9.1 定義 45
9.2 作成 エラー! ブックマークが定義されていません。
9.3 公開 エラー! ブックマークが定義されていません。
9.4 材料と器具の提供.....エラー! ブックマークが定義されていません。
9.5 不測品.....45
9.6 代替または追加材料.....エラー! ブックマークが定義されていません。
9.7 選手の個人工具.....エラー! ブックマークが定義されていません。

10 競技課題.....48

10.1 定義 48

10.2 作業時間と形式 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
10.3 使用する材料および器具 48
10.4 様式 エラー! ブックマークが定義されていません。
10.5 第三者の介入 48
10.6 品質保証と管理 49
10.7 タイムスケジュールと担当者 49
10.8 選定 エラー! ブックマークが定義されていません。
10.9 守秘義務 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
10.10 競技課題の公表と非公表 51
10.11 競技課題と採点に関する選手の打合せ .... エラー! ブックマークが定義されていません。
10.12 翻訳 52
10.13 知的財産の共有 53
10.14 完了した競技課題の保全 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
10.15 終了した競技課題の所有権 53
10.16 競技課題準備及び採点に関するエキスパート参加概要 54

11 評価と採点 55

11.1 解説 エラー! ブックマークが定義されていません。
11.2 ワールドスキルズ職業基準 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
11.3 評価方法 55
11.4 評価トレーニング 56
11.5 採点スキーム 56
11.6 評価および採点の手順 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
11.7 評点の終了 60
11.8 完成した競技課題の保全 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
11.9 結果公表 61
11.10 メダルと賞 62

12 問題と紛争解決 63

12.1 方針と規則階層 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
12.2 重要用語の定義 63
12.3 指針 エラー! ブックマークが定義されていません。
12.4 プロセス 66
12.5 決定、伝達およびタイミング 70
12.6 罰則 71
12.7 不服申し立てプロセスおよびタイミング 72
12.8 記録管理および結果 72
12.9 倫理委員および不服申し立て審査委員の任命エラー! ブックマークが定義されていません。

13 情報伝達 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

13.1 大会開催組織 74
13.2 WSI 加盟国/ 地域の情報伝達 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
13.3 録画および写真撮影 74

14 安全衛生および環境 76
14.1 大会開催組織 76
14.2 WSI 加盟国/ 地域 76
14.3 技術代表 76
14.4 エキスパート 76
14.5 職種管理チーム、エキスパートおよびワークショップ・マネージャ 76
14.6 ワールドスキル事務局 77
14.7 監査チーム 77
14.8 持続可能性 77
15 パイロット・プロジェクト 78
15.1 定義と目的 78
15.2 英語のみを使用する職種競技 78
15.3 AI を使った競技課題翻訳 79
付録 1-技能競技における重要事項およびタイムライン 80
改訂履歴 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

1 はじめに

技能五輪国際大会は、世界中の若者のための最大の職業技能競技大会である。国内および/または地域/大陸の技能競技大会において成功を収めることにより、選手の資格を得る。競技大会は、近年技能を

必要とする職業に就いたばかり、または就職しようとしている若者の技能および能力に焦点を当てている。

本競技規則は、全ての職種競技を統合する技能五輪国際大会の組織および運営のための決定事項および規則を定義する。本則は競技運営委員会により更新され、総会により可決される。

全ての加盟国/地域および参加者は、競技規則を遵守しなければならない。

1.1 用語の定義

www.worldskills.org/glossary を参照。

1.2 中核的価値観

ワールドスキルズ・インターナショナルの中核となる価値観は、多様性、卓越、公平、革新、品位、協調および透明性である。

認定された全ての者は、倫理行動規程で提示されたワールドスキルズ・インターナショナルの価値観と原理を促進、また支持することとし、最大限の品位、誠実さ、公平性を持って行動することによりそのコミットメントを示すこと。

1.3 懲戒措置

認定された者はいかなる場合も、不正行為を非難され、または規則および／または指示に従わない、あるいは技能競技大会の適切な運営に悪影響を及ぼすような行動をした場合は、セクション 12 に記載の手順に従い措置を受ける。

1.4 大会公式文書

大会の文書には、倫理行動規程、競技規則、安全衛生環境方針とガイドライン、基準評価ガイド、職種管理計画、職種毎の職種定義およびインフラリストが含まれる。

1.5 大会のタイムライン

技能五輪国際大会の準備および実施のためには、様々な人々が関わり、特定のタイムラインに沿った、多くの指標がある。本規則に参照される上記の指標の概要については、付録 1 を参照のこと。

2 大会組織

2.1 イベント全体の管理

ワールドスキルズ・インターナショナル(WSI)理事会および組織委員会は、技能五輪国際大会イベント全体の管理責任を負う。この権限の範囲内において、それぞれの最高経営責任者（CEO）に適切な権限と責任を付与する。

2.1.1 大会管理チーム（運営者）

WSI の最高経営責任者（CEO）および各 WSI ディレクター（技能競技大会ディレクター、マーケティング＆コミュニケーション・ディレクター、スポンサーシップ＆パートナーシップ・ディレクター、イベント運営・ディレクター）は、大会管理チームを形成し、技能競技大会の運営管理の全ての側面に責任を負う。

2.2 大会開催国

2.2.1 大会開催組織の選定

技能五輪国際大会の実施は、理事会による入札内容の精査の後、総会での決定により WSI の加盟国/ 地域の一つに委任される。

大会開催国が国内における委員会または他の団体に大会の組織を委任しても、ワールドスキルズ・インターナショナルに対する大会開催国の責任は存続することとし、その手配により生じる全ての契約は、調査のために理事会に提示しなければならない。

2.2.2 責任

大会開催国は、技能競技大会を組織し開催すること、ならびに大会前および期間中の PR と広報活動に責任を負う。

2.2.3 権利の保持

主催者として、ワールドスキルズ・インターナショナルは、全ての通信手段（マスコミ、マーケティングおよび PR）の承認を含め、大会に関するあらゆる権利を保有する。

2.3 大会開催組織

2.3.1 インフラの供給

大会開催組織は、大会に向けた最適な施設とインフラを提供しなければならない。

大会開催組織は、職種定義およびインフラリストに即した、各職種に最適な作業場および器具を提供しな

ければならない。本構想については理事会により承認されなければならない。（セクション 8 および 9 参照）

大会９ヶ月前から、大会開催組織は、競技運営委員会の決定に従ってインフラリストに掲載されている現在の機器、装置、工具に関する詳細情報を全ての技術代表とエキスパートに提供すること。

大会の会場とワークショップの他に、以下を提供する：

- 総会用の本会議室（競技運営委員会や戦略開発委員会も使用）
- 公式代表および技術代表用の会議室
- チームリーダーの会議室

・　事務局の要望による技術装置を備えたオフィス

・　会長、最高経営責任者、競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーおよび戦略開発委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーのためのオフィス

要件の詳細は、現行の大会イベントマニュアルに明記されている。

大会開催組織は、憲章、運営規則、倫理行動規程、ならびに本競技規則を含む他の公式文書の要件も満たすこと。

2.3.2 認定パッケージ

大会開催組織は、認定パッケージを作成し、公開前に承認を得るため、理事会に提出する。詳細を大会の 12 ヶ月前までに加盟国/地域が入手できるようにし、そこには全てのエクスカーションやレセプションの経費を含む参加者１名あたりの費用を含める。

全加盟国/地域とゲストは、請求される費用がきちんと全額支払われる限りは、制限無く、参加者として受入れなくてはならない。認定パッケージの具体的詳細は現在の大会イベントマニュアルに記載されている。

2.3.3 大会プログラム

WSI の CEO との協力、また当 CEO 管理の下で、大会開催組織は、全参加者向けに滞在と食事の手配を含む総合的な大会プログラムを準備すること。特に、開会式、閉会式、フェアウェルパーティーの詳細な手順については、大会６ヶ月前までに、理事会に承認を受けなければならない。

2.3.4 安全衛生および環境セクション

セクション 14.1 を参照。

3 主催される職種競技

セクション 3 は、戦略プロジェクト「未来の技能競技大会」に基づき見直し・改善中です。このバージョンはガイダンスと参考として使用できますが、今後（WSC2026 以降）職種競技で開催される方針とルールは、この結果と GA 承認の「未来の技能競技大会」に基づいたものになります。

3.1 基本理念

3.1.1 導入：「技能」とは何か?

技能とは、標準的には特定の職業と関連した知識、技能、行動を身につけることにより得た専門知識の一部である。“職種競技”とは、１以上の職業について、その水準、説明、あるいは基準が示されているワールドスキルズの職種競技のことを指す。

職業競技は職業を参照している。それは、これら職業が国際的に理解され、キャリアに関連し、また長く存在しているためである。

3.1.2 技能五輪国際大会の役割と目的

技能五輪国際大会は、世界を通じて若者のために行う職業的職種競技のトップに位置する。参加は、通常、国内および/または地域/大陸規模の職種競技における成功に基づく。技能五輪国際大会で選ばれた競技は、十分に準備された才能ある若者の卓越したパフォーマンスによって最も恩恵を受ける職業の価値を反映していなければならない。このようにして、技能五輪国際大会は、世界中の社会や経済の集団的、個人的な幸福に貢献する。

3.1.3 職業的背景

技能五輪国際大会は、安定からダイナミズムへ、予測可能性から不安定性へ動いた労働市場、経済および社会の中で、何十年にもわたり開催されてきた。新しい技術は、仕事の性質、また仕事の将来に向けての準備の双方に多面的な課題を提示する。従って、技能五輪国際大会は、職種競技の選択と組織に対し、柔軟で、即応性のあるインテリジェンス主導型のアプローチを求めている。
このようなアプローチを実証する包括的理念は：

- 可動性： 人々と技能の可動性を、仕事と生活におけるアクセス、持続可能性、移動、そして進歩に向けて支援すること。職業的には、これは職業的なルート・マップを創る支援をすることにより“職業を超えて読み取る” 職業に関与する。
- 関係性： 加盟国/地域の経済、労働市場および社会に関係する職業教育訓練(VET)システムの発展を積極的かつ的確に支援する。
- 最適化： 経歴、供給、実用主義に基づく競技ポートフォリオから、大規模かつグローバルな職業的、社会的トレンドを意識した動的関係への移行。

3.1.4 職業的動向

職業的、社会的動向は、職業教育訓練における現在の前提とアプローチに対して課題を与えている。これら課題に含まれるのは：

- より高い教育レベルにおける技能開発の拡大
- 技能開発における多様性と豊かさ
- 当事者意識の拡大と関心および
- 技能開発へのより強い認識と理解

この動向は、技能五輪国際大会内ですでに認識済であり、職種競技の選択や組織に直接反映されるべきである。

3.1.5 メンバーシップの多様性と表明

ワールドスキルズメンバーシップの急速な成長は、以下を生み出した。

- 世界の職業的発達に対するより多角的で確かな見識
- 職種競技の選択と組織に対する、より情報に基づいたアプローチ
- 対応可能な競技構成および職種競技代表選出の範囲内で、多様な関心とニーズに対応するためのより大きな責任

アクセスと卓越性が衝突した場合、卓越性が優先するという理念に従って、発展した経済力と同様に、発展しつつある経済力に影響する職種競技を含める余地が存在する。

3.1.6 変更の場合

動的環境の中では、職種競技を存続すべきかどうかを決定するために、要求には追加基準が加えられるべきである。イノベーションを可能にするための余地を見つけ出すべきである。ワールドスキルズには、追加の品質管理と保証措置があり、各職種競技の継続をすべきかどうか、またどのように継続すべきかどうかを決定する際に、それらを積極的に使用するべきである：

- 明瞭性
- 労働市場の関連性、価値および傾向
- 職種競技パフォーマンスの質指針および
- 内部の管理実績

加盟国/地域への幅広い対象への利益のため、これらの追加基準の使用が持続的に優れたものであることが保証されなければならない。

関連性と価値を意味する需要の高さは、代替案の欠如やボトルネックなど、プラス要因が少ないことを示している可能性があり、いずれも情報に基づいた方法で対処する必要がある。いくつかの職種競技には普遍的な魅力と非常に広い職業的広がりがある。過剰な需要がある職種競技は、潜在的進化のために見直しすべきである。より広範囲な過剰需要に対して、制約、あるいはその他の制限が必要な場合、各種競技、あるいは全ての競技ポートフォリオにおいて、比例基準、アクセス、バランス、範囲基準を、その優先順位や登録に適用させるべきである。

3.1.7 職種競技の区分

ワールドスキルズ職種競技の区分は、次の集約した職業部門に基づいている。

- 建造および建築技術
- クリエイティブ・アーツとファッション
- 情報および通信技術
- 製造および工学技術
- ソーシャルサービスとパーソナルサービス
- 輸送と物流

これらは多くの観衆やユーザーにとって容易に理解されるという長所があるが、現在のところ包括的なものでもなく、職種競技会のポートフォリオ内でバランスが取れているものでもない。それらは部門内の動きを図にしておらず、ワールドスキルズの将来の意思決定にとって重要な考慮事項である。したがって、管理目的で、1 つ以上の追加の分類が使用されるべきであり、国際労働機関のトップレベルの分類を導入するべきである：

- 専門家
- 技術者および準専門家
- 事務サポートをする労働者
- サービスおよび販売に係わる労働者
- 熟練した農林水産業の労働者
- 工芸と関連の貿易に係わる労働者

この分類は、すでに職種競技の管理に役立つ情報を提供している。

3.1.8 横断的技能（別の分野でも通用する技能）

2013 年から、各職種競技はこれらの他の分野でも通用する技能を含んできており、経済協力開発機構(OECD)のガイドラインに則している。

- 作業組織と（自己）管理
- （情報、）コミュニケーションおよび対人関係の技能
- 問題解決、革新および創造性

上記の括弧内の言葉をさらに強調すると、これらは、能力と卓越性を区別することを含めて、パフォーマンスをとてもよく支持する現れである。差別化はあらゆる職種競技の決定要因である。職種競技にとって、卓越性を判定する差別化要因は、自立し、責任を取り、更にはその時点で役割の要件を超越した複雑さを対処するための実証済みの能力である。これらはまた職種競技のデザインと実施にますます影響を与える横断的技能（別の分野でも通用する技能）である。

3.1.9 選手の資格

当然、選手の唯一の資格基準は年齢である。技能五輪国際大会の極めて重要な目的は、加盟国/地域およびその他の人々に彼らの職業教育訓練（VET）システムおよび実習の効率と有効性についてフィードバックを与えることである。参加者の最近の経験がパフォーマンスに影響する。 したがって、原則として、選手の資格は、最初の職業教育訓練（VET）を離れてから 2 年以内に限定されるべきである。これは、上記のセクション 3.1.7 の 2 番目の分類の最後の 4 つの項目に該当する職種に対する 22 歳の制限を裏付ける。しかしながら、専門家、技術者および補助的な専門家の役割にとって、当初の職業教育訓練が長いほど、25 歳がより適切な場合がある。 これは最近の討論と決定によって裏付けられる。

3.1.10 大会管理の原則

職種競技のポートフォリオを通じて、社会経済的変化とのダイナミックでインスピレーショナルな関係を築き、維持することは、これからの課題である。しかし、経緯的および構造的理由により、現在の体制は最適ではなく、また、この情報化時代において、多くの加盟国/地域およびパートナーが所属する組織の利益のために、情報に通じており、多層的で多角的なリーダーシップ・管理に置き換える必要がある。

大会管理の他の要素と同様に、職種競技のポートフォリオの監視も重層化するべきである。

- 戦略的リーダーシップ：目的、リソース、領域と範囲、コミュニケーションおよび宣伝
- 部門別および部門をまたぐ管理：職業を越えた技能の上昇、下降および移動を図化し、職種競技を通じてこれらを反映させる。
- 職種限定の管理：導入、開発、改革、廃止の基準を立ち上げ適用する。

論理的根拠、コミュニケーションおよび調整の基本として、最も価値のあるリソース、データおよび優位性を作り出し、共有するべきである。進行する 5 年間の時間枠と骨子および職種競技の排除と導入のための柔軟な対策を含む 3 年間の運営計画は、加盟国/地域およびパートナーの関与と支援にとって不可欠な条件となる。

加盟国/地域の率先力にかかっている職種競技への現在の参加ルートは有用だが、若者の生活や仕事の機会によりよく反映させるチャレンジには不十分である。新しい職種競技に柔軟に参加するルートが加盟国/地域からを含め、産業、企業およびパートナーから以下によって推奨されるべきである:

- 概念の実証（提案が職業上の信頼性と価値を持っていること）
- 可能性または実際の需要の実証
- 保護策（関心の相反や不適切な制限に対する抗議を含む）
- 職種競技の最高の質を達成するために WSI と協力する意欲

非公式に、このアプローチは、実際的な理由により、すでに現れている傾向である。

3.1.11 指名されたチーフ・エキスパートまたは職種競技マネージャが不在の職種競技

指名されたチーフ・エキスパートまたは職種競技マネージャの無い職種競技は、登録の機会が与えられない。

新規職種競技については、該当職種競技に登録した加盟国/地域と相談の上、競技運営委員会管理チームがチーフ・エキスパートを指名する。

3.2 技能五輪国際大会に向けた職種競技の選定

技能五輪国際大会における職種競技の総数は、職種競技がワールドスキルズの使命および大会の目標を反映し、世界経済の技能の必要性を確実に表すために、セクション 3.1 で前述した原則と手順の適用によって決定される。

加盟国/地域は、仮登録、それに続く技能五輪国際大会で開催される職種競技発表の前に、いかなる選手対しても約束をしてはならないことに注意する必要がある。加盟国/地域は、この日程の後まで、選手を選出してはならない。

技能五輪国際大会で催される職種競技の実数は、利用可能な総スペース、職種競技ごとに必要となるスペース、そして職種競技ごとの選手数に依る。従って、職種競技の選定は、利用可能なスペースに入る職種競技の優先順リストにより決定される。

技能五輪国際大会の職種競技の選定は、仮登録の際、競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー、WSI の最高経営責任者、技能競技大会ディレクター、そして大会開催組織のテクニカル・ディレクターにより決定される。仮登録は、開会式の暦 12 ヶ月前。

全ての加盟国/地域は仮登録の１週間前以内に、職種競技の最終選定が通知されるようになっている。

3.2.1 選定の順番

（仮登録に基づいた）技能五輪国際大会に向けた職種競技の選定は、以下の順となる。

1. 公式職種としての経年による、求められた登録数以上を満たす全ての公式職種（9 以上の登録 がある公式チーム職種）

2. 全ての新規公式職種

3. 12 あるいは 13 の登録がある３年目あるいはそれ以降の公式職種–セクション 3.7 に準じて大会開催組織による最終決定

4. エキシビション職種

3.3 エキシビション職種

大会開催組織は、自己負担で、ワールドスキルズ・インターナショナルとの合意および提携のもと、職種競技の新たな側面、また可能性をエキシビション形式で提示、もしくは展示することができる。このエキシビションには、実演者の完成した作業、または進行中の作業が含まれる。このエキシビションでの作業はいかなる競争的状況を有していると見なされず、WSI は公式メダルや表彰する形式での証明を与えることはできない。大会開催組織は、しかしながら、WSI の承認を得た場合につき、証明書で実演者を承認する。

3.4 職種のタイプ

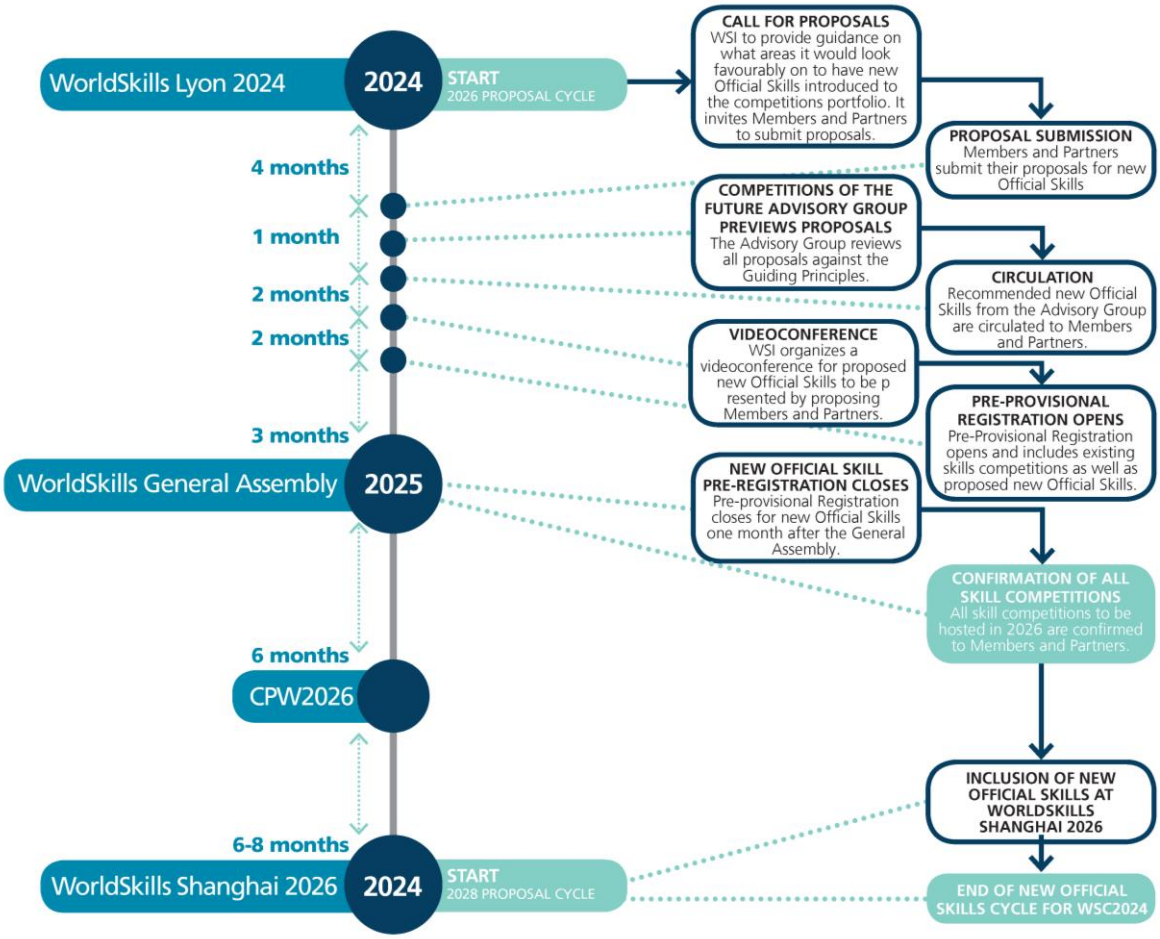
職種	最少選手数/チーム	大会情報システム	競技規則	メダル	最終加盟国/地域の結果
公式	6, 9, 14	✓	✓	✓	✓
公式チーム	6, 9	✓	✓	✓	✓
エキシビション	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない

3.5 新しい職種競技の紹介

加盟国/地域およびグローバル・パートナーは、競技運営委員会に提示することにより新しい職種競技を提案できる。提案した職種競技が基準を満たした場合、公式職種としての登録のために、提供されるものとする。

3.5.1 新しい公式職種導入のための規則とガイドライン

以下の規則およびガイドラインが新規公式職種を提案する加盟国/地域およびパートナーに適用される。



第１段階

大会の約２年前の競技運営委員会会議には、加盟国/地域およびパートナーは新しい公式職種を提案するために招集される。

第２段階

加盟国/地域およびパートナーは大会の 20 ヶ月前に WSI に提案書の提出するよう連絡を受ける。

第３段階

「将来の技能競技大会顧問団」は、基本理念（セクション 0 を参照）に基づいて最も有力な提案書を選択する。決定がされると、提案している全加盟国/地域およびパートナーには決定が通知され、採用された提案が全加盟国/地域に配布される。

第４段階

大会 19 ヶ月前、採用された新職種提案書を出した加盟国/地域およびパートナーは、ビデオカンファレンスの Q&A セッションで５分間（最長）のプレゼンをするよう招集される。このプレゼンには一定の情報が含まれていなければならない一定型書式は技能競技大会ディレクターに連絡の上、入手する。WSI は、全ての関心ある加盟国/地域に本件を促進する。

第５段階

提案された新職種競技は大会の 15 ヶ月前に全ての公式職種と共に仮登録が要請される。

第６段階

ワールドスキルズ・インターナショナルは、必要とされる登録数を基準に実施する職種競技を公表する。（セクション 3.4 参照）

3.5.2 書類

職種定義は WSI 職種定義の定型書式に基づかなければならない- ウェブサイトあるいは職種競技アドミ・マネージャから入手可能である。

WSI は、職種競技が公式職種として受入れられた後、職種定義および付随する書類を管理する。

3.5.3 考慮すべきポイント

新職種競技は、技能五輪国際大会への導入前に、国内あるいは地域大会で実施されている必要があるが、場合によっては、新職種競技見込みとして認可された後に実施されることもある。

プレゼン用の定型には、以下のような情報が求められる：

- 世界経済における職種競技の代表性と重要性の測定基準と実証
- 職種競技のワールドスキルズ職業基準
- 6 人の競技者のために必要となるスペースおよび他のワークショップのスペースに加えて、それぞれの追加の競技者のための所要スペース
- インフラ要件および
- 職種競技の構成

技能五輪国際大会の持続可能性とコスト管理のニーズに沿って、WSI と大会開催組織は、新職種競技が過剰なスペースおよび/またはインフラを要する場合、開催できるかどうかを最終決定する。

3.6 将来の技能競技大会顧問団

“将来の技能競技大会顧問団”は、定期的に基本理念を見直し、各技能五輪国際大会のスキルイン・スキルアウトを決定し、職種競技のダイナミズムを確実に注ぎ込むことにより、中核的且つ長期間確立された職種に、新しく出現する職種を取り入れながら、世界的な企業と産業の最善対策の歩調を合わせ、労働市場の要件を発展させる。

3.7 職種競技の廃止

一つの職種競技の状態は仮登録から次の仮登録までとする。参加者の欠如により公式職種として直ちに廃止される職種競技は、次回の仮登録までウェブサイトに掲載される。

前回の職種競技からの状態	仮登録時	実際の選手数	実施
警告	13 以下 （チーム職種は８以下）	ー	公式職種として直ちに廃止。１または２の登録数差で必要最低数を下回った場合、大会開催組織の裁量で開催されることがある。
警告	14 以上 （チーム職種は９以上）	13 以下 （チーム職種は８以下）	職種競技が仮登録で 14 以上あるので、技能五輪国際大会で開催される。 しかし、実際は 13 以下で実施されるため、その後の技能五輪国際大会の公式職種としては廃止される。
警告	14 以上 （チーム職種は９以上）	14 以上 （チーム職種は９以上）	公式職種の状態を保持する

公式職種が１または２の差で、登録の最低必要数を満たしていない時でも、実施することが可能である。仮登録で要求されるより１または２少ない選手数で職種競技が実施される場合でも、それは“警告”となり、公式職種として維持されるためには、次回の技能五輪国際大会で最少登録数と同数あるいはそれ以上の登録数がなければならない。一定の選手数未満で実施される職種競技は、公式職種リストから直ちに削除される。

3.7.1 公式職種ー技能五輪国際大会・初回

職種競技が公式職種として初回であるとみなされる場合、仮登録で最低 6 の加盟国/地域の登録がなければならない。

3.7.2 公式職種ー技能五輪国際大会・２度目

職種競技が公式職種として 2 度目であるとみなされる場合、仮登録で最低 9 の加盟国/地域の登録がなければならない。

3.7.3 公式職種ー技能五輪国際大会・３度目およびそれ以降

職種競技が２度以上、技能五輪国際大会に公式職種として確立している場合、最低 14 の加盟国/地域の仮登録がなければならない。

12 または 13 の登録がある場合、職種競技は実施されるかもしれないが、最終的な決定は大会開催組織次第である。この決定は、仮登録で行われる。もし、問題の職種競技が前回の技能五輪国際大会から“警告”されている場合は、選択されず、公式職種のリストから直ちに削除される。

公式職種が 12 人または 13 人の選手で実施される場合、次回の技能五輪国際大会で“警告”がされる。

公式職種が 11 人以下の選手で実施される場合、公式職種のリストから直ちに削除される。

3.7.4 チーム職種

チーム職種競技が初めて公式職種とみなされる場合には、仮登録に最低６つの加盟国/ 地域が登録されていなければならない。

チーム職種競技が 2 度目あるいはそれ以上、公式職種としてみなされる場合、仮登録に最低９つの加盟国/地域が登録されていることが求められる。

3.7.5 大会開催組織の規定と裁量

大会開催組織が該当する職種競技を実施することを契約上、すでに結んでいる場合は、職種競技ごとの選手の最少人数に関するこれらの規則は適用されない。仮登録の際、3 回目の、もしくは以降の公式職種であり、12 または 13 の登録がある場合、実施できる可能性はあるが、最終決定は大会開催組織に委ねられる。

3.7.6 警告される職種

職種競技が 14 未満の登録で行われる場合、職種は、“警告される”に進むか、あるいは次回の技能五輪国際大会の登録のために提供される職種競技リストから削除される。

“警告される”になった際、開催される公式職種は、次回の技能五輪国際大会の実施に向けて、仮登録で 14 以上の登録が必要となり、それ以降の全ての技能五輪国際大会の最低条件を満たし続けなければならず、満たさない場合、公式職種としては削除される。つまり、“警告”は一度きりである。これが要因で大会開催組織の契約が危険にさらされる場合、残りの新公式職種が実施された後に開催することができる。

3.7.7 職種競技の再導入

前回の技能五輪国際大会で必要なサポートを受けられなかった公式職種の再導入を提案する加盟国/地域あるいはパートナーは、以下のことを行わなければならない：

- 技能五輪国際大会の 18 ヶ月前の最新の技術的進歩を取り入れた職種定義を配布する。そして
- 仮登録で 14 の加盟国/地域が登録している。

4 登録

4.1 登録

技能競技大会の登録は、５つの段階を経て完了する。

第１段階暫定登録

第１段階 – 仮登録

加盟国/地域はワールドスキルズ・インターナショナルのウェブサイト(www.worldskills.org/registration)経由で、選択した職種競技の参加に向け登録をする。締切りは**大会 12 ヶ月前**。

加盟国/地域は以下を仮登録すること。

- 自国が参加する職種競技
- 全ての参加者。該当者は、選手、エキスパート、公式代表、技術代表、技術代表補佐、CEO 全国技能組織、チームリーダー、公式オブザーバー、オブザーバー、通訳者、コミュニケーション・オフィサー、加盟国/地域組織支援および加盟国/地域オブザーバー

登録内容は、オンラインで確認できる。

加盟国/地域は、仮登録（**大会の 12 ヶ月前**）の締切り前までは、どの選手に対しても（職種競技実施の）確約をしてはならない。また、大会でどの職種競技が催されるのかは、その**一週間以内**に発表される。加盟国/地域は、この日以降まで自身の選手を選定すべきではない。

第２段階 – エキスパートおよび技術代表の登録

エキスパートおよび技術代表の全ての詳細は、**大会９ヶ月前**までに確定されなければならない（ディスカッション・フォーラムなど職種競技の開発および準備への参加を確定するため）。

第３段階 – 仮登録の更新

加盟国/地域は、仮登録から最終登録（第 4 段階、**大会 4 ヶ月前**）までの期間、登録内容を更新することができる。事務局と大会開催組織には、自動的に全ての更新内容が通知される。

第４段階 – 職種競技の最終登録

大会４ヶ月前までに、加盟国/地域は参加する職種競技の登録を最終決定しなければならない。その後の変更は、大会開催組織および WSI の技能競技大会ディレクターの許可無しに行うことはできない。

WSC2024 では、最終登録は 2024 年 5 月 1 日である（C-4 か月より 10 日少ない）。

通訳者の全詳細は、**大会４ヶ月前**までに提供しなければならない。

第５段階 – 参加者詳細の登録

加盟国/地域は、WSI ウェブサイト(www.worldskills.org/registration) 経由で認証を要求するために、各参加者氏名、メールアドレス、写真を提供すること。

選手、チームリーダー、公式代表および公式オブザーバー（第３段階に基づいた内容のとおり）の全ての詳細を**大会２ヶ月前**までに提供しなくてはならない。怠った場合は、参加者の詳細が印刷物や掲示物に掲載されないことを意味する。加盟国/地域は、参加者氏名の正確なスペル、形式、大文字表記を転記することに責任を負うこと。

他の参加者の詳細は、大会開催組織の認定パッケージに要求されるとおりに提供しなければならない。

5 入場規程および認定条件

5.1 加盟国/地域の責務

技能五輪国際大会の認定を受ける前に、加盟国/地域には２つの責務がある：

1. 加盟国/地域の代表団全員分の大会パッケージの未払い金は全て、大会開催組織に支払わなければならない。
2. 加盟国/地域は自国の責任において付保すべき全ての保険の準備が整っている旨の確認書を、事務局に提示しなければならない。最高経営責任者は、大会の約２ヶ月前にこれらの公式レターを要求する。

5.2 責任

大会開催組織は、認定を行う責任がある。大会開催組織と事務局は、認定システムの技術面とロジスティックス面の要件決定に向けて一緒に取り組む。

ワールドスキルズ・インターナショナルは、職種競技と大会会場への入場規定および認定承認に責任を負う。

大会開催組織は、認定パッケージに関するところの入場規定および認定承認に責任を負う。

5.3 技能競技大会の開催場所へのアクセス

大会初日より前および**大会４日目より後**の日においては、技能競技大会の会場へ入ることは、通常、オブザーバー、メディア、一般人は禁止される。オブザーバーやメディアの特別な入場は、状況により WSI の CEO、技能競技大会ディレクター、またはマーケティング＆コミュニケーション・ディレクターが許可をする。

5.4 ワークショップへの入場規程

公式に認定された者のみが、ワークショップへの入場が許可される。職種競技マネージャ、エキスパート、ワークショップ・マネージャ、ワークショップ・マネージャ・アシスタント、通訳者および技術オブザーバーのみ、自身が認定された該当ワークショップへの入場のみを許可される。

5.4.1 常時入場可

以下の者は、常時ワークショップに入場できる：

- 理事会員
- 公式代表および技術代表
- 事務局および大会サポートスタッフ
- 職種アドバイザー
- 独立した品質監査員
- 基準評価アドバイザー

但し、これらの人物も、職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、あるいは他の加盟国/地域のエキスパートが同行しない限り、同国の選手との接触が認められない。

5.4.2 特定の状況下での入場

以下の人物は、特定の状況においてワークショップに入場することができるが、ワークショップを初めて訪れる際は、職種管理チームのメンバーに自己紹介をすること：

- チームリーダーは、いつでも同国の選手がいる全てのワークショップに入場でき、同国の選手たちと直接接触して良い。
- 技術代表補佐は、エキスパートおよび/あるいは選手がいる職種競技のワークショップへのみ入場できる。

以下の人物によるワークショップへの入場は、WSI の CEO または技能競技大会ディレクターが状況により許可することとする：

- 大会開催組織スタッフおよびボランティア
- 次回以降の大会開催組織オブザーバー
- 機器提供の技術者（不測の事態において）

公式オブザーバー、オブザーバーおよび彼らの通訳者には、ワークショップあるいは職種管理会議への入場が認められない。

6 役割

6.1 選手 (C)

6.1.1 選手数

各加盟国/地域は１職種競技に対し１名の選手 — あるいは、チーム制の職種競技の場合は指定された人数の選手を登録することができる。

チーム制の職種競技は、製造チームチャレンジ（3 名）、メカトロニクス（2 名）、移動式ロボット(2 名)、造園（2 名）、建設コンクリート施工（2 名）、サイバーセキュリティ（2 名）、インダストリー4.0（2 名）、産業用ロボット（2 名）である。

6.1.2 年齢制限

ほとんどの職種競技において、選手は、技能競技大会開催の暦年で、22 歳以下でなければならない。本則における現在の例外は以下の職種である。

- ３D プリント
- 航空機整備
- デジタルコンストラクション
- クラウドコンピューティング
- サイバーセキュリティ
- 工業デザイン技術
- インダストリー4.0
- 情報ネットワーク施工
- メカトロニクス
- 製造チームチャレンジ
- 光電子技術
- ロボットシステムインテグレーション
- 水技術

上記職種の選手は、技能競技大会開催の暦年で、25 歳以下でなければならない。

その他の例外は、エキスパートが要望し、根拠を示し、競技運営委員会の同意のもと、大会 12 ヶ月前の総会にて可決されなければならない－手順の詳細については、技能競技大会ディレクターに問い合わせること。

6.1.3 １回限りの競技参加

選手は、一つの技能五輪国際大会において一つの職種にて、１回限り競技に参加することができる。選手は、その後の技能五輪国際大会で異なる職種で参加することはできない。

例外的状況は、理事会で検討される場合がある。

6.1.4 障害をもつ選手

WSI は、国際アビリンピック連合との連携を推進する。

- 障害のある選手は、決められた時間内に競技課題を遂行することにおいて、その障害が妨げにならないのであれば、大会に参加することができる。作業準備と作業場の設置に追加の時間が与えられる。
- 競技課題は、WSI ガイドラインに従って評価される。
- 年齢制限の上限に関する例外は、競技運営委員会よって推薦され、大会 12 ヶ月前の総会での可決を必要とする。
- 技能五輪国際大会と並行して、大会開催組織は、異なるガイドラインを用いて障害をもつ選手のための競技を実施することができる。この場合、競技課題は、別に指定された基準を用いて採点され、賞の授与は公式の閉会式において、WSI 表彰に続いて行われる。

6.1.5 注意義務

全ての選手はエキスパートに同伴されなければならない。

この規則の例外は競技運営委員会管理チームにより判断される。

セクション 7.1.1 を参照。

6.2 チームリーダー（TL）

6.2.1 定義

各加盟国／地域は、大会の開催期間中に選手と連絡を取り合うチームリーダーを選出する。チームリーダーの主な役割は、自宅から離れ、相当なストレスのもとにある若い選手たちの心身の健康状態、規律、素行に気を配ることである。加盟国/地域は、その国/地域のチームリーダーが特定の職種を担当するか、同国の選手全員に対する責任を共有するかを決定する。

6.2.2 人数

各加盟国/地域は、チームの規模に関わらず、2 名のチームリーダーを持つことができる。

20 名以上の選手で構成されるチームは、3 名のチームリーダーを持つことができる。

30 名以上の選手で構成されるチームは、4 名のチームリーダーを持つことができる。

6.2.3 アクセス

技能競技大会期間中、チームリーダーは、（ワークショップへ入場する）前に職種管理チームのメンバーに対し、各ワークショップの競技者にアクセスできるよう要求しなければならない。技術的な情報あるいは職種競技のタスク、評価、可能性な解決方法に関するいかなる情報交換も禁止される。

6.2.4 病気または事故

同国チームの選手が事故または病気に巻き込まれた場合は、速やかにチームリーダー（たち）に通知されなければならない。チームリーダーおよび同国のエキスパートは、その公式代表および技術代表へ報告すること。

6.3 職種管理チーム（SMT）

各職種競技には、その管理に責任をもつ SMT が存在する。SMT は、職種競技マネージャ（SCM）、チーフ・エキスパート(CE)、２人以上のエキスパートリードで構成される。職種管理チーム（SMT）は可能であればそれぞれ異なる国/地域のメンバーで構成されなくてはならない。

6.3.1 責任

職種管理チームは、職種競技の適切な準備と実施、競技規則の遵守、自身および競技運営委員会の決定を実施することに責任を負う。

6.3.2 職種管理計画

職種管理チームは、“技能競技大会の前”から“職種技能大会の終了”までを通し、大会の実施に求められる企画、スケジュール、課題の詳細を示す職種管理計画を準備する。職種管理計画は、https://skillmanagement.worldskills.org のオンライン版で準備される。

6.4 職種競技マネージャ（SCM）

職種競技マネージャは、チーフ・エキスパート、副チーフ・エキスパート（WSC2024 以前）、エキスパートリードまたは自身が指名された職種競技で少なくとも 2 度エキスパートを務めたことのある者である。職種競技マネージャは、**大会の 21 ヶ月前から大開終了後１ヶ月まで**の職種競技の開発と実施の間、管理、指導、リーダーシップを提供することに責任を負う。この間、SCM は、大会開催組織および技能競技大会ディレクターと共に業務を行う。SCM は、職種管理チームの一員である。

6.4.1 指名

次回大会に向けてワールドスキルズから指名される SCM は、大会終了後速やかに意思表示をし、応募手順を実施することで、**大会終了後３ヶ月まで**に確定する。SCM は、次の技能競技大会で競う選手/チームのトレーニングに関して、加盟国/地域組織と同盟関係にない中立な立場の人物とする。任期は、１大会サイクルのみとする。

6.4.2 資格、経験、資質および倫理的基準

職種競技マネージャは、以下の基準を満たさなければならない。

- 自身が指名された職種競技において、少なくとも２回の技能競技大会でチーフ・エキスパート、副チーフ・エキスパート（WSC2024 以前）、エキスパートリード、またはエキスパートとしての実績があること。
- 自身が指名された職種で非常に高い能力と経験があること。
- 職業教育訓練(VET)および/または類似した業種における高度な知識、理解、基準と評価に関する専門的知識がある。
- 英語の読み書き会話の両方できちんと意思疎通が取れること。但し、SCM に通訳が必要な場合は考慮される。
- 優れた管理能力と統率力
- 対人関係をきちんと保持できる
- 素晴らしい人格者

6.4.3 国内組織および選手との連絡

職種競技マネージャは、**次の技能五輪国際大会について選手（またはチーム）が発表されるまで、あるいは大会の 12 ヶ月前**のどちらか早い方が来るまで、国内の組織と共にあらゆるアクティビティに参加することができる。その時点で、職種競技マネージャはその選手またはチームに対し、職種に特化した全ての訓練を中止しなければならない。

チーム作りとチーム発展 – 心構えの改善、チームに結束を強めるような身体的な活動、スポーツ心理学や栄養学の発表等は許可される。

職種競技マネージャは、国内組織のための委員会や役員会に残ることができ、次期の大会周期に向けた地方および/または全国の大会で判定に参加することができる。また、技能五輪国際大会の 12 か月前までに開催される地域大会に参加することもできる。

職種競技マネージャが、他の国内組織のための大会に向けた特定の職種トレーニングの援助を求められた場合、**選手（またはチーム）の発表、あるいは大会 12 ヶ月前**のいずれか早い方が来た後は、その招待を辞退しなくてはならない。他国/地域で行われる国内大会、地域大会に審判をする目的で招待される場合も同様とする。

6.5 チーフ・エキスパート（CE）

チーフ・エキスパートは、職種競技のための管理、指導およびリーダーシップを発揮する責任を持つエキスパートである。CE は、職種管理チームの一員である。

特に CE は、各選手が大会の４日間全体を通してベストな作業（作品）を生み出せる大会の環境を確実なものにし、エキスパートの準備、履行、採点と評価を管理する極めて重要な役割を担う。CE には職種競技の品位と安全そして全ての関連規定、手順、採点のコンプライアンスを確実にする最終的な責任がある。

6.5.1 資格、経験、資質および倫理基準

エキスパートに対する要件（セクション 6.7 参照）に加え、チーフ・エキスパートは以下の基準を満たさなければならない。

- 英語の記述、口述の双方のコミュニケーション力を有する。
- **少なくとも１回**は過去の技能競技大会でエキスパートであったこと。
- 職業教育訓練(VET)および/または類似した業種における高度な知識、理解、基準と評価に関する専門的知識がある。
- 関連する業務上の役割あるいは職業において高い能力と経験があること。
- 優れた管理能力と統率力
- 優れた対人関係の保持
- コンピュータを使用し、インターネットを通じてコミュニケ-ションが図れること。－自身の職種でのディスカッション・フォーラムを推進し、技能競技大会ディレクターと連携を取って業務に就くことを含む。
- 大会と大会の間も WSI とコミュニケーションを図り、対応すること。
- 最高レベルの品位があること － 正直、客観的、公平であり、必要に応じて他の人々の協力にあたり準備すること。

セクション 6.7.2 を参照。

6.5.2 エキスパートの多数決による決定

職種競技に関する決定は、エキスパートの全一致での決定が望ましい。妥当と思われる時間内にエキスパートによって全員一致の決定に至らなかった場合、チーフ・エキスパートが決定すべき事項に対し投票に付す。単純な多数決（出席したエキスパートの 50%プラス１名）が最終決定として成立する。欠席したエキスパートは決定を知らされるが、決定の変更をすることはできない。

決定内容は、http://skill-management.worldskills.org に掲載されている Decisions, Actions, and/or

Agreement form を用い、職種競技マネージャまたはチーフ・エキスパートにより記録すること。

6.5.3 競技運営委員会への連絡

チーフ・エキスパートは、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーまたは技能競技大会ディレクターと当該の職種競技の準備や組織に関連する案件について直接連絡が取れる。彼らは競技運営委員会および/または職種管理会議に参加するよう求められることがある。

6.5.4 認められない外部からのサポート

チーフ・エキスパートは、技能競技大会のあらゆる事項について外部の者、あるいは過去のチーフ・エキスパート、過去のエキスパートにサポートの参加を求めることは認められない。競技課題が第三者によって作成された場合を除く。（セクション 10.5 参照）

6.5.5 指名、選挙および承認

大会２ヶ月前に、技能競技大会ディレクターは、技術代表およびエキスパートに、誰が職種管理チームに立候補できるか知らせる。それらの候補者は、技能競技大会ディレクターに指名される意思があるか確認を求められる。指名者の予備リストは、すべてのエキスパートによる検討のため、大会前にエキスパート・センターに掲載される。

職種管理マネージャは選挙プロセスを取り仕切る。

技能競技大会では、職種管理マネージャが再度、候補となるエキスパートに意思があるか確認する。立候補の意思が無いエキスパートがリストから削除され、新しく立候補を希望するエキスパートが追加される。この手順は、**大会４日目の 18 時まで**に完了しなければならず、以降は立候補できない。

選挙は、締め切り後、速やかに開始され、**大会終了後第１日目の 12 時まで**に終了する。エキスパートは、エキスパート・センターにログインし、希望順に３名のエキスパートに投票する。第一選択には３ポイント、第二には２ポイント、第三選択には１ポイントが配点される。職種競技マネージャは投票しない。

大会終了後第一日目の 12 時、あるいは全ての投票が済めばその時刻より早く、職種競技マネージャは申込みを締め切り、結果を出す。エキスパートは、申込みページに再度ログインし、指名を認めるため、結果にデジタル署名をする。（本スケジュールの例外は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに事前に同意を得ていなければならない。）

職種競技マネージャは、**大会の会場を去る前**に、CE および他の候補者に関する推薦内容を技能競技大会中に技能競技大会ディレクターに提出する。

注意：この選挙は、職種管理チームの指名と予備役だけに関するものである。最も高いポイントを得たエキスパートはチーフ・エキスパートに指名され、２番目に高いポイントを得たエキスパートは副チーフ・エキスパートに指名される。

指名された CE は、その後、

- 職種競技マネージャに推薦される
- 自身の加盟国/地域の組織によりサポートされる。そして
- 競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーによって承認される。

大会終了２ヶ月後までに、技能競技大会ディレクターは、同国の技術代表に助言し、暫定のサポートを探す。これにより、２つの技能競技大会とつなぐ発展とコミュニケーションを確かにする。

大会の約 12 ヶ月前に行われる競技運営委員会会議の６週間前に、WSI はエキスパート自身の加盟国/地域の技術代表（公式代表にもコピーする）からのサポートを依頼する。これは、CE の指名を受けるためである。

加盟国/地域の組織によってサポートされた場合、また競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに承認された場合、CE が指名される。承認された CE たちのリストは、**大会 12 ヶ月前**の競技運営委員会会議の前に公表される。

スケジュール	手順
大会２ヶ月前	• 技能競技大会ディレクターは、技術代表とエキスパートに誰が職種管理チームに立候補に適するか、知らせる。 • 候補に挙がった該当者に指名の意思を確認する。 • エキスパート・センターに指名者リストを提出。
技能競技大会にて	• 職種競技マネージャは、立候補する意思のある候補のエキスパートを確認し、更に志願者を求め、内容に従ってリストを更新する。
大会４日目 18:00	• 指名プロセスを完了し、締め切る。 • 選挙プロセスを速やかに開始する。 • エキスパートはエキスパート・センターにログインし、3 名のエキスパートを希望の順位をつけて投票する。
大会終了後第２日目の 14:00 まで	• 選挙プロセスを完了する。 • 職種競技マネージャが結果を出す。 • エキスパートはエキスパート・センターにログインし、結果にデジタル署名をする。〔注１〕
大会会場を去る前	• 職種技能マネージャは、CE および DCE の推薦内容を技能競技大会ディレクターに提出する。

大会終了後２ヶ月まで	• 技能競技大会ディレクターは、同国の技術代表にアドバイスし、暫定的サポートを求める。
大会約 12 ヶ月前	• WSI は、加盟国/地域組織の技術代表（公式代表にコピー）から CE に指名されるエキスパート向けのサポートを求める。 • 加盟国/地域組織によるサポートおよび競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーによる承認の下、CE が指名される。 • 指名された CE のリストが、大会 12 ヶ月前の競技運営委員会会議の前に公表される。

〔注 1〕　当スケジュールの例外は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに事前に同意を得ていなければならない。

6.6 エキスパートリード（EL）

6.6.1 定義

エキスパートリードは、職種競技の準備と実施においてチーフ・エキスパートを補佐する責任のあるエキスパートである。エキスパートリードは、職種管理チームの一員である。

6.6.2 人数

SMT には、SCM、CE およびスキルの登録数に応じて最低 2 人のエキスパートリードが含まれる。

登録数が 30 以下の職種競技には、2 人のエキスパートリードがいなければならない。

登録数が 31 から 40 の職種競技には、オプションで 1 人のエキスパートリードを追加することができる。

登録数が 41 以上の職種競技には、オプションで最大 2 人のエキスパートリードを追加することができる。

6.6.3 資格、経験、資質および倫理基準

チーフ・エキスパートのための 6.5.1 を参照。

6.6.4 責任

エキスパートリードは、職種競技マネージャおよびチーフ・エキスパートから業務を割り当てられ、職種管理チームの一員としてチーフ・エキスパートと共に業務を行う。技能競技大会での主要な責任は、チーフ・エキスパートを補佐することである。職種管理の役割と責任分担表に従い、特定の責任が割り当てられる。

尚、エキスパートリードは職種定義の全ての提案された変更が完了したことを確実にし、少なくともエキスパートの 80%による同意を得、署名を得た職種定義を、**大会終了後第一日目の 16 時まで**に、事務局にデジタル形式で提出する。

6.6.5 指名および承認

エキスパートリードは、**大会の９カ月前**に職種競技マネージャとチーフエキスパートによって指名される。

指名は、各加盟国/地域組織の支援を求める職種競技管理マネージャに提出される。承認されたすべてのエキスパートリードは、ウェブサイトで公開される。

6.7 エキスパート（E）

6.7.1 定義

自身の専門分野に関連する職種競技において、加盟国/地域を代表する技能、職業、または技術の経験を有する人物。

6.7.2 資格および経験

エキスパートの条件は：

- 認定を受ける職種において実績のある業界および/または実務経験とともに公式または認可された資格を有する。
- 職業教育訓練および/または関連する業種における基準や評価における実績を伴う知識、理解、見解を有する。
- 自身の加盟国/地域の国内/地域職種競技でエキスパート/審判であったこと。
- 自身の国/地域において関連する業界組織あるいは教育機関が、彼らの技術的能力を認知していることについて、技術代表が認知している。
- 関連した現在の職種競技および/または判定の経験を有する。
- 競技規則、職種定義およびその他の技能競技大会の公式文書を知り、遵守する。
- WSI の専門性開発の枠組みにおいて要求される専門知識を有する。
- 最高レベルの品位があること － 誠実さ、客観的である、公平である、必要に応じて他の者に協力できる準備がある。
- CIS、競技課題と採点スキームの作成およびワールドスキルズ職業基準の実務的な知識

6.7.3 指名および認定

各加盟国/地域は、自らが登録した職種競技ごとに１名のエキスパートを指名する。ワークショップに加盟国/地域は２人目のエキスパートを配置できない。エキスパートは、認定を受けている加盟国/地域の傘下に置かれなければならない。エキスパートの氏名は、WSI 登録システムに**大会の９ヶ月前**に加盟国/地域組織により登録される。

加盟国/地域が**９ヶ月前**にエキスパートの氏名を登録していない場合、技能競技大会の準備や採点のいかなる局面においてエキスパートの介入は、職種管理チームの裁量となる。職種管理チームが、準備や採点の全てあるいは一部への介入を許可しない場合、そのエキスパートはワークショップ内で職種競技を見学する。

6.7.4 必須のトレーニング

ワールドスキルズ・アクセス・プログラムは、トレーニング設計で国際的優良事例を反映させており、必須エレメントとさらなる学習のための補足エレメントで構成されている。推定学習時間は 20 時間を要する。

必須エレメント
（全ての新任エキスパートおよび前回の大会に参加していない元エキスパートが完成させる。アクセス・プログラムを完成させ、WSC に継続的に参加しているエキスパートは、再度これを完成させる必要はない）：

- 一般事項の説明
- 倫理、品行、健全性
- 職業評価の入門

加盟国/地域は、新任エキスパートおよび前回の大会に参加していない元エキスパートが、評価基準を完了することにより、大会の４ヶ月前までに（WSC2022 のみ 3 ヶ月前）必須エレメントを完成するよう計画する。評価基準は、技能五輪国際大会の 2 回またはそれ以上の参加経験のあるエキスパートによって見直しされ、要望があれば、個々に更新していく。
要望に応じて、加盟国/地域は、見直しのためにエキスパートの達成記録をワールドスキルズが参照できるようにする。

ワールドスキルズ・アクセス・プログラムの 2 つの必須モジュールを完成しないエキスパートは、エキスパートとしての認可に留まるが、採点プロセスへの参加は認められない。彼らは、職種競技の運営に関与する別の責任を持つ。

補足エレメント（職種競技ディレクターから入手する）：

- 国際的職業基準入門
- ワールドスキルズ評価入門：作成と準備
- ワールドスキルズ評価入門：組織、 実践と品質保証

6.7.5 追加の任意トレーニング

ワールドスキルズ専門性開発の枠組み内で、職業認定アワード（プロフェッショナル・リコグニション・アワード）はエキスパート、そして加盟国/地域には更に幅広く、認証されたより高いレベルのテーマに沿ったモジュールプログラムを提供する。そのテーマとは

- 統率力と管理
- 世界の職業水準
- 職業評価
- 職業教育

6.7.6 責任

技能競技大会の前

技能競技大会に参加する前に、エキスパートが行うべきこと：

- 自身の職務経歴書（CV）（資格、業界および職種競技の経験を含む）を提供される定型書式で完成させ、技術代表に送る。技術代表は大会の６か月前までに当書面を WSI に提出する。新任エキスパートおよび以前に CV を却下されたエキスパートのみが対象で、経験を積んだエキスパートは CV を再度提出する必要はない。
- ウェブサイト www.worldskills.org/expertcentre からエキスパート・センターにアクセスし、全ての関連書類を閲覧する。
- オンラインの一般および職種限定のテストを完了する。
- 倫理行動規程を見直しし、“ワールドスキルズ倫理行動規程：個人の責務”に署名し、規定を遵守することに同意する。
- 競技規則、適切な安全衛生および環境に関する方針とガイドライン、基準と採点ガイド、職種管理計画、職種定義、各職種のインフラリストおよびその他の全ての技能競技大会公式書類を学習する。
- （要望に応じ）職種定義に記されている通り、競技課題あるいはモジュール（複数のモジュール）の提案をする。
- 職種定義の更新のために提案書を準備する。
- 競技規則、職種定義およびその他全ての大会公式文書に応じて必要となる大会前の要件を完了する。
- アクセス・プログラムの２つの必須モジュールを完成する。

技能競技大会にて

職種競技大会にて、エキスパートが行うべきこと：

- 技能競技大会が始まる前、競技課題の詳細、採点に使用する評価基準項目の評価細目および各評価基準項目の各評価細目の割り振る点数を最終版にするために適宜、チーフおよび副チーフ・エキスパートを補佐する。
- 必須の採点（評価）トレーニングに参加する
- （職種管理チームと連携し）職種定義の更新に貢献する。
- （要望に応じて）提出した競技課題あるいはモジュール（複数のモジュール）の発表をする。
- 競技課題の機密を守る。
- 配布された競技課題のケースに応じて、競技課題の 30%の変更を補佐する。（セクション 10.9 を参照）

- （要望に応じて）最終の競技課題を選択し、自身の同国の選手が選択する言語への翻訳を確実にする。
- 採点チームに入るエキスパートは、選手の実技を職種管理チームからの指示に従って客観的且つ公平な方法で評価する。
- 職種競技の準備と実施、次回大会の競技課題の作成や選択に適宜参加する。
- 全選手が、安全衛生および環境規則を認識し、後に大会を通してこれらの規則を忠実に遵守していることを確実にする。

6.7.7 倫理基準

全てのエキスパートは、最高レベルの品位、正直、公平さを持って自らを管理することが求められる。

本件において最も重要な要件のひとつは、競技課題や他の選手が受け取らない事前情報を受け取るなどをして、一定の選手やグループに不公平な優位性を発生させないことである。

6.7.8 工具箱の確認

セクション 9.7.6 参照。

6.7.9 機密

エキスパートは、エキスパートによって合意がなされる場合以外、選手またはその他の人に競技課題について情報を伝えてはならない。

関連する職種定義、競技課題要件および競技規則の当セクションに記述されている職務リストは、エキスパートを完全に拘束するものである。

6.7.10 同国の選手とのコミュニケーションセクション

セクション 7.3.3 を参照。

6.7.11 選手-注意義務および誠実性、公平性、透明性

セクション 7.1 を参照。

6.7.12 競技課題の準備と採点におけるエキスパートの関与

セクション 10.16 を参照してください。

6.7.13 ディスカッション・フォーラム

エキスパート、技術代表、ワークショップ・マネージャ、その他 ― 提携者あるいは招待者 ―は、競技課題の作成や職種競技の全般的改善のためにコミュニケーションを図り、調整するため、ディスカッション・フォーラムを活用する。 フォーラムのリンクは、http://forums.worldskills.org

チーフ・エキスパート ― あるいはチーフ・エキスパートによって指名されたエキスパート ―は、（事務局のサポートを受けて）フォーラムの管理担当者となる。

6.7.14 ディスカッション・フォーラムにおける決定

技能競技大会の準備期間中にエキスパートの多数決によって決まった（セクション 6.5.2 を参照）ディスカッション・フォーラムでのエキスパートによる決定事項は、拘束力を持つ。

特定の職種競技に登録した加盟国/地域の少なくとも 3 分の 2 のエキスパートが投票に参加した時、定足数の成立とする。フォーラムでの告知後、少なくとも２週間は投票ができるようにする。

投票が行われ、定足数に至った時点で、エキスパートがディスカッション・フォーラムに参加していない場合、そのエキスパートは、決定事項の情報を得る権利はあるが、その案件が再度取り上げられたり、投票に持ち込まれたりすることは無い。

決定事項と投票結果は、ワールドスキルズウェブサイト内にある（http://skill-management.worldskills.org）「決定、行動および/あるいは合意の用紙」を使用し、職種競技マネージャあるいはチーフ・エキスパートによって記録される。

6.8 技術代表（TD）

6.8.1 定義

各加盟国/地域は、公式代表（OD）および技術代表（TD）に代表される。尚、OD と TD は、総会においても加盟国/地域を代表する。

各加盟国/地域は競技運営委員会において彼らの代表として技術代表を１名指名する。技術代表が競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに選任された場合、加盟国/地域は、技術代表の業務を行うべき代理の技術代表を指名することができる。

6.8.2 技術代表の就任期間

加盟国/地域は前述の総会の前に技能五輪国際大会のための技術代表を指名しなければならない。

この指名によって、同技術代表が総会での競技運営委員会会議および大会準備週間（CPW）に参加し、また、技能五輪国際大会に出席し、資格を有することを確実なものにする。

6.8.3 大会準備週間への出席

技術代表は、大会準備週間会議に参加し、講習会を含んで技術代表向けにスケジュールされた全ての会議に参加しなければならない。不参加の場合、その加盟国/地域は、次回の技能五輪国際大会で 3 つの職種競技に選手を送り込むだけに制限される。

大会準備週間において技術代表による不参加が２度目となる加盟国/地域は、次回の技能五輪国際大会でいかなる職種競技にも選手を参加させることができない。

このような状況においても、加盟国/地域が職種競技にエキスパートを有することができ、3 種に制限しない。

6.8.4 適時の情報提供と課題の完成

技術代表は、自国の選手とエキスパートへ適時に情報提供をしなければならず、すべての関係者が大会の１ヶ月前までにデリゲート・センターの課題を 100%完了するようにしなければならない。セクション 6.7.4 および 6.7.5 を参照。

6.8.5 選手への情報提供

技術代表は、自国の選手が職種定義関連、競技規則、安全衛生および環境の規則およびその他の大会公式文書を所持していることを確認する必要がある。技術代表はまた、全ての選手がウェブサイトに登録をしたことを確認し、コンペティター・センターwww.worldskills.org/competitorcentre を通じて直接全ての資料を入手できるようにする。

6.8.6 エキスパートへの情報提供

技術代表は、エキスパートに詳細な責任を通知し、必要となる職種定義、競技規則、安全衛生および環境の規則およびその他の大会公式文書を確実に所有するよう確認しなければならない。技術代表は、また全てのエキスパートがウェブサイトに登録をしたことを確認し、エキスパート・センター

www.worldskills.org/expertcentre を通じて直接全ての資料を入手できるようにする。

6.8.7 質の保証

質の保証のポートフォリオは技能競技大会ごとに技術代表に委ねられる。これらは、下記に対する責任を纏めるために、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーにより任される。

- 選手およびチームリーダー
- 安全衛生および環境
- 持続可能性

6.9 技術代表補佐（TDA）

加盟国/地域は、技術代表を補佐する最大２名の技術代表補佐を指名し、彼らの職務を遂行することができる。

6.9.1 資格と経験

技術代表補佐は、エキスパートまたは選手として以前のワールドスキルズ・インターナショナルの経験があることが望ましい。

6.9.2 アクセス、権利、役割および責任

技術代表補佐は:

- 公式パッケージ経由で技能競技大会への公式認定を受け、エキスパートと滞在する。
- 技術代表およびエキスパートと一緒に現地に到着する。
- 大会期間中、競技運営委員会会議および職種管理チーム会議に参加可。
- 自国のエキスパートが居る職種競技ワークショップにのみ入場可。
- 競技運営委員会において技術代表として行動してはならないが、オブザーブのための会議参加は可。
- 全てのディスカッション・フォーラムの閲覧アクセスのみ可。コメントは、技術代表により提示されなければならない。

6.10 公式代表（OD）

公式代表は戦略開発委員会および総会において自身の加盟国/地域の組織を代表する。

公式代表は、戦略開発委員会による重要な決定事項の知識を有する。彼らはまた、総会を介して、また自国の技術代表との連携により組織的および技術的案件の情報を得る。

公式代表は、この情報を自身の加盟国/地域組織やその他の国内関係者に伝達する責任および戦略開発委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーにフィードバックをする責任がある。

6.11 競技運営委員会代理人（CCD）

競技運営委員会代理人は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーにより指名された技術代表であり、競技運営委員会を代表して１～２つの職種競技の管理を監督する。すべての技術代表が競技運営委員会代理人の責任を果たすことは必須要件となる。

6.11.1 資格

競技運営員会代理人として指名される資格を得るためには、技術代表は以下のことが必須となる：

- 訓練セッションへの参加を含め、大会準備週間会議に参加し、求められた競技運営委員会代理人の専門的育成に着手すること。
- 要望された期限までに新エキスパートに向けたアクセス・プログラムを実施すること。そして、
- 技術代表および競技運営委員会代理人のためのデリゲート・センターにおいて準備タスクを 100%完了すること。

6.11.2 責任

競技運営員会代理人は、職種競技マネージャと協力し、職種競技のプロフェッショナルな運営を確実にするべく業務に携わる。

役割の一部として、CCD は、アドバイザー、仲介役、批評する友人として行動し、競技規則の遵守および競技運営委員会の決定事項を確実に行う。

6.12 競技運営委員会代理人リード（CCDL）

競技運営委員会代理人は、より経験のある競技運営委員会代理人を有するチームに分けられる。その経験ある者は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーによって指名され、競技運営委員会代理人リーダーとして活動する。彼らは最大６つの職種競技の管理を監督する。

6.12.1 責任

競技運営委員会代理人リーダーは、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに報告をし、またチーム内の競技運営委員会代理人にガイダンスの提供を行う。

6.13 通訳者（I）

「翻訳者」および「通訳者」とは、文書あるいは口頭で言語の翻訳を行う者を意味する。ワールドスキルズ・インターナショナルは、翻訳および通訳の双方をカバーするために“通訳者”という用語を採用する。

ワールドスキルズ・インターナショナルは、通訳者の価値と重要性を認識している。理由として、通訳者は、エキスパートがコミュニケーションに支障なく共に業務を行えること、また全ての選手が同じ情報の入手を確実に行えることを可能にし、そうすることで、平等な立場で競うことができるようになるからである。

6.13.1 権利

各加盟国/地域には、自己負担で通訳者を連れて行く権利がある。通訳者は、競技課題について訳し伝達し、職種競技中のコミュニケーションの補佐をする。

6.13.2 資格

通訳者は各自が担当する職種競技に適した専門用語の知識を有することが望ましい。

通訳者は競技規則クイズを無事完了していなければならない。

6.13.3 指名

加盟国/地域は、職種競技において、過去大会にエキスパートあるいは選手として参加した者を通訳者として指名してはならない。

過去大会の通訳者がエキスパートになった場合は、母国語から英語への通訳者を指名できない。

6.13.4 配属

通訳者は、加盟国/地域によりプールとして登録される。大会の４ヶ月前に、これらの通訳者は業種に関係なく、加盟国/地域の職種競技にランダムに配属される。機械的なランダムによる配属手配が、登録システム内で可能である。

6.13.5 選手との接触

通訳者はチーフ・エキスパートもしくはエキスパートリードに許可された場合を除き、ワークショップ内で同国の選手と直接接触してはならない。

6.13.6 ワークショップ内の行動

- 同国のエキスパートが初回のエキスパート会議で通訳者を紹介する。

- 技能競技大会の正式な開始後、通訳者は、ワークショップの中央に留まることになる。ーあるいは、チーフ・エキスパートにより指定された他の場所に残る。ーそして、要望に合わせて対応できるよう準備する。
- 大会初日から４日目まで、通訳者は大会開催時間内にワークショップへの出入り時、チーフ・エキスパートもしくはエキスパートリードに報告しなければならない。
- 通訳者はいかなる通訳書類のデジタルファイル、コピー、あるいは原本についても、保管・参照のためにチーフ・エキスパートに提出できるようにしておかなければならない。
- チーフ・エキスパートはこれらの翻訳文書を大会の終了時に事務局に提出する。

6.13.7 情報の守秘義務

選手は、通訳者が業務の結果として得りうる追加情報を受け取ってはならない。

6.14 ワークショップ・マネージャ （WM）

6.14.1 定義

ワークショップ・マネージャは、自身が認定された職種において資格と経験を有する人物であり、以下の責任を負う。

- ワークショップの設営
- 材料の準備
- ワークショップの安全
- 安全衛生および環境
- ワークショップエリアの全般的な整理整頓

6.14.2 指名

大会開催組織が各職種のワークショップ・マネージャを指名する。グローバル・パートナーあるいはイベント・スポンサーから指名することができる。グローバル・パートナーあるいはイベント・スポンサーと競合する企業、代理店で勤務している場合は、指名することができない。

6.14.3 報告

ワークショップ・マネージャは大会開催組織に報告をする。技術的案件についてワークショップ・マネージャはチーフ・エキスパートにも報告する。

6.14.4 特別な手配

ワークショップ・マネージャは競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーおよび技能競技大会ディレクターから大会運営に関する特別な手配および/または状況について概要を伝えられる。

6.14.5 在席

ワークショップ・マネージャはエキスパートが大会の準備を開始する時から大会を通して、全ての採点とエキスパートの他の任務が完了する全行程にわたり、ワークショップ内に在席していなければならない。（通常は**大会４日前から大会終了後第１日目まで**）

6.14.6 中立

選手に対するワークショップ・マネージャの態度は、中立でなければならない。彼らは、競技課題の選定および採点に関する議論に参加してはならず、支障がなければ、採点が行われる際、離席をする。エキスパートは必要な場合、ワークショップ・マネージャと協議することができる。

6.14.7 国内組織と選手との接触

ワークショップ・マネージャは、**選手（またはチーム）の発表、あるいは大会 12 ヶ月前**、いずれか早く訪れるタイミングまで自身の国内組織に関わる全ての活動に参加することができる。その時点で、ワ

ークショップ・マネージャは選手またはチームの職種に特化したトレーニングを中止しなければならない。チームの構築やチーム開発への参加は、たとえば、精神面の強化、チームを団結に導く活動、スポーツ心理学者や栄養士によるプレゼンなどは認められる。

ワークショップ・マネージャは、国内組織の委員会や役員会に残留し、次の周期の大会に向けた地域および/または州大会で審判に参加して良い。

他国の国内組織の選手対象の職種特化トレーニングの補佐を依頼されたワークショップ・マネージャは、技能五輪国際大会の**選手（またはチーム）の発表、または大会の 12 ヶ月前**のいずれか早く訪れたタイミングの後、招待を断らなければならない。他の国/地域における国内あるいは地域大会での審判に招か

れた場合も同様とする。

6.15 ワークショップ・マネージャ・アシスタント（WMA）

6.15.1 定義

競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーおよび技能競技大会ディレクターの同意のもと、大会開催組織は、ワークショップ・マネージャと同様の規則を遵守する１名または複数のアシスタントを指名する。ワークショップ・マネージャ・アシスタントは、ワークショップ・マネージャに報告する。

6.16 ワークショップ・セクター・マネージャ（WSM）

ワークショップ・セクター・マネージャーは、自らが指名された業種における職種のひとつに資格および経験を有する人物である。ワークショップ・セクター・マネージャーは、担当産業セクターのワークショップ・マネージャを監督する責任を負う。

6.16.1 指名

大会開催組織が各産業セクターにワークショップ・セクター・マネージャーを指名する。

6.16.2 報告

ワークショップ・セクター・マネージャーは大会開催組織に報告する。技術的案件についてワークショップ・マネージャはチーフ・エキスパートにも報告する。

6.16.3 中立

選手に対するワークショップ・セクター・マネージャーの態度は、中立でなければならない。彼らは、競技課題の選定および採点に関する議論に参加しない。職種管理チームは、必要な場合、ワークショップ・セクター・マネージャーに相談する。

6.16.4 国内組織と選手との接触

ワークショップ・セクター・マネージャーは、**選手（またはチーム）の発表、あるいは大会 12 ヶ月前**、いずれか早く訪れるタイミングまで自身の国内組織に関わる全ての活動に参加することができる。その時点で、ワークショップ・セクター・マネージャーは選手またはチームの職種に特化したトレーニングを中止しなければならない。

チームの構築やチーム開発への参加は、例えば、精神面の強化、チームを団結に導く活動、スポーツ心理学者や栄養士によるプレゼンなどが認められる。

ワークショップ・セクター・マネージャーは、国内組織の委員会や役員会に残留し、次の周期の大会に向けた地域および/または州大会で審判に参加して良い。

他国の国内組織の選手対象の職種特化トレーニングの補佐を依頼されたワークショップ・セクター・マネージャーは、技能五輪国際大会の**選手（またはチーム）の発表、または大会の 12 ヶ月前**のいずれか早く訪れたタイミングの後、招待を断らなければならない。他の国/地域における国内あるいは地域大会での審判に招かれた場合も同様とする。

6.17 オブザーバーおよびその他のポジション

各加盟国/地域は、自国/地域の負担で、公式オブザーバー（2）および数名のその他のオブザーバーおよび代表者を招待する権利を有する。

公式オブザーバー、オブザーバーおよび下記にリストアップした代表者は、公式イベントならびに公式の宿泊先にアクセスを希望する場合、エキスパートや代表と同様の方法で登録されなければならない。

公式オブザーバー、オブザーバー、その他の代表者およびエキスパートの間の意見や経験の交換についての議論は推奨されるが、ワークショップ（各職種競技場）区域で行ってはならない。

6.17.1 公式オブザーバー（OO）

公式オブザーバーは、ワールドスキルズ・インターナショナル会議および大会開催組織の特別イベントへのアクセスを提供する加盟国/ 地域の国/地域からの要人である。

加盟国/ 地域の公式オブザーバーは２名に限定される。

6.17.2 オブザーバー（O）

オブザーバーは、公式パッケージを持つ見学者である。彼らは特別な立場を享受しない。

6.17.3 加盟国/ 地域支援(MOS)

加盟国/地域組織支援は加盟国/地域チームの運営とサポートにとって重要な加盟国/地域のスタッフのための職位であるが、技能五輪国際大会に関連する公式の職位ではない。

この職位のメンバーは２人に限定される。彼らは(選手を除く)チームを支援することができ、(技術代表補佐ではない)オブザーバー　として認定される。

6.17.4 加盟国/地域支援－選手(MOS-C)

加盟国/地域組織 - 選手の職位は、選手の支援を担当する追加的な職位である。 この職位のメンバーは 2 名に限定される。 彼らは（チームリーダーではなく）「オブザーバー」として認定されており、選手と同じホテルに滞在することができる。

6.17.5 加盟国/ 地域 オブザーバー（MO）

加盟国/地域オブザーバーはオブザーバーのように公式パッケージを受け取った見学者だが、加盟国/ 地域によって予約され、加盟国/ 地域 組織のパッケージの請求書に含まれている。一般的には、加盟国/地域のスタッフおよび主要な関係者である。彼らは特別な地位を享受していない。

6.17.6 コミュニケーション・オフィサー

コミュニケーション・オフィサーは、加盟国/ 地域組織の通信部門に所属する人員である。これらのスタッフはエキスパートや選手と同じホテルに宿泊でき、 「コミュニケーション・オフィサー」 として認定される。

加盟国/ 地域のコミュニケーション・オフィサーのメンバーは 5 名に限定される。

6.17.7 加盟国/ 地域メディア

加盟国/地域メディアは、加盟国/地域組織に所属し、技能競技大会の動画撮影、写真撮影およびレポートに特別な責任を負う者である。 加盟国/地域メディアとして登録されたすべての者は、加盟国/地域メディアとして認定されるために承認プロセスを受けなければならない。

加盟国/地域メディアは 4 名に限定される。

6.17.8 国家技能機構の CEO（CEO NSO）

CEO NSO は、ワールドスキルズ・インターナショナルの加盟国/地域組織である独立した国内技能組織の最高経営責任者（またはエグゼクティブディレクター、事務総長、ゼネラルマネージャー（用語によって異なる））である。彼らは、ワールドスキルズ・インターナショナルの会議や特別な大会開催組織のイベントへのアクセスを与えられる。

6.17.9 技術オブザーバー（TO）

技術オブザーバー（TO）

技術オブザーバーは、次回大会でワークショップ・マネージャになる人々である。彼らは自身が認定されている職種競技で経験を積むためにワークショップエリアに入ることが許可される。技術オブザーバーは各職種 1 名に限定される。

6.17.10 将来の大会開催組織 オブザーバー

将来の技能競技大会組織オブザーバーは、将来の技能競技大会の組織委員会の人員である。将来の技能競技大会組織の各オブザーバーは、それぞれの立場や責任に応じて、様々な時期に開催される様々な大会部門へアクセスするために、特別に設定された認可を与えられる。

6.18 品質監査員（QA）

理事会に指名され報告する品質監査員には 2 つの重要な役割がある：

- 改善の提案を目的とし、競技大会で使用された手順と実施方法について、独自の情報に基づく評価を提供する。
- 判定と正確な集計結果をモニターする。

QA は、技能競技大会中のいかなる問題解決行為にも関与しないが、緊急案件は競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーに委ねる。

6.19 基準評価アドバイザー（SAA）

競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーの推薦により理事会で指名される基準評価アドバイザーは、ワールドスキルズ・インターナショナルの評価システムを監督し、監督内容には、職種定義や採点スキームにおいて明確に定義されているワールドスキルズ職業基準を組み込んだ、ベストプラクティス評価システム開発も行う。
SAA は以下の条件を備えていなければならない：

- 技能競技大会の経験
- 基準評価の幅広く、深い知識
- ワールドスキルズに関する評価準備の経験
- 大会情報システム（CIS）の業務上の知識

6.20 リード・スキルアドバイザー

リード・スキルアドバイザーは、スキルアドバイザーの効率、有効性および職種競技での有用性を確保するため、スキルアドバイザーを統率し、指導および支援する責任を負う経験豊富なスキルアドバイザーである（6.21 を参照）。

リード・スキルアドバイザーは、競技運営委員会管理チームによって任命される。彼らは、技能競技大会ディレクターに直属する。

6.21 職種アドバイザー（SA）

職種アドバイザーは、採点スキームおよび評価作業の作成と運営において、職種管理チームを補佐する。過去大会からの分析を利用し、職種アドバイザーは、最大 10 職種競技まで採点スキームを見直しし、職種管理チーム を補佐する。

職種アドバイザーは、基準評価アドバイザーと相談した競技運営委員会管理チームによって指名される。彼らは、技能競技大会ディレクターに直属する。

6.22 最高経営責任者（CEO）

WSI の最高経営責任者の大会に関する主要となる責任は、大会と関連する活動やイベントの準備および履行を管理することである。これは、理事会、大会開催組織、事務局スタッフ、そして他関係者と相談をしながら行われる。更なる CEO の責任は、運営規則、競技規則および大会イベントマニュアルに明記されている。CEO はまた、大会開催組織と協力して、大会プログラムと関連書類を調整し、作成する責任を負う。

6.23 技能競技大会ディレクター

技能競技大会ディレクターは、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバー、事務局スタッフおよび競技運営委員会と密接に協力をし、職種競技の準備と実施の管理に責任を負う。

6.24 競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバー

競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーは、憲章に従い、職種競技に関連する全ての技術的、組織的案件に責任を持つ。競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーは、技術代表としての役割を担う代理の技術代表を指名できる。

6.25 競技運営委員会（CC）

競技運営委員会は、技術代表から成り立つ。議長は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーの共同責任であり、会議は彼らの招集で実施され、技能五輪国際大会に関する全ての技術的、組織的案件に取り組む。競技運営委員会は、委員長を通じて理事会および総会に報告する。

委員長を通じ、競技運営委員会は、競技規則や職種限定の文書で明記されていない職種競技の運営に関連する案件についての推薦を総会に対し行う。

競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーは、憲章に従い、職種競技に関係する全ての技術的、組織的案件に対する責任を負う。

技能競技大会ディレクターは、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバー、大会開催組織、事務局スタッフおよび競技運営委員会と密接に協力をし、職種競技の準備と実施の管理に責任を負う。

6.26 競技運営委員会管理チーム（CCMT）

競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバー、WSI の CEO、技能競技大会ディレクターが、競技運営委員会管理チーム（CCMT）を構成し、競技運営委員会の業務を調整する。

6.27 事務局

事務局は、大会開催組織と密接に協力をし、技能競技大会の管理サービスと効率的な運営を提供する責任を負う。

6.28 安全衛生および環境の監督チーム

安全衛生および環境の監督チームは、競技規則の安全衛生および環境（セクション 14 を参照）を考慮し、質の高い監督を行う。

7 職種管理

7.1 技能競技大会準備期間

7.1.1 選手を対象とする注意義務

各選手は以下を提供される。

行動/提出書類	責任者
ウェブサイト上の登録をし、選手がコンペティター・センター経由で直接全ての資料にアクセスできるようにする。	技術代表
職種定義、競技規則、安全衛生および環境の方針と規則およびその他の技能競技大会公式文書	技術代表または同国のエキスパート
選手が選ぶ言語での書面による競技課題の指示	同国のエキスパート
競技課題の採点集計様式	職種管理チーム(SMT)
習熟の時間（セクション 7.2.2 参照）	SMT
同国人のコミュニケーション（セクション 7.3.3 参照）	同国のエキスパート
常時、必要な場合の通訳者との接触	SMT, 同国のエキスパート
常時、チームリーダーとの接触	SMT, 同国のエキスパート
職種競技の進行表	SMT
安全衛生および環境の同意書	ワークショップ・マネージャ
倫理行動規程	チームリーダー
コミュニケーション・カード	SMT

7.1.2 選手に対する技術代表の責任

技術代表は（加盟国/地域組織からのサポートで）全ての同国の選手が以下の情報を提供されることを確実にする責任がある：

- ウェブサイト www.worldskills.org/competitorcentre のコンペティター・センターにアクセスし、全ての関連書類を入手する。
- 関係する職種定義とインフラリスト
- 競技規則
- 倫理行動規程
- 安全衛生および環境にかかる書類
- 職種定義に明記されているとおり、技能競技大会の前に配布される競技課題
- 追加の工具または/および求められる器具または材料についての簡単な説明

- 開催国/地域の文化、習慣、法律

7.1.3 誠実さ、公平性および透明性

選手は、技能競技大会中、以下の内容を含み、誠実さ、公平性および透明性を要求する権利を有する：

- 明確で一義的な書面による説明書が供給される。
- 職種定義およびインフラリストに明記された全ての必要な器具と材料が供給される。
- どの選手も、下記を含め、不当な利益を受けることはない。
- 競技課題に関して同じ情報が（選手が選択した言語にて）同時に与えられる。交代制の職種競技では例外があることがある。
- 採点集計様式は全ての選手に対し、同様である。
- 選手が競技課題を完了できることを確実にするために、エキスパートおよび役職員から提供される支援は統一されている。
- 役職員あるいは観客が選手を妨げたり、あるいは手助けしたりするような干渉は無いものとする。
- 技能競技大会において認可を受けた者は、上記の誠実さ、公平性および透明性の原則が常に遵守されていることを確実にする。

7.2 技能競技大会開催時

選手は競技課題およびその採点について自らが選んだ言語にて詳細の情報を得るが、特に以下を参照する。

- 採点集計様式を含んだ評価基準に関する情報。但し、最終の詳細集計様式は含まれない。
- 使用されるまたはされないかもしれない予備の材料や補助に関する詳細情報（テンプレート、図面/印刷物、型紙、計測器など）

選手は技能競技大会の組織について以下の内容を含む詳細情報を得ていなければならない：

- 違反が発生した時の措置を含む安全衛生および環境にかかる同意書
- 昼食時間および競技課題/モジュール完成時間を含む大会の進行表
- ワークショップ入場および退場時間を定める規則と条件に関する情報
- 競技規則および倫理行動規程の違反から生じる制裁措置とペナルティの性質と範囲に関する情報

選手には以下のことを通知する必要がある：

- 選手は開催国/地域の安全規則に従って持ち込む全ての工具、機器、道具および予備の材料の安全な使用に責任を持つ。
- 技能競技大会開始前に、エキスパートが職種定義に従って禁止された材料、工具、あるいは器具が無いか検査を行う。
- 全ての職種競技で毎日の工具箱検査

視覚的コミュニケーションを容易にするため、全ての選手に、片面が赤、もう片面が緑の記号付きコミュニケーション・カードが提供される。

7.2.1 ワークステーションの割り当て

ワークステーションは抽選により選手にランダムに割り当てられる。 この抽選は、技能競技大会ディレクターによって大会の前に、あるいはエキスパートか選手のいずれかによって大会開催中に行われる。

7.2.2 習熟

技能競技大会が開始する前に、選手は最低５時間、最大８時間を使って作業場の準備、工具と材料の確認と準備をする。この規則に対するいかなる例外について、**大会３ヶ月前**までの競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーおよび技能競技大会ディレクターによる承認を必要とする。

エキスパートおよびワークショップ・マネージャの指導の下、選手は器具、道具、材料および手順に慣れ、大会で使用する器具と材料を使った練習を行うための時間と支援を得る。

選手は、質問をする権利がある。作業工程が特に難しい場合、その対象分野のインストラクターが、工程の実演を行い、選手は練習の機会を与えられる。

習熟期間の最後に、選手は習熟合意書に署名をすることにより、全てについて精通したことを確認しなければならない。

7.2.3 計測機器の点検

誤差を避けるため、選手の計測機器は、採点に使用する機器と比較しなければならない。

7.2.4 個人情報の詳細と言語の選択

選手は自身の身元と生年月日を立証するためにパスポートあるいは ID カードの提出を求められる。パスポートまたは ID カードは、大会で代表となる国/地域発行のものである必要はない。選手が競技課題および採点集計様式を受け取る際の希望言語も確認され、記録される。

7.3 技能競技大会開催中

7.3.1 作業の開始と終了

選手は、チーフ・エキスパートが作業開始の指示をするまで待たなければならない。競技は“時間との闘い”であるため、選手はチーフ・エキスパートの終了の指示に従わなければならない。

7.3.2 時間の延長

時間の延長は競技課題あるいは競技課題モジュールの完成を認めるために追加で与える時間を指す。例えば、選手が 22 時間ではなく 25 時間を要することにエキスパートが同意した場合など。日々の些細な超過時間を含めない。

時間の延長がモジュールを使用しない競技課題に必要な場合、チーフ・エキスパートが職種競技マネージャに最初に許可を得、次に競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーおよび技能競技大会ディレクターの許可を**大会２日目の終了時まで**に得なければならない。全ての他の可能な解決策は、時間の延長が与えられる前に調査されるべきである。

延長時間はモジュールを要する競技課題に対し、ある特定の日に与えられるかもしれない。この場合は、チームリーダーに通知される。

7.3.3 同加盟国/地域関係者とのコミュニケーションと接触

競技期間中

職種競技の時間は、競技課題において選手が自身の作業場で使う時間を指す。同国エキスパートとの接触をして良い前提において、同国以外のエキスパートが不在の状況では、競技時間中、同国のエキスパートと接触してはならない。職種競技の時間中、他の選手やゲストとの接触は、チーフ・エキスパートの許可が無い限り、してはならない。

同加盟国/地域関係者間コミュニケーション

技能競技大会の毎朝、あるいはまたは 2 つのグループによる職種競技の各シフトの前に、15 分の時間が同加盟国/地域のエキスパートと選手の間の公式なコミュニケーション（同加盟国/地域人のコミュニケーション）のために予定されなければならない。コミュニケーションは口頭のみである。情報記録または情報交換する道具・機器－ペン、用紙、携帯電話および電子機器－は禁止される。必須の準備を完了していないエキスパートは、まだ同国/地域人のコミュニケーションに関わることができる。 各技能競技大会日の終わりに、任意で 15 分間の時間を予定することができる。

エキスパートは、職種競技の開始前に職種管理チームが同意しない限り、選手の競技課題の解釈を手助けすることを許されてない。上がった質問は、職種管理チームに照会しなければならない。

競技時間以外

選手およびその同国のエキスパートは、競技時間以外のどの時間もコミュニケーションを図ってよい。故障診断にかかる職種競技は例外とする。このような場合、選手はワークショップ内で昼食が提供される。

7.3.4 故障診断が競技に含まれる職種

故障診断は独立して設定される。故障診断は、独立した者により、秘密裏に設定される。エキスパートは設定された故障診断について認識していない。

7.3.5 病気または事故

チーフ・エキスパート、選手のチームリーダーおよびエキスパートは、選手の誰かが病気や事故に遭った場合、速やかに知らされる。職種管理チームは、ロスタイムを補填すべきかどうかを決断する。もし、選手が病気あるいは事故を理由に棄権しなければならない場合、採点は終了した作業に対して行われる。選手の復帰を手助け、ロスタイムを許すべく、あらゆる努力が施される。これは事故/事件報告様式と選手中断報告様式の双方に記録される。

7.3.6 安全衛生および環境

安全に関する指示に従わない選手は、得点の損失を被る。継続的および/または繰り返しの安全を損なう行いは、技能競技大会からの一時的または永久的な選手としての除名という結果をもたらす。エキスパートは、このような減点の尺度を決めなければならず、**大会の１日前まで**に選手に通知しなければならない。

7.3.7 競技課題および採点評価フォームの見直しセクション

セクション 10.10 を参照。

7.4 技能競技大会終了後

7.4.1 意見と経験の情報交換

技能競技大会が終了した時、選手には、他の選手やエキスパートと意見交換や経験の情報交換をするために１時間が与えられる。

7.4.2 梱包

チーフ・エキスパートは工具や器具の梱包について指示を与える。材料、工具や器具、設備を含むワークショップ（作業場）は整理整頓されておかなければならない。

8 職種定義

8.1 内容と適用範囲

各職種競技に以下に示す職種定義がある：

- 職種競技名
- 関連する仕事上の役割または職業
- ワールドスキルズ職業基準
- 評価方法
- 採点スキーム
- 競技課題の形式/構造
- 競技課題の立案、選定、検証、公開および 30%の変更
- 職種管理とコミュニケーション
- 職種限定の安全衛生および環境の要件
- 選手とエキスパートにより準備された材料と器具
- ワークショップで禁止される材料と器具
- 職種限定規則
- 見学者との関りと持続可能性
- 産業界との協議に関する情報

職種定義はまた、通常は以前の大会を参照した職種競技のエリアレイアウトの例を含む。

職種定義は、大会開催組織が提供する材料や器具の定義をしない。それらは、インフラリスト内で定義する。

8.2 優先順位

職種定義のさまざまな言語間の矛盾に関しては、英語版が優先される。

職種定義は、競技規則を覆せない。－ 競技規則が優先される。

8.3 入手方法

職種定義は、**大会の 12 ヶ月前**にウェブサイトで英語版の入手が可能となる。元原稿と以前の職種定義からの変更履歴は、技能競技大会ディレクターから入手でき、加盟国/地域が職種定義を任意の言語へ翻訳することができる。

8.4 更新とその有効性

8.4.1 エキスパートによる見直し

世界中の産業およびビジネスの模範事例（ベストプラクティス）を確実に反映するために、職種定義は各技能競技大会サイクル中にエキスパートが見直しをする。

見直しには以下を含む：

- 新しい工具または器具の追加
- セクション 8.1 に記載した仕様更新に関する推奨
- 職種限定規則の変更に関する推奨（セクション 8.5 参照）

次回大会に向けた職種定義更新に関する推薦内容は、大会終了後第１日目の 16 時までに少なくともエキスパートの 80%に署名されるものとする。このタイミングの例外は、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーあるいは技能競技大会ディレクターによる事前の同意を要する。

TDXX テンプレートが職種定義の作成または更新に使用される。

8.4.2 質の保証、協議、更新

エキスパートの推奨事項が示された各職種定義は、セクション１と２、そしてセクション 3 以降の２つのパートで見直しされる。

セクション１および２の変更に対する推奨事項：説明ならびにワールドスキルズ職業基準は、それらの形式や内容の質について、職業基準の国際的な期待値と比較した検証がされる。質の要件に見合わない内容は、議論および改善のために職種競技マネージャに照会される。

これらの要件が満たされると、各職種定義およびワールドスキルズ職業基準は、各職種競技が象徴する職業における変化や傾向を特定するよう設定された協議のために高レベルの産業や企業の担当者リストに転送される。担当者リストは、リクエストに応じて、主にワールドスキルズの加盟国/地域により作成される。協議への返信は、電子あるいは口頭のいずれかで受領され、メモが取られる。

同時に、各ワールドスキルズ職業基準は、最新の世界的な職業分類およびインテリジェンス（情報）と照合される。これにより、職種定義のセクション 12 に挿入するための職業上の参照事項とともに、追加の市場情報が提供される。

協議プロセスの最後に、全ての回答と情報が照合され、見直され、職種管理チーム（SMT）に転送され、議論および包括の有無について決定がなされる。

同時に、職種定義のセクション 3 以降は事務局により、質が保証され、更新される。

大会開催の 12 ヶ月前までの最終確認とウェブサイトでの公開に先がけて、**大会開催の約 15 ヶ月前**までに、各職種定義の全体的な内容は、最新の職種定義のテンプレートに移行できる準備が整う。

8.5 職種限定規則

技能競技大会では、エキスパートは自身の職種競技に限定して適用される規則を展開する。これらの職種限定規則は、職種定義の更新の一部としてエキスパートの投票により同意を得る。

セクション 8.2 に示されるとおり、職種限定規則は、競技規則を覆せない。－ 競技規則が優先される。

職種限定規則は、職種競技に具体的な詳細を示し、適用範囲を明記する。個人の IT 機材、データ保存装置、インターネット接続、手順とフローおよび書類管理と配布を含むが、これに限定されるものではない。

9 インフラリスト

9.1 定義

インフラリストは、職種競技を運営する大会開催組織によって提供される材料と器具のリストである。

9.2 作成

インフラリストは**大会後 12 ヶ月**で技術オブザーバーが職種競技マネージャと相談の上、見直しし、オンラインで更新される。

ワークショップ・マネージャおよび職種競技マネージャは、大会準備週間（**大会８ヶ月から６ヶ月前頃**）にて職種定義を最終決定する。これ以降、更なる変更はされず、競技課題がインフラリスト内の合意された品目を基本に作成される。

9.3 公開

大会開催組織は、ウェブサイトでインフラリストを適宜、更新する。加盟国/地域は、www.worldskills.org/infrastructure でこの情報にアクセスし、印刷できる。

エキスパートおよび選手に提供される品目 および 彼らのステータスを示す色識別システム

赤ー要請済み

職種競技マネージャが品目を明らかにしたものの確定ではなく、大会開催組織が見込みサプライヤー、もしくはスポンサーと話し合っている状態

黄色 ー 未決定

サプライヤーもしくはスポンサーが大会開催組織によって明らかにされており、大会開催組織は契約の詳細もしくは発注に関して交渉中であり、この段階において未だ何も署名が交わされていない状態。

緑 ー 確定済み

大会開催組織が、スポンサーもしくはサプライヤーとの間に、契約を締結あるいは発注を確定させた状態

シークレット

テスト・プロジェクトの 30%の変更関連する、もしくは単独的に設計されたサプライズ品目につき、これらの品目の詳細はエキスパートおよび選手に公開されない

9.4 材料と器具の提供

大会開催組織は、各職種競技のインフラリストに記載されている全ての材料と器具を提供する。

大会開催組織は、国内の法律と規則を遵守して基礎的な設備を提供し、ー可能な限りー世界中で入手できる業界標準の製品やブランドを選択する。

9.5 不足品

インフラリストに掲載されながら、不足していることが分かった品目（材料および/または器具）は、ワークショップ・マネージャを通し準備ができるよう、その手配を行う職種競技マネージャに報告しなければならない。

インフラリスト内の器具や材料が大会で不足している場合、大会開催組織は、間に合うように確実に補充する責任を持つ。

9.6 代替えまたは追加の材料

選手は当初提供された材料が紛失または破損した場合、代替え品/追加品を要求することができる。その場合、得られた点数からの減点を招くかもしれない。エキスパートは、このような減点の範囲を決め、**大会１日前まで**に選手に通知する。

9.7 選手の個人工具

9.7.1 定義

選手はインフラリストに記載されていない以下のいずれかの器具のみ持参できる。

- 職種定義のセクション 8.0 に記載されている。あるいは
- 大会前にディスカッション・フォーラムでエキスパートから許可されている。（承認は決定事項ログに記載されている。セクション 6.7.14 を参照）

インフラリストに記載され、大会開催組織から提供された器具は、全ての選手によって使用されなければならない。選手は、技能競技大会ディレクターとの間で、選手が重複した工具を持ち込むことができるという合意があり、かつインフラリストにリストされている場合を除き、提供された器具と機能的に全く一致している自身の器具の使用は認められない。

9.7.2 工具箱

選手の工具箱は、職種定義に文書化されているように、競技課題の完了のために選手によって準備される工具および/または器具を収納する入れ物を指す。工具箱は、加盟国または地域から物流会社によって運搬するか、選手が機内持ち込みまたは預け荷物にして運ぶ。

9.7.3 原則

選手の工具箱は、以下の関係者に影響を及ぼす:

- 加盟国/地域 ー 輸送費（量、重さ、輸送方法および距離）
- 大会開催組織 ー 保管費および輸送費は最小限に抑えなければならない。

ワールドスキルズは、選手の工具箱の大きさを定義できない。多くの場合、加盟国/地域あるいは選手がすでに工具箱を購入済み、あるいは特注で作成し、１回の大会から次回大会へ使用し続けるためである。

工具箱の大きさについては、加盟国/地域が責任を負う。

選手から大会に向けて運び込む個人の工具については、エキスパートの知識を尊重する。エキスパートは、工具箱に収納する個人の工具の数と種類（ブランドではない）を明確に定義し、職種定義のセクション８に明確に文書化する。このリストが定義されると、工具箱の最大の大きさが容易に割り出される。

個人の工具の定義された数が尊重され、大会の公平性を保つことが重要である。

9.7.4 工具箱の大きさ

選手のワークステーション内に置いておける工具箱の最大の大きさは、職種定義のセクション 8 で文書化されている。エキスパートは工具箱の大きさを監視することが求められる。

指定された大きさより工具箱が大きい場合は、選手は大会後までワークショップ・マネージャに手伝ってもらい、ワークショップから工具箱を撤去するよう求められる。選手は、許可されている工具箱の大

きさに合う道具と同じ数の道具を使用することが認められる。大会開催組織は、それらの道具の安全を確保しなければならない。

9.7.5 不足した品目

選手個人の道具箱に職種定義に記された品目が無い場合、職種競技マネージャに通知される。時間が許せば、ワークショップ・マネージャは、地元で入手できる代替え品を探す手助けをする。このような品目の費用は、選手負担とする。

9.7.6 工具箱の検査

大会２日前から大会４日目までの毎日、エキスパートチームは、全ての工具箱の中身を徹底的に検査しなければならない。この検査の目的は、選手に不当な優位性を与える可能性のある、正式には認められていない品目を確実に取り除くためである。

工具箱チェックの間、常に選手は在席していなければならない。職種定義に記載されている特別な道具は、認められる。

エキスパートが、疑いのある器具または無許可の器具を見つけた場合、チーフ・エキスパートおよび同国のエキスパートに速やかに報告しなければならない。同国のエキスパートと選手は、細部の提示または説明の機会を与えられる。無許可の品目は、ワークショップから引き取られ撤去されるが、職種競技の終了後、選手に返却される。いかなる状況においても、エキスパートは選手の器具について関与することはできない。選手は同国および他国のエキスパート立ち会いのもと、求められた行動を取らなければならない。

9.7.7 競技会場からの撤去

終了した競技課題の所有者が決定され、供給された器具の検査が完了するまで、工具箱が施錠されたり大会会場から撤去されたりすることは無い。
理由には下記の点が含まれる：

- 価値のある器具は、スポンサー/提供社に返却されるか、教育機関へ寄付される場合がある。
- 検査によって、インフラリストに必要な変更事項の特定ができる。
- 完成した競技課題は、ワールドスキルズ・インターナショナルならびに大会開催組織に所有権があり、両組織の許可無しに撤去してはならない。

10 競技課題

10.1 定義

各職種競技には、選手が職業的卓越性を実演するために取り組む作業内容を説明した競技課題がある。競技課題は、職業の背景、目的、過程、結果を捉え、そうすることで採点スキームの実装をサポートする。

10.2 作業時間と形式

競技課題は、４日間の全期間の間、15 から 22 時間の作業時間を要するよう作成される。（大会１日目から４日目まで）例外が職種競技ディレクターに認められることがある。

競技課題は、ワールドスキルズ職業基準を含んで職種定義内に設定されているとおり、選手が関連する作業上の役割あるいは職業の確かな要件に従って実演し、競技できるようにする。 採点スキームおよび競技課題は、選手の実技が仕事に関係した技能や他でも通用する技能（包括的、多くの専門分野にわたる）に渡って識別できるよう確実に作成される。必要な面積、インフラ、資源は最小限に抑えるよう作成される。

10.3 使用する材料および器具

競技課題は、インフラリストに記載される材料と器具および/または選手が持ち込む材料と器具を使用して競うことを明記し、大会準備週間（CPW）で最終決定される。この後に主な品目の追加を依頼することはできない。インフラリストに示す数量は当初、“選手ごと” “何名の選手ごと”と明記され、いくつかの職種で消費する正確な数量と詳細は、**大会の 4 ヶ月前**に本登録で特定される。

10.4 様式

全ての競技課題（図面および文書）は、WSI の TPXX テンプレート（ウェブサイトまたは事務局から入手可能）を使用したデジタル版で入手可能としなければならない。

CAD の図面は、職種定義で指定されているように、方法 A および/または E において、ISO 128-3：2020 に従って準備される。

次回の技能競技大会用の競技課題案は、事務局にデジタル形式で大会終了後１日目の 16 時までに提出されるものとする。

10.5 第三者の介入

競技課題、採点スキーム、材料と機材リストは第三者が作成する場合もある。

職種競技マネージャが第三者と関わる状況（例えば、競技課題の作成のため、専門的な図面のドラフト作成者、機械設備の配送関係者）の場合、第三者が関わる「前」に、以下の２つの条件を満たす必要がある。

- 技能競技大会ディレクターから書面の承認を得ること。
- 第三者あるいは第三者機関は、倫理行動規程を学習し、WSI 守秘義務およびプロ意識に関する合意書に署名しなければならない。

第三者が作成に着手する際は、職種競技マネージャにテスト基準について、一定のデザインの持続可能性、競技課題の形式についてなどを相談する。彼らは、技能競技大会ディレクターに指定された作成手順に従う。

10.6 品質保証と管理

エキスパートによって作成され開発される競技課題は、少なくとも実行可能であることが期待される。これらは、最も望ましくないオプションである。

以下ののような公平で積極的な品質保証と管理（QAC）手段は、独立したデザイナーによって作成される競技課題に適応される。職種競技マネジャ（SCM）もデザイナーとしての役割を担う。

作成（デザイン）構想：デザイナーは、職種競技が象徴する職業の背景、目的、過程および結果に基づいて、最初に競技課題を概念化しなければならない。 これには、職業における模範事例（ベストプラクティス）に精通していることに加え、調査と分析能力が求められる。 それらの目的は、与えられた制約の中でできる限り最大の真正性を達成することである。デザイナー（SCM であるか否かに関係なく）は、職種アドバイザーをこの過程に関与させなければならない。

見直し：これは、競技課題の作成と開発の最初の運用段階で行う。当初のアイデアや原案を確認することにより、構想を作成に移行したり、期待どおりにタスクを完成したりするための理解力、能力およびリソースをデザイナーが所有しているかを確認することを目的とする。

検証：これは、QAC の中間運用段階である。 与えられた基準、採点スキームおよびインフラリストに対する作成原案の実行可能性、適合性および最適化を検証する。 可能であれば、最終結果に信頼性を与えるため、実地試験またはシミュレーションを含めることを推奨する。

妥当性の確認：これは、QAC の 3 番目であり、最終運用段階である。 明確な証拠を使用して、競技課題の機能と目的に対する適合性を締めくくる。従って、競技課題は機能、構造、あるいは大会２か月前までに完成された証明を伴わなければならない。（証明として、例えば、材料、器具、知識、時間などの制約内で行われる競技課題に即して完成したプロジェクトの写真）

10.7 タイムスケジュールおよび担当者

職種競技マネージャあるいは認証された人物の責任は

- 作成者および開発者の選定
- 見直し担当者、検証者および妥当性確認者の選定
- （妥当な範囲内で）品質保証と管理を含む、競技課題の作成と開発完了のためのタイムスケジュール
すべての独立した競技課題の作成と開発は、関連する専門知識を持った信頼できる個人による独立した指導、見直し、検証および妥当性確認の対象となる。このような個人は、セクション 10.5 に準拠する。職種アドバイザーは、作成の構想段階で関与しなければならない。その後、ニーズ、彼らの専門知識および可用性により、別の信頼できる個人が、QAC の１つ、２つ、または３つ全てのその後の段階を実行することができる。

独立した作成者が SCM の場合、最低限、独立した見直し担当者と検証者を明らかにするよう推奨される。ニーズ、専門知識、可用性に従って、同じ人物が見直しと検証の双方を行う場合がある。隣接した職種競技の SCM にこの役割を満たすよう依頼することがある。グローバル・パートナーあるいはイベント・スポンサーからの職種競技マネージャは、スポンサーの組織内から他の人を使うよう希望する場合がある。職種アドバイザーには、作成の構想段階で重要な役割がある。よって、見直し担当者、検証者、妥当性確認者にかかる手配や身分についても、知りたいと思うことは当然であるが、しかし、職種アドバイザー自身が見直し担当者、検証者、または妥当性確認者として機能することはできない。

独立した見直し、検証、妥当性確認のための諮問表

作成者	作成の構想	見直し担当者	検証者	妥当性の確認者

グローバル・パートナー(GP)あるいはイベント・スポンサー(ES)	職種アドバイザー	GP または ES からの別の人物; SCM	SCM	強制； 職種定義に示すとおり
独立したデザイナー	職種アドバイザー	独立した人物; SCM	SCM	強制； 職種定義に示すとおり
職種競技マネージャ(SCM)	職種アドバイザー	独立した人物 1；隣接する SCM	独立した人物 2; 隣接する SCM	強制； 職種定義に示すとおり
独立したデザイナー 古い組織（SCM ではない）	職種アドバイザー	独立した人物 1；隣接する SCM	独立した人物 2; 隣接する SCM	強制； 職種定義に示すとおり

10.8 選定

競技課題は、いずれかを選択する：

- 前回大会にて、ディスカッション・フォーラムにて、あるいは本大会においての単純なエキスパートの過半数投票　または
- 大会前に技能競技大会ディレクターによって、あるいは大会開催時にエキスパートによって行う無作為抽選

職種定義はこのプロセスで確定する。

競技課題が第三者によって作成される場合は、エキスパートは選定プロセスに関与しない。

10.9 守秘義務

競技課題に関する情報は、２つの鍵となる基本方針にそって公表される：

- 知る必要性 – 課題を実行するために必要になる者のみ
- 時宜 – 必要な時

エキスパート以外の者、あるいは特定グループのエキスパート以外の者は、開発中の競技課題の内容を知る必要は無い。つまり、エキスパートは、技能競技大会ディレクターの事前承認無しに、どのような手段を用いても自国/地域または産業界の他の人物を競技課題作成に**介入させてはならない**。（セクション 10.5 を参照）

ワークショップ・マネージャは、技能競技大会用の材料や器具を準備する目的で、事務局へ競技課題の入手を依頼できる。技能競技大会ディレクターは、いつこの情報が公表されるか正確に見極める。一旦エキスパートが技能競技大会での競技課題の準備業務を開始すれば、全ての書類、図面、記録、ラップトップ、メモリースティックおよびその他の記録機器は、ワークショップに残し、公表まで提供される保管庫に安全に入れておかなければならない。

安全と守秘義務に関する責任は、エキスパートに委ねられる。安全を損なうことは、WSI の品位ならびに該当するエキスパートの所属国/地域組織の信用失墜に繋がることになる。

10.10 競技課題の公表と非公表

10.10.1 概略

	公表する非モジュール形式の競技課題	公表するモジュール形式の競技課題	公表しない非モジュール形式の競技課題	公表しないモジュール形式の競技課題
エキスパートによる承認	前回大会の終了後第１日目あるいは職種定義に従って	前回大会の終了後第１日目あるいは職種定義に従って	第三者が作成	第三者が作成
選手への公表	速やかに		大会前は非公表	
採点集計様式	大会前は非公表		大会前は非公表	
30%の変更	第三者あるいはエキスパートにより技能競技大会にて変更。大会開催３日前当日あるいはそれ以前。		無し	無し
選手への提供	大会開始前に速やかに	モジューごとに大会 １日目、２日目、３日目、４日目に要望によりモジュールごと	大会開始前に速やかに	モジュールごとに大会１日目、２日目、３日目、４日 目に要望によりモジュールごと
採点集計様式	大会開始時または各モジュールの開始時に選手に提供（職種競技の形式による）		大会開始時または各モジュールの開始時に選手に提供（職種競技の形式による）	

10.10.2 競技課題の公表

競技課題の公表スケジュールは、職種定義に明記されており、また、エキスパート作成か独立した第三者作成かによって異なる：

- 次回大会に向けた競技課題は、**大会終了後第１日目**に選ばれ、速やかに公表される。
- 技能競技大会にて 30%の変更が行われる場合がある。
- 独立して作成された 30%変更がされる場合がある。
- **大会 4 日前、大会 2 日前、あるいは大会 1 日目**まで全く公表しない課題があり、選手に対して日々追って公表される。
- モジュール競技課題は、規程に従って、**大会 1 日目、2 日目、3 日目、そして 4 日目**に、モジュール別に公表される。

公表の際、各競技課題は採点集計様式とともに公表される。

競技課題が事前に選手に公表される場合、エキスパートはあるいは独立した第三者は、大会開催組織によって提供された器具および材料の範囲内で作業内容の最低 30%の変更をする。本件は安全を確保するため、そして選手が競技課題に関与する特定の課題に向けた準備を事前に行うことがないよう、阻止するためである。

この 30%の変更は、エキスパートによって開発された場合、大会３日前（その当日を含む）までにエキスパートの投票によって決定される。作業内容の変更の証拠は、技能競技大会開催の前に文書化され、職種競技マネージャによって承認されなければならない。30%の変更がエキスパートに通知され次第、選手全員はその詳細を知らされる。

独立した人物が 30%の変更を開発した場合、技能競技マネージャは、技能競技大会の開始前に作業内容における変更を承認しなければならない。この 30%の変更は、**技能競技大会第１日目**より前には公開しない。

30%の変更に続いて、選手は、採点集計様式のみを受け取る。選手は、メジャメント(測定)＆ジャッジメント

（判定）採点様式の詳細を受け取らない。

エキスパートは、50%プラス１名の過半数によって採点集計様式を承認する。

10.10.3 公表しない競技課題

競技課題および採点スキームが独立した第三者によって作成され、大会に先立って公表されない場合、エキスパートは採点集計様式の承認は不要となる。

10.11 競技課題および採点における選手の打ち合わせ

競技課題には２つのタイプがある：

- 非モジュール形式の競技課題は、競技課題全体が特定の段階およびフェーズにおいて採点されるものである。
- モジュール形式の競技課題は、完了する度に採点されるモジュールに分割されている。

10.11.1 非モジュール形式の競技課題

競技課題一式、関連する説明資料および評価基準に関する情報（採点集計様式）は競技が始まる直前に、選手へ提供される。選手はこれらを最低１時間かけて確認し、質問をすることが許される。この時間は、競技時間に含まれない。

10.11.2 モジュール形式の競技課題

選手は、各モジュールの開始直前に、各モジュールの関連文書および説明資料を提供される。文書全体として、採点集計様式（評価基準に関する情報）は、最初のモジュール直前に選手が入手できるようにする。職種管理マネージャあるいは各モジュールに向けて指名されたエキスパートは、要望があった場合、選手に説明を行う。選手はこれらを最低 15 分間確認し、質問をすることが許される。この時間は競技時間に含まれない。

10.11.3 メジャメント採点とジャッジメント採点

選手には、メジャメント（測定）＆ジャッジメント（判定）採点様式の詳細は配布されない。

10.12 翻訳

エキスパートにより作成された、30%の変更を含む競技課題は、準備期間中（**大会開催３日前から開催１日前**）、エキスパートによって確定される。エキスパートは競技課題および評価基準を精査し、同国の選手が選択する言語への翻訳を手配する。

独立したデザイナーによって作成された競技課題の翻訳を必要とする場合、職種管理計画内で時間が認められる。

10.13 知的財産の共有

エキスパートによって選択され、大会に適していると公表された競技課題は、加盟国/地域が今後使用するために事務局が保管する。これらの競技課題は、事務局にデジタル形式で提出される。

10.14 終了した競技課題の保全

関連する職種競技マネージャによる承認が無い限り、全ての採点が完了する前に終了した競技課題の撤去あるいは廃棄およびワークショップや設備の解体は開始してはならない。

10.15 終了した競技課題の所有権

終了した競技課題は、大会開催組織および WSI の所有財産であり、両組織の承認無しに大会会場から持ち出したり、また、いかなる方法においても利用したりしてはならない。

10.16 競技課題準備と評価へのエキスパートの参加の概要

<table>
<tr><th>エキスパートの状況</th><th>競技課題案提出要件</th><th>競技課題選択と30% 変更に関する同等の投票権</th><th>競技課題改善への積極的参加</th><th>職種定義に関する同等の投票権</th><th>採点に関して積極的参加</th><th>ディスカッション・フォーラムへの積極的な参加</th></tr>
<tr><td>義務である競技課題を持参しないエキスパート</td><td>あり</td><td>無し（注2）</td><td colspan="3" rowspan="4">あり
エキスパートテストの合格が条件</td><td rowspan="4">あり</td></tr>
<tr><td>競技課題の持参を義務づけられないエキスパート</td><td>無し</td><td>ありエキスパートテストの合格が条件</td></tr>
<tr><td>義務である 30%変更案を持参しないエキスパート</td><td>－</td><td>無し（注3）</td></tr>
<tr><td>30%の変更案の持参を義務づけられないエキスパート</td><td>－</td><td>ありエキスパートテストの合格が条件</td></tr>
<tr><td>選手の居ないエキスパート（注 3）</td><td colspan="6">選手の居るエキスパートと同様</td></tr>
<tr><td>必須のアクセス・プログラム・モジュール、準備要件、必須の評価トレーニングを無事終了していないエキスパート</td><td>－</td><td colspan="4">無し</td><td>あり</td></tr>
</table>

〔注 2〕エキスパートの同意を条件として、競技課題を持ち込まない新エキスパートは、エキスパート試験に合格した場合、競技課題の選択および 30%変更の投票に参加できる。

〔注 3〕選手のいないエキスパートは、選手のいるエキスパートと同様の権限と責任を有する。

11 評価と採点

11.1 解説

ワールドスキルズ評価戦略は、ワールドスキルズの評価において確認されるべき指針や技法を確立するものである。

技能五輪国際大会における評価は、下記に定義されたとおり、主要な２種類の方法 ー メジャメント（測定）およびジャッジメント（判定） ー を含む。どちらの方法にも明確な基準が不可欠である。評価基準は産業界における実際の模範事例（ベストプラクティス）を参照すること。

評価を支援する主な方法は、関連するワールドスキルズ職業基準、採点スキーム、競技課題、大会情報システム(CIS)である。

11.1.1 定義

評価は、広義の用語であり、採点を含む。使用される方法と、結果の両方を示す。

採点は、スケールまたは数値の割当を示す、より狭義の用語である。

更なる詳細は、〈WSI_SC_guidance_marks_scores_points〉を参照のこと。

11.2 ワールドスキルズ職業基準

それぞれの職種競技には、ワールドスキルズ職業基準（WSOS）が存在する。基準には、知識、理解、技能および技術的かつ職業的実績に関する国際的な模範事例（ベストプラクティス）を実証する能力が明示されている。

11.2.1 重要度

ワールドスキルズ職業基準は複数のセクションに分割され、各セクションには相対的重要度を示す合計評点の割合が割り振られる。これらのセクションは、採点スキーム内の採点の割り当てを決定するために使用される。ワールドスキルズ職業基準に記された重要度のバランスが維持されることを条件として、5%の範囲で誤差が許容される。リードスキルアドバイザーはいかなる変更についても必ず承認することとし、バランスが維持されていることを確認する必要がある。

11.3 評価方法

2 通りの評価方法が存在する：メジャメント（測定）およびジャッジメント（判定）

メジャメント(測定)は、正確性や精密度および客観的に測定できるその他実技を評価するために使用される。曖昧さを回避する必要がある場合に使用される。

ジャッジメント(判定)は、外部の基準を適用した際に、わずかな見解の相違があるかもしれない実技の質を評価するために使用される。

メジャメント(測定)およびジャッジメント(判定)は共に、その評価と採点が、業界やビジネスにおける模範事例を基にした、明確な外部基準に準拠するものであることを実証せねばならない。いかなる評点の付与においても、受け入れ可能な業界標準に到達していることが必要である。

11.3.1 基準

全ての評価に対して採点スキームに設定された明確な基準があり、それに従って実践されなくてはならない。全選手はこの規準に照合して評価される。評価や採点を目的とした選手の順位付けは、いかなる状況においても認められない。

11.4 評価トレーニング

エキスパートのための必須評価トレーニング(MAT)はトレーニングとテストの両方で構成されおり、質の高い評価であるか、専門的であるか、また、規則と手順に従っているかを確認する。トレーニングは大会直前(**4 日前～1 日前**)に実施されることになっており、以下の内容から成る：

- 評価および採点、彼らの管理能力、組織力ならびに展望に関する説明
- 専門知識を要するとされる職務領域におけるエキスパートの専門知識テスト
- 基準および記述の正確な解釈を含む、国際基準を満たす評価能力と採点能力を問うエキスパートの理解度テスト

11.5 採点スキーム

採点スキームは、職種定義に規定されるワールドスキルズ職業基準に基づいて競技課題が評価されるための基準を定める。

11.5.1 採点スケール

各職種競技の採点スキームは 100 点満点のスケールを用いる。

11.5.2 評価基準

採点スキームの主項目は評価基準である。通常は 5 つから 9 つの基準がある。これらは、ワールドスキルズ職業基準あるいは競技課題のセクションと必ずしも同様である必要はない。評価基準の構成方法に関わらず、評価基準項目(副評価基準)の評価細目の評点配分は、職種のためのワールドスキルズ職業基準の比重を反映するものとする(セクション 11.2 を参照)。

11.5.3 評価基準項目（副評価基準）

各基準は 1 つ以上の評価基準項目(副評価基準)に細分化される。採点様式はこの評価基準項目(副評価基準)によって構成されている。各評価基準項目(副評 I 価基準) に 1 つの採点チームが割り当てられ、各選手につき、それぞれの評価基準項目(副評価基準)における全評価細目を採点するものとする。

11.5.4 評価基準項目（副評価基準）の評価細目

各評価基準項目(副評価基準)は 1 つ以上の評価細目に細分化され、それぞれに評点が配分される。評価細目は、採点方法を反映し、メジャメント(測定)またはジャッジメント(判定)に分類される。各評価細目は、ワールドスキルズ職業基準の内 1 つ（1 つのみ）のセクションと関連していなければならない。採点スキームは

100 から 200 の評価細目を有するのが理想的である。100 以上でなければならず、250 を超えてはならない。

11.5.5 評点配分

2 点(合計評点の 2%と同様)より上の評価細目は存在しない。

11.5.6 採点様式の準備と使用

大会情報システム（CIS）は、評価基準項目(副評価基準)ごとに 1 つの採点様式を作成する。

この採点様式は以下の内容を含む：

- 全ての評価細目はジャッジメント(判定) あるいはメジャメント(測定)、もしくはその両方で評価される。
- 採点基準を含んだ、評価基準項目(副評価基準)の評価細目の詳細
- 各評価細目の最大得点
- 副評価基準に対する評価採点チームの責任

バイアスの可能性を排除するために、評価細目ごとの最大評点は、採点チームによって使用される前に可能な限り採点様式に表示されないよう削除される。

11.5.7 横向き採点様式

横向き採点様式は、1 枚のページに 2 人以上の選手の点数が記録される場合に使用される。横向き採点様式は、ジャッジメント(判定)およびメジャメント(測定)両方の得点および評点を記録するために使用される。横向き採点様式を使用する場合、CIS へのデータ入力のため、各エキスパートの評点と得点全てを CIS 作成の縦向き採点様式へ転記する必要がある。 転記の際、採点チームが不在の場合は採点や得点を変更することはできない。

11.5.8 メジャメント(測定)のための CIS による計算の利用

メジャメント(測定)で採点する評価細目の作成の際、選手の評点を決定するための計算が必要な場合は、CIS 計算機能を使用しなければならない。スプレッドシートなどの外部ツールは使用できない。

11.5.9 採点スキームの変更

CIS 内で合意され最終決定されると、例外的状況下においては、競技運営委員会のリーダーシップの責にある理事会メンバーは、職種管理チームより**競技第１日目前まで**に提出される請求様式の書面に基づいて、変更に同意することができる。 ある側面の意図が変更されない場合、タイプミスや些少の誤りは CIS 内で修正される場合がある。

11.6 評価および採点の手順

11.6.1 競技の開始

競技開始に際し、CIS が使用可能になる前に、職種競技マネージャは職種アドバイザーに全ての準備作業が完了していることを確認すること。

11.6.2 評価採点チーム

以下において、規則では、「エキスパート」はジャッジおよび採点チームのメンバーを指すこととする。他の資格のある独立した者がジャッジとして行動する場合があるため、この点は標準ではあるが、必ずしもそうであるわけではない。規則 11.6.5 を参照。

職種管理計画には、競技課題と採点スキームの進行状況を示し、評価と採点に十分な時間を割り当てなければならない。 必須の評価トレーニング（規則 11.4）および事前の評価により、関連のある専門知識と対応可能性に基づき、エキスパートを要件に適合させることができる。

すべてのエキスパートが評価し、採点することは予想されない。 競技課題と採点スキームは、すべてのエキスパートが同程度に採点するか、そうならないかといった調整をしてはならない。 採点に選ばれなかったエキスパートは、他の責任を担う。 エキスパートは、採点を望まない場合は SMT に通知することが求められる。

各採点チームは、３名のエキスパートで構成される。

これら３名のエキスパートは、以下の任務も負う ４人目のエキスパートの監督の下におかれる：

- ジャッジメント（判定）による得点調整および
- 同国者による採点を避けるべく、エキスパートを交代させる。

評価および採点手続きが効率良く遂行されている状態であれば、4 人目のエキスパートの監督の下、観察およびトレーニングを目的とし、1 人以上のエキスパートを採点チームに追加することが出来る。

11.6.3 評価および採点の二重実施

職種管理チームは、メジャメント(測定)における評価および採点を二重で実施しても良い。その場合、

- メジャメント(測定)の場合: ２人のエキスパートからなる 2 つのチームが、評価者および採点者として独立して行動し、評点を比較する。
- ジャッジメント(判定)の場合: 得点を比較する前に、３人のエキスパートからなる２つのチームが評価者および採点者として独立して行動する。

差異がある場合、採点の意見の一致と得点の妥当性のため、該当する評価細目を再度評価、採点する。

11.6.4 特定の事例のためのバリエーション

非常に少数の職種競技において、ジャッジが以下のいずれかをする必要がある場合がある：

- 全て選手が同時に行う行動を観察し、採点する。あるいは
- 単独の採点チームが全選手の作業を採点できないような場合において、採点をする。

これにより、不整合、信頼性の欠如および不公平のリスクが発生する。

上記オプションを精査するにおいて、これ以上の適切な代替案が無い場合、競技運営委員会管理チーム（CCMT）の承認を得て、関連する職種アドバイザーは、２層採点の作成と実施を監督する。その内容は：

- 関係するジャッジのための追加事前説明がある。
- 監督する採点チームは、関係する採点チームの採点実施および結果を観察し、サンプリング、検討および異議申し立てをする。
- この例外措置を 2 回以上適用する必要がある場合、チームを交代する。

これは、標準化を確実にするためである。SMT は、例外の必要性が求められ次第、上記の理由の 1 つにより、規則 11.5.3 を順守できないことを職種アドバイザーに警告しなければならない。

11.6.5 独立した評価と採点

評価と採点の質向上は今後も焦点となる。独立した競技課題および採点スキーム開発に沿って、独立評価は以下のために利用可能なオプションである：

- 採点チームのための基準設定および助言
- 直接的な評価と採点

独立した評価者は技能競技大会ディレクターによって承認され、以下の点を前提とする：

- ワールドスキルズ倫理行動規程と守秘義務およびプロ意識に関する合意書への、書面における誓約
- 評価に関連するアクセスプログラムエレメントの完了を含むトレーニングおよび説明

11.6.6 メジャメント（測定）による評価の手順

メジャメント(測定)の採点チームが使用する採点決定方法は以下のいずれかである。

- YES または NO の 2 択 ,もしくは
- 指定の基準に一致し、前もって決定した尺度に合致するか否か

上記方法のどちらを使用するかに関しては、業界およびビジネスにおける模範事例に対応する必要がある。

11.6.7 ジャッジメント（判定）による評価の手順

得点は、ジャッジメント(判定)によって採点する副評価基準に対し、1 名のエキスパートにより付与される獲得点である。得点は 0 から 3 点の範囲でなければならない。付与される**評点**は、採点チームの 3 名のエキスパートが与えた得点から計算される。

3 名のエキスパートで構成される各チームは、評価基準項目(副評価基準)の各評価細目において選手が該当する課題を達成したか否かを採点する。0 から 3 点の得点は、以下の通り、業界およびビジネスに関連付くものである：

- 0 ： 業界水準以下、または未実施
- 1 ： 業界水準を満たしている
- 2 ： 業界水準を上回っている
- 3 ： 業界が期待する水準と比較し優秀または極めて優れている

採点スキームの（および、採点様式に記録される）基準は上記の基準を文脈に含み、採点チームのための基準点として機能する。

採点様式が紙の場合、以下の手順が採られる：

- 各エキスパートは、選手の実技を基準に照らすことにより、副評価基準に対し、単独で 0 から 3 の得点を決定する。
- 各エキスパートは、適切なフラッシュカードを提示用に準備する。
- 得点記録を調整するエキスパートによる指示があれば、3 名のエキスパート全員が同時に各自のフラッシュカードで得点を提示する。
- 1 つの評価細目における得点の開きが 2 点以上の場合、エキスパートはその評価細目について再採点しなくてはならない。
- 得点の開きを 1 点以下に縮めるため、基準に対する簡単な議論を行うことができる。
  しかし 、
- 基準は、採点スキーム決定の際に合意されなければならず、評価および採点中に変更してはならない。

11.6.8 CIS への評点の入力

最終的に合意された得点を記録するために、(原本となる)手書きの採点様式（マークシート）が作成される。これは CIS へのデータ入力に使用され、追跡調査用として保管される。

手書き様式（紙）を使用せずに採点する場合、得点または評点を付与するエキスパートがタブレットあるいはコンピュータを使用して CIS に直接得点を入力する。

11.6.9 評価および採点の順序

全ての評価および採点を外部基準と照合するため、評価および採点（ジャッジメント/メジャメント）の実施順序について考慮する必要はない。但し、不一致や不公正な採点行為に関する認識があった場合、職種アドバイザーは、ジャッジメント(判定)をメジャメント(測定)に優先させる決定をすることができる。

11.6.10 選手の前で行う評価または採点の禁止

職種定義で規定されていない限り、選手の立ち会いがある中で評価および採点を行ってはならない。

11.6.11 各日の評価と採点

各評価基準細目（副評価基準）の評価日は CIS に定義される。

指定日に採点されることが定められた評価基準細目（副評価基準）の得点および評点は、翌日正午までに CIS へ入力、エキスパートに承認ならびに署名されねばならない。CIS の署名様式は、**同日 13 時まで**に CIS チームから入手する必要がある。

但し、**大会 4 日目(C4)**は例外である。C4 は **22 時まで**に評価および CIS の入力を行う必要があり、また**大会終了後 1 日目(C+1)10 時まで**に CIS チームより承認と署名を受けなくてはならない為である。

11.7 評点の終了

11.7.1 様式の確認

評価の進行とともに、得点および/または評点を手書き採点様式が使用される場合、それらから CIS に入力する。あるいは、タブレットまたはコンピュータを使用し、得点および/または評点を CIS へ直接入力することが可能であり、この場合、採点様式は不要となる。

指定の採点日の副評価基準の採点が全て終了すると、チーフ・エキスパートにより、各副評価基準の CIS 入力が締め切られる。

CIS 入力が締め切られると、当該日の全採点様式(採点集計様式を含む)の PDF ファイルが、関係する各作業場の CIS コンピュータのデスクトップ上のフォルダに作成および格納される。

各採点日の採点用紙の PDF は、自国のエキスパート以外のエキスパートが、手書きの採点が正しく CIS に転記されているかをチェックする。選手と加盟国/地域の名称は伏せる。懸念がある場合は、職種競技マネージャに報告する。手書きの採点様式が使用されていない場合、エキスパートは与えられた PDF を見直しする必要は無く、それは、この再確認作業の主な目的が、手書きの採点様式と CIS に入力された評点との不一致を発見し、修正することであるためである。

エキスパートが自国選手の評価および採点に対するチャレンジ（異議）を望む場合、職種競技マネージャにその理由を報告する必要がある。正当なチャレンジと見なされれば、職種管理チームが、必要に応じた再評価や再採点の実施を含んだ問題解決に当たる。評点を修正する必要がある場合、該当する評価細目を職種アドバイザーが解除し、修正後に再びその評価細目を締め切る。該当する評価細目の採点グループの各エキスパートは、修正合意確認書類に連署しなければならない。

エキスパートは、当該採点日の印刷された採点様式で採点入力が確認されたことの承認を確定するため、採点入力承認様式に署名しなければならない。

チャレンジ（異議）が提起された場合、それが処理されるまで署名は据え置かれる。評点の変更は、全て、手書き様式あるいは CIS 作成の様式に署名され、書面での記録を残しておく。

その後、署名済みの採点入力承認様式が CIS チームに届く。

この手順の完了後、承認された評点に対する更なる異議は認められない。

11.7.2 評価および採点の終了

評価および評点の CIS への入力は**大会最終日の 22 時まで**に終了していなければならない。

すべての評価の合意と承認は、**C+1 の 10 時まで**に CIS チームが受け取らなければならない。C+1 のワークショップに参加していないエキスパートは、選手の採点様式を確認、合意および承認する権利を失う。このような場合、エキスパートの欠席は文書に残され、選手の結果は SMT によって承認される。すべての紛争が終息した後にエキスパートが選手の結果の承認を拒否した場合は、そのことが文書化され、結果は SMT によって承認される。

閉会式の前に、エキスパートに職種競技の結果が示されることはない。

11.7.3 競技の終了

職種管理チームが技能競技大会サポートに提出した必要情報と書類の全てに対し、技能競技大会サポートがそれら全ての受領を証した署名入り確認書を職種管理チームが受け取るまで、エキスパートは競技の任務から解任されない。

11.7.4 競技情報システム（CIS） による採点

四捨五入

評価基準項目(副評価基準)の各評価細目に付与された評点は、小数点第 2 位までに四捨五入される。小数点第 3 位が 5 以上の場合は切り上げ、5 未満の場合は切り捨てとなるため、 1.055 は 1.06 に、1.054 は 1.05 となる。

WSI スケール

ワールドスキルズは、全職種競技の結果を共通の尺度で測るためにポイントを利用する：共通の尺度である WSI スケールは職種競技間の比較を可能とする。100 点満点に基づく結果は、WSI スケールの比率に従い、CIS によって標準化される。この手順により、各職種競技における中央値の得点は 700 点に設定される。

11.7.5 エラーへの対処

あらゆる入力エラーは、発見次第、直ちにリードスキルアドバイザーに報告される。エラーの発生が確認された場合、該当部分の評点を CIS に再入力し、採点様式と採点集計様式を新たに印刷し、それぞれの採点チームのエキスパート全員に確認、署名してもらう。最初に入力した様式と差し替え様式の両方を監査の追跡調査用として保持しておく必要がある。

結果に関する不服申し立ては、**競技終了後第 1 日目の 10 時まで**受け付けられなくてはならない。総会によって可決されると（結果を確認し確定する競技運営委員会の後）、その結果は最終的なものであり、それ以上の不服申し立ての権利は無くなる。選手の受賞を剥奪するような重大なエラーが発生したという明確な証拠が、最高経営責任者あるいは競技運営委員会リーダーシップに責のある理事会メンバーに、閉会式から 1 週間以内に提示された場合、その不服申し立てが検討される。このようなケースでは、最終決定は更に不服申し立てから 1 週間以内に理事会によってなされる。注意点：採点あるいは採点の入力に関する件は、**競技終了後第 1 日目の 10 時前**に同国のエキスパートにチェックし、署名する責任があるため、不服申し立ては検討されない。（11.7.1 を参照）

11.8 終了した競技課題の保全

採点が終了し、全選手の採点集計様式に署名が済むまで、終了した競技課題は安全に保管されなければならない。技術的理由でこれが不可能な場合は、競技運営委員会代理人の監督の下で写真が撮影される。

これらの写真は、最初の評価の有効性を確認するために必要な証拠と成り得るため、保管中の評価関連書類と共に安全な場所に保管されなければならない。

11.9 結果の公表

加盟国/地域には、全選手、それぞれのポイント、獲得メダル・敢闘賞を一覧にした各職種競技の大会公式結果に加え、「平均メダルポイント順」、「平均点順」、「合計メダルポイント順」、「合計点順」、「合計メダルポイントと平均メダルポイント付記のアルファベット順」で加盟国/地域間の比較を表にした一連の結果が配布される。

公式職種の初回登録に必要な最低登録加盟国/地域数(現在 6 の加盟国/地域が登録済。3.7.1 を参照)に満たない職種競技は、加盟国/地域比較（成績） 報告書から除外する。これらの職種競技は、他の職種競技との間での信頼に足る比較のための十分なデータを提供しない。

これらは開会式当日の競技運営委員会会議および総会で技術代表と公式代表に渡されるが、各代表はそれらの結果を閉会式終了後まで誰とも共有してはならない。

公式結果は WSI のウェブサイトに掲載され、メダル受賞者は閉会式（C+1）の終了時に発表される。

11.10 メダルと賞

11.10.1 金メダル、銀メダル、銅メダル

全ての公式職種において、ワールドスキルズ・スケールで第 1 位、第 2 位、第 3 位の選手には、順位に応じ、それぞれ金メダル、銀メダル、銅メダルが授与される。

11.10.2 同順位メダル

ワールドスキルズ・スケールにおいて２名あるいはそれ以上の選手の間の差が２点以内の場合、下記の説明のとおり、同位のメダルが授与される。変更については、大会結果が可決される会議において、競技運営委員会が推奨し、総会が可決することができる。

金メダル

- 金メダル 2 個、銀メダルなし、銅メダル 1 個以上
- 金メダル 3 個以上、銀メダルなし。さらに、金メダリストの最低点と次点の選手の得点の差が 2 ポイント以内の場合は、銅メダル 1 個以上。

銀メダル

- 金メダル１個、銀メダル２個以上。さらに、銀メダリストの最低点と次点の選手の得点の差が２ポイント以内の場合は銅メダル１個以上。

銅メダル

- 金メダル１個、銀メダル１個、銅メダル２個以上。

11.10.3 敢闘賞

700 ポイント以上を獲得したものの、メダルを授与されなかった選手には敢闘賞が授与される。

11.10.4 ベスト・オブ・ネイション

通常、最高点もしくは、その国/地域のチームの最高位のメダルを獲得した選手は、「ベスト・オブ・ネイション」賞が授与される。加盟国/地域の技術代表がこの決定を行う。

ベスト・オブ・ネイション賞は、２種以上の職種競技に選手が参加している場合にのみ授与される（運営規則 6.1.2 を参照）。

ベスト・オブ・ネイションには、職種限定規則または競技規則の違反選手、600 点または全ての職種競技を通して最低スコアの選手の点数より５ポイント低いかのいずれか低い方を受け取った選手、ならびに/あるいは倫理行動規程に違反した選手がなることはできない。

11.10.5 アルバート・ビダル賞

技能五輪国際大会において、最高総合得点を獲得した選手は、アルバート・ビダル賞が授与される。

初めての職種競技に必要とされる登録加盟国/地域の最少数（現在 6 の加盟国/地域が登録済。3.7.1 を参照）に満たない職種競技は、アルバート・ヴィダル賞の対象とはみなされない。

11.10.6 電子参加証明書

メダルや特別な賞が授与されない選手は、電子参加証明書を授与される。

12 問題と紛争解決

ワールドスキルズの場合、問題と紛争解決は、技能五輪国際大会の準備、管理、運営の間の簡単な疑問解決から倫理行動規程の重大な違反の対処に至るまでの範囲を網羅する。問題と紛争解決のプロセスは、これらの状況に至った時に、効率的、効果的、そして時宜な決断を導くために作成された。それは、技能五輪国際大会の開始６日前から終了後１日までの期間、効力を及ぼす。この期間は、問題と紛争解決プロセスを適用するための“イベント期間”として認識される。

イベント期間内は、関係する当事者の間の相違が、公平に、友好的に、そして時宜を得た方法で結論に至らない場合、このプロセスに従わなければならない。競技規則および倫理行動規程に違反したことを示す確かな証拠があると当事者が確信している場合も、このプロセスが適用される。

12.1 方針と規則階層

ワールドスキルズ、その加盟国/地域およびその活動の全ては、憲章、運営規則および倫理行動規程や競技規則のような公式文書によって、規定される。 倫理行動規程は、ワールドスキルズの価値観と倫理的基盤、更には組織の日常業務において倫理的行動がどのように促進され、履行されるかを説明している。競技規則は、技能競技大会および職種競技大会自体に特に適用される価値と倫理を具体化するため、倫理行動規程に従属するとみなされる。

各職種競技の特別規則は、競技規則に従属し、各職種の職種定義内に存在する。

いかなる下位の方針や規則は、より高い位置の方針や規則より優先されることはない。

12.2 重要用語の定義

- **問題**： 職種競技の設定、管理、運営に関する議論や討論を生む意見やアプローチの相違を表す用語。問題の大部分は、可能な限り、指名された職種管理チームが職種競技自体の中で解決すべきである。適用されるいかなる罰則も、競技運営委員会管理チームと相談の上、行われなければならない。
- **紛争**： 下記理由で問題（上記に定義した）が深刻化したことを表す用語：
  - 職種管理チームが時宜に問題を解決できない。または
  - 職種限定規則、競技規則、あるいは倫理行動規程の違反が特定されている。
- **インシデント**： 職種競技の運営あるいは機能に直接関係のない者が、選手が不当な優位性を得ることになる可能性や重大な状況を察し報告する場合、また安全でない、あるいは非倫理的な行動を察し報告する場合、また、ワールドスキルズの組織の評判を貶めかねない可能性を察し報告する場合を表す用語。インシデントは、紛争と同様の方法で対応する。
- **イベント期間**： 技能五輪国際大会開催の 6 日前から終了後 1 日目までの期間を指す。問題と紛争解決のプロセスが適用される。
- **実技領域**： イベント期間中、技能五輪国際大会で発生するアクティビティを説明するため使用される用語。実技の領域およびイベント期間を定義付けることが非常に重要であるのは、判断は“ライブ”または“リアルタイム”の状況で行わなければならないためである。ワードスキルズのイベントは、開始時点と終了時点が定義されており、後に職種競技の結果は（スポーツイベント同様に）発表され公表されると仮定すると、これは適切なアプローチであると考えられる。
- **実技領域における決定**： 閉会式で結果が確実に発表できるように、イベント期間内に紛争解決をするために要求される決定のこと。適切な調査の後、競技規則あるいは倫理行動規程を解釈し、適用することにより、指名されたグループあるいは個人によってなされる決定を指す。

- **蓋然（がいぜん）性のバランス**： 職種限定規則、競技規則、あるいは倫理行動規程に違反があったかどうかに関して、競技運営委員会管理チーム、倫理委員会、その指定する代表者および最高経営責と理事会が、実技領域における決定を下す際に行う、証拠レビューの方法論。紛争はイベント期間内で解決されなければならないことを考慮し、決定は、彼らの見解において、何が真実である確率が高いのか、との考え方に基づいて行われる。これらの決定は、紛争の調査後に行われる。
- **紛争の調査**： 紛争に関して情報を収集するための事実調査行使のこと。時間の制約を考慮すると、調査できる範囲と深さは自然に縮小される。これら制約内で、重要かつ関連する事実を確実に収集する努力が求められる。調査の結果により、指名された意思決定グループは、より多くの情報に基づいた決定をすることができる。

12.3 指針

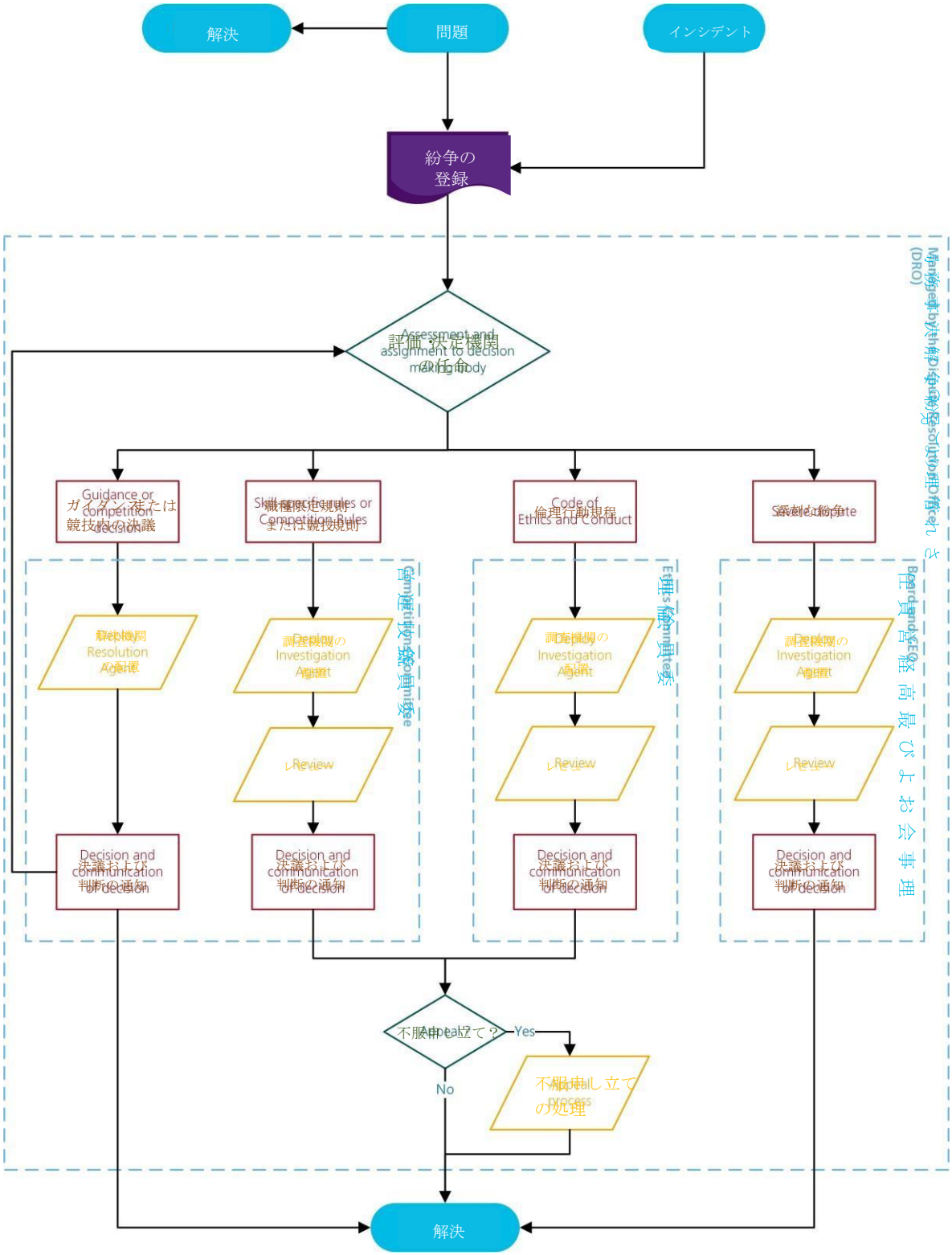
以下の重要な指針は、ワールドスキルズの問題と紛争解決の中核を成す。

- WSI は、証拠にかかる規則を「刑事ベース」から（検察当局は、合理的疑いの余地なくそのケースを証明しなければならない）、スポーツ審判と内部職員の紛争を管理するより大きな企業のシステムのハイブリット・アプローチ、すなわち「民事ベース」（争われた事実は蓋然性のバランスで証明されなければならない）に類似したアプローチへとシフトした。法的裁判とは異なり、WSI には無期限の時間枠がないため、ハイブリッド・アプローチが必要である。証拠にかかる規則には、手続きにおける事実証明を適用するための規則および原則を含む。すなわち、証明であると受け入れられるために、争われている事実の確実性も立証されなければならない。
- 関与している、あるいは進行している紛争の認識をしている全ての者は、関係している可能性のある者に対し、公正に専門的に行動する責任がある。これにより、手続き中に好ましくない先入観や偏見を引き起こすことなく、状況を調査し、結論付けることができる。従って、関与する全ての者、または関係していると認識している全ての者は、個人または加盟国/地域の名誉毀損につながる時期尚早で不正確な結論を避けるために、連絡を取り合ったり発信したりすることの内容や口調（トーン）について、注意深く対応することが求められる。「疑わしきは罰せず」の原則が優先されなければならない。
- 選手が問題あるいは紛争に関わっている場合、紛争解決事務局（DRO）の明確な指示がある場合以外は、いかなる者もプロセスのどの段階においても、関与している可能性のある選手と（何らかの形で）連絡を取り合うことはできない。許可が与えられた場合、選手への通知は、同国のエキスパート、チームリーダー、技術代表、あるいは技術代表補佐のみの責任において実行される。選手は紛争解決のプロセスが進行している間は、自身の作業を継続できるものとする。
- イベント期間の制約の中で、競技運営委員会管理チーム、倫理委員会、最高経営責任者および理事会、ならびに任命された代表者によって、紛争の終結に関連し下される決定の種類は、実技領域内として認識され、承認され、扱われなければならない。このように、紛争にかかる調査において適切な対応なされたにせよ、エラーが遡及的に特定される可能性がある。イベント期間の終了後にエラーが特定されたにせよ、実技領域の決定が有効になり、公表された結果が残る。このような特定されたエラーは、しかしながら、次回の技能五輪国際大会に向けたアプローチとプロセスを改善する目的で見直されることになる。（セクション 13.7.5 を参照）
- 競技運営委員会管理チーム、倫理委員会、最高経営責任者および理事会、ならびに任命された代表者が決定を下すのに必要となる証拠の基準は、職種限定規則、競技規則、あるいは倫理行動規程の違反に関連する紛争に関しては、蓋然性のバランスに基づく。この基準は、証拠の基準が、“合理的疑いの余地ない”ことに基づいている時と同様に、紛争の調査を無制限とすることができない実技領域の環境を反映するために使用される。しかしながら、蓋然性を評価する際、意思決定グループは、“蓋然性のバランス”に基づいて申し立てが確立したと結論付ける前に、申し立てがより深刻であるほど証拠がより強固であることを確実にする。
- 主張を具体化する立証の負担は、紛争解決事務局と共に紛争を開始した当事者に委ねられる。証拠の検証と紛争の事実の決定は、指名された調査官によって成される。

- 正式な調査あるいは紛争会議に出席する人数は、紛争に直接関与する者にとって、威圧的となる事態を避けるために、管理され、比例的に配分されなければならない。会議は、紛争解決事務局から招集された者のみが出席できる。紛争解決事務局は、会議そのものを手配する際、会議に出席する適任者、またはそうでない者を助言する。公式代表および技術代表の双方は、直接自国/自分の地域からの代表者が直接関与している紛争の場合、参加する権利を有する。また、選手が参加を求められる場合、自身のチームリーダーの１名に同席してもらう権利も有する。
- 競技運営委員会管理チームあるいは倫理委員会は、イベント期間内に全ての事例について、決定をしなければならない。これら決定は最終のものとなる。しかし、紛争が職種限定規則、競技規定、あるいは倫理行動規程違反に関わる申し立て状況にあり、関係者が決定過程において、公開したプロセスに従っていたとみなさない場合、その後、その案件は不服申し立て審査委員会に委ねられる。最高経営責任者および理事会に解決するよう指示された例外的な紛争のケースでは、不服申し立てする権限は存在せず、彼らの決定が最終となる。
- 紛争を管理する間、利害対立を最小限にするため、同国の個人が介入する状況が発生した場合、意思決定グループ内の利害対立関係にあるメンバーは、直ちにその旨を申告し、別の者に自らの責任を引き継ぎ、退任しなければならない。他に引き継ぎの出来る資格または経験ある該当者がいない場合、紛争は、紛争解決事務局で直接、取り扱われる。ワールドスキルズ派生事務局の一部である紛争解決事務局は、独立した加盟国/地域とみなされる。

12.4 プロセス

以下のスキームは通常の一般的な業務フローとプロセスを示す：



以下のフローチャートは別途文書だが、問題および紛争解決のための競技規則の一部である：

- 問題を不服申し立てし、紛争を開始するための詳細なフローチャート〈PROC_SC01_IDR_initiating_a_dispute〉
- ·競技運営委員会に指示した紛争の管理と終結のための詳細なフローチャート（タイプＡとＢの紛争はセクション 12.4.1 を参照）〈PROC_SC02_IDR_manage_disputes_Competitions_Committee〉.
- 倫理委員会に指示した紛争の管理と終結のための詳細なフローチャート（タイプＣの紛争は、セクション 12.4.1 を参照）〈PROC_SC03_IDR_manage_disputes_Ethics_Committee〉
- 不服申し立てのプロセスの管理と終結のための詳細なフローチャート〈PROC_SC04_IDR_manage_appeals〉

12.4.1 解決責任とタイプ

解決責任の観点から、可能性のある４つのタイプの紛争がある：

A.（エスカレーションフォームを介して）紛争が宣言され、職種限定規則、競技規則、または倫理行動規程に違反しているとみなされないが、その案件が複雑な性質のために、解決されないままの場合

B.競技運営委員会管理チームによって解決されるべき職種限定規則または競技規則の申し立てられた違反

C.倫理委員会によって解決されるべき倫理行動規程の申し立てられた違反

D.問題または紛争の性質上、それが最高経営責任者および理事会によって解決される必要がある状況

すべての紛争の初期判断は紛争解決事務局が行う。

12.4.2 紛争解決事務局

紛争解決事務局は、技能五輪国際大会の管理組織内で働く小規模の専用チーム（1～3 名の）であり、その機能は、イベント期間中に発生する紛争を監視し、管理することである。
紛争解決事務局は：

- すべての紛争の初期評価を行い、解決に責任のある部門を決定し、プロセスを開始する。
- すべての紛争のための連絡および助言の拠点として活動する。
- 紛争に繋がる全ての関係当事者にプロセスの説明を行う。
- 紛争が持ち上がり、セットアップされたことを関係当事者が認識しているか確認する。
- 紛争に関与する適切な代表者が適切な会議に出席することを促進する。
- 紛争の状況を知らせる。
- すべての紛争の書類、記録を残す。
- 以前に適用された前例に対して罰則が適用される場合、一貫性を確保する。

12.4.3 倫理違反の例

例えばタイプ C およびＤの可能性のある紛争（セクション 12.4.1 参照）は以下を含む：

- 盗難（私物あるいは大会の器具、材料、または消耗品）
- 詐欺（代表/人に関する情報の改ざん関連）
- 身体的暴力あるいはいじめ
- 公然わいせつ行為
- 指定された宿泊先、会場、あるいは主催される小旅行に関連する場所への故意による損害
- 技能競技大会の会場内でポルノやその他不快な素材を含む故意によるインターネットサイトへのアクセス
- 代表に関する機密の個人情報の悪用
- いかなる代表者あるいは一般メンバーに対する差別、いやがらせ
- ワールドスキルズを深刻な不名誉に陥れる行為（ワールドスキルズ、加盟国/地域およびその代表たちの評判を不当に傷つけるソーシャルメディアへの投稿を含む）
- 賄賂の授受

- 重大な過失による財産の損失または損害、ならびに各国代表団員に負傷を被る行為をおこなった者
- 割り当てられた職種競技の役割を積極的に取組む一方で、アルコールまたは違法/処方薬使用により不適格となったもの

このリストは網羅的なものではないが、倫理委員会で対応する状況なのか、また紛争が非常に深刻な場合や複雑な文化的状況が存在する例外的な状況において、最高責任者および理事会に解決を求める状況なのかを明確にするのに役立つ。

12.4.4 紛争解決プロセスの開始

以下のワールドスキルズ認定の役職のみが、問題を直接紛争解決事務局へ（上位レベルへの）処理事項として上げることができる。

- 公式代表（OD）
- 技術代表（ＴＤ）
- チーフ・エキスパート（CE）
- エキスパート（Ｅ）
- 職種競技マネージャ（SCM）
- 職種アドバイザー（SA）
- WSI 事務局および理事会（WSI）

問題を上位レベルへ付託し、紛争解決プロセスを開始するために、彼らは、エスカレーションフォームを完成させ、紛争解決事務局に提出する。

問題を上位レベルへ移行することを希望する選手またはチームリーダーは、同国のエキスパートあるいは自身の技術代表のいずれかを介して行わなければならない。

上記の認定された役職の者の内、職種競技に直接関わってはいないが、潜在的な不正行為を察し、それに関する紛争提起を望む場合、この状況は最初 「インシデント」 として分類される。当ポジションの者が主張を実証できる場合、エスカレーション・フォームを完成し提出する。状況を対応するために任命された意思決定グループに移行される前に、「インシデント」 として、最初に紛争解決事務局によって査定される。上記の認定役職にない者が、特定の職種競技に関連する潜在的なインシデント又はワールドスキルズのイベントでの好ましくないインシデントを察し、それを立証することができると考える場合、その者は、関連する加盟国の技術代表者又は技能競技大会ディレクターに対して、裏付けとなる証拠とともに、その懸念を示す必要がある。技術代表者が連絡を受け取った場合、技術代表者は最初にエスカレーションフォームを検証して完成させる必要がある。ただし、これは提起された主張を支持することに同意した場合に限られる。技能競技会ディレクターに連絡があった場合、紛争解決事務局は、続行することに同意する前に、それをレビューする。

12.4.5 初期査定と分類

セクション 12.4.1 に示したとおり、全ての紛争の初期査定は、紛争解決事務局によって実行される。紛争解決事務局は最初にエスカレーションフォームを確認し、紛争番号を加え、適切な意思決定機関に紛争を割り当てる。

説明と独立した裁定が必要であると最初に査定された紛争（タイプＡ－セクション 12.4.1 参照）では、紛争解決事務局がその紛争に解決機関（RA）を指定する。

その他の紛争（タイプ B, C, D－12.4.1 参照）では、紛争解決事務局が、任命された意思決定機関の代わりに、調査を実施するため、１または２の調査機関（IA）を指定する。

最高経営責任者および理事会が紛争を直接管理する稀な状況の場合（タイプ D-セクション 12.4.1 参照）入手可能な必要リソースを要求し、問題を調査できるようにする。

12.4.6 解決機関の役割

解決機関は、以前の技術代表あるいは現在の競技運営委員会代理人リーダーのいずれかで、タイプ A の紛争を解決するための紛争解決事務局をサポートするために支援する。（セクション 12.4.1 を参照）。

12.4.7 紛争の解決

RA は、提示された特定の状況に対して実行される最も公平な解決策に関して必要な決定をする権限を与えられる。選手（たち）の競技時間の調整（追加または削除）が提案された場合、それらは実施される前に競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーに承認されなければならない。実施された解決策は、紛争解決事務局と共に文書化されなければならず、紛争の結論として記録および通達できるようにする。

解決の過程において、RA が職種限定規則または競技規則が違反されていることを発見した場合、紛争解決事務局の同意を得て、RA がその紛争の調査機関になることがある。倫理行動規程の違反がある可能性があると気づいた場合、紛争解決事務局を通じて紛争は倫理委員会に引き継がれる。

12.4.8 調査機関の役割

調査機関は、以前の技術代表あるいは現在の競技運営委員会代理人リーダーのいずれかで、タイプ B、C および D の紛争を解決するための紛争解決事務局をサポートするために支援する。（セクション 12.4.1 を参照）競技運営委員会代理人リーダーは、関与者、関係者、あるいは紛争を開始した者が同国の者である場合、調査機関として行動できない。

すべての調査機関の役割は、公平かつ客観的であることであり、それによって、案件の本質的な事実を確立し、何が起こったか起こらなかったかを明確にできる。調査機関は、主張を支持する証拠および主張を具体化する立証責任を含むが、それに限定せず、矛盾する可能性のある証拠を探すことにより、これを行なうべきである。

調査機関の役割は、いかなる当事者の有罪を証明することではなく、事実、仮定、あるいは人々の状況に関する認識を調査、通知し、また、これを意思決定グループへ報告することである。

12.4.9 紛争の調査

紛争の調査は、職種競技ワークショップ内で行われ、関係している個人から話を聞いたり、直接状況を見たり、紛争に関係する全ての、または一部の人物と更に正式な調査会議を行ったりするなど、多くのやり方で行うことができる。調査は、必要であれば、書面、写真、ビデオ、コンピュータのデータ、あるいは主張を支持あるいは否定するその他の物的証拠の収集が含まれる。
調査が完了すると、調査機関は調査結果の内容にかかる短い要約書面を提供し、紛争解決事務局および関連する意思決定グループと共有する。また、該当する場合においては、適切な聴取会議で、調査結果を口頭で報告し、意思決定グループと討論するよう求められる。紛争に関わるすべての人は、優先事項として調査機関に対しいつでも応じられるように準備しておくよう求められるが、職種競技が確実に継続できるようにバランスを取ることが必要となる。選手との話し合いは、問題と紛争解決の指針を尊重しなければならない。（セクション 12.3 参照）
情報が意思決定グループにフィードバックされる際、すべての事実が利用できない場合、即時に協力しなければ、下す決定の結果に影響する可能性がある。
タイプ B の紛争に関して：

- 競技運営委員会管理チームが調査の終了時に、競技規則または職種限定規則に違反が無いと結論付けたにもかかわらず、それでもまだ解決すべき問題があることを認めた場合、指名された調査機関は、紛争解決事務局の合意があれば、解決機関になることができ、継続する懸念に向けて最善の解決策を実施すべく支援する。
- 調査中に調査機関と紛争解決事務局がその複雑さのレベルで特有であるとみなした場合、紛争解決事務局を通じて、紛争の調査と解決の双方のために競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーの直接の介入を求めることができる。

12.5 決定、伝達およびタイミング

12.5.1 競技規則あるいは職種限定規則の違反

競技運営委員会管理チームは、すべての場合において決定を下さなければならない。 決定は、ペナルティが適用されるか、紛争の却下のいずれかになる。 この決定は最終的なものであり、紛争は終結する。

決定が下されると、関係した人（人々）および関係する技術代表に、結果に関して、決定後 30 分以内に紛争解決事務局から通知される。

この結果の配信は、技術代表および潜在的には公式代表（事前にリクエストする場合はオプショナル）を含んで、関係している人々に対面で配布されることが理想的である。しかし、効率のために、この結果は口頭で（電話）またはテキストメッセージ（電話メッセージ・システム）経由で技術代表および/または公式代表に通知され、紛争に直接関わっている彼らの加盟国/地域から人々に拡散する場合がある。

結果が直ちに適用する罰則を含む場合、これらは関連する技術代表および公式代表への結果通達の内容に含まれるものとする。

許可された期間内に不服申し立てがなされなかった場合（セクション 12.7.4 参照）、紛争に関連する職種競技の職種管理チーム（SMT）は紛争解決事務局から結果を通知され、関連する罰則は直ちに実行される。適切な場合には、紛争解決事務局は、紛争の結果に関して職種競技の全エキスパートに説明を行う。

この通知は、職種競技のワークショップ内で執り行われる（利用出来れば、エキスパートの部屋にて）。

12.5.2 倫理・行動規程の違反

倫理委員会は、すべてのケースにおいて決定を下さなければならない。 決定は、ペナルティが適用されるか、紛争の却下のいずれかになる。 この決定は最終的なものであり、紛争は終結する。

紛争調査後ならびに委員長およびその他のこの紛争のために指名された倫理委員会のメンバーの双方による報告書が見直しされた後、彼らは、現時点で倫理委員会の聴取会議を開催し続ける余地が無いと決定を下し、直ちに紛争を却下することができる。このような場合、倫理委員会の委員長は、DRO に対し、調査内で得られた情報に基づいて問題が却下されることを関係当事者に知らせる。

調査機関の報告書に問題の要素がある場合、倫理委員会の委員長は、紛争解決事務局を通じて、技術代表および/または公式代表を含む関係者、ならびに指定された調査機関との正式な聴取会議を開催する。議長は、調査で探し得た内容を要約し、当事者から立場の表明を求め、審議し、倫理行動規程違反の主張を支持または却下のいずれかを示し、結果を伝える。

倫理委員会が倫理違反の主張を支持する場合、議長はまた、関係する個人または加盟国/地域に直ちに勧告される罰則およびワールドスキルズのイベント後に与えられる可能性のある罰則について、概要をまとめる。

許可された期間内に不服申し立てがなされなかった場合(セクション 12.7.4 参照)、紛争に関わる職種競技の職種管理チーム（SMT）は、（該当する場合において）紛争解決事務局から結果を通知され、関連する罰則は直ちに実行される。必要に応じて、紛争解決事務局は紛争の結果に関して職種競技の全エキスパートに説明を行う。

この説明は、職種競技のワークショップ内で、利用できる場合、エキスパートの部屋で執り行われる。

12.5.3 タイミング

競技３日目までのイベント期間中、18 時前に完全に記入されたエスカレーションフォームを受け取った場合、紛争解決事務局は適切な意思決定機関に紛争を割り当て、提出後 1 時間以内に調査機関または解決機関を指定する。指定された調査機関および解決機関の採用期間は、紛争の複雑度によって異なるが、その時間に集めた情報から結論が引き出される前に、１件の調査に連続業務時間で 4 時間以上要す

ることは想定していない。聴取会議または申し立て会議は期間として 90 分を超えないようにしなければならい。 すべての紛争は、大会終了後１日目（C+1）の 10 時までに決着をつけなければならない。

12.5.4 日々の概要連絡

イベント期間中、紛争解決事務局は、全技術代表および公式代表に当日の 18 時までに登録された全ての紛争状況の概要を送らなければならない。概要には紛争番号、関係する職種競技、倫理的紛争であるのか、または競技ベースにかかる紛争なのかという点、さらに、紛争結果に向けて、現在の状況を示す。この概要レベル以上の詳細は、ワールドスキルズおよび直接の関係者のみ内密に保持する。しかしながら、技能競技大会終了後、紛争は名前を削除して文書にし、専門能力開発とトレーニングのシナリオとして使用される。

12.6 罰則

倫理・行動規程の罰則制度は、競技規則および職種限定規則にわたる倫理・行動規程違反を扱う。以下は、その罰則制度を取り入れたものである ー 一連の罰則および適用罰則の範囲については、倫理行動規程罰則制度を参照のこと。

競技運営委員会マネジメント・チームが職種限定規則もしくは競技規則の違反であるとの判断を下した場合（蓋然性のバランスを利用し（セクション 12.2 参照））、以下、最大限度の罰則が適用される：

- 選手が職種限定規則もしくは競技規則に違反した場合、当該選手は、600 ポイントもしくは全職種競技中で最も少ないポイントの選手より 5 ポイントを引いた、いずれか低い方を受けることになる。罰則を受ける選手の結果は公式結果の確定前に調整される。その選手は、競技の継続もしくは撤退を選択することができる。
- エキスパートが職種限定規則もしくは競技規則に違反した場合、その罰則としてエキスパートはワークショップから退去させられることとなり、選手とそれ以上接触できなくなる。違反の種類によっては、そのエキスパートの評点についても CIS から除外される。エキスパートの違反あるいはそれに関する決定が大会４日目に発生し、この時点でそのエキスパートの解任がほとんどまたは全く影響が無いと判断される場合、紛争に関連する加盟国/地域への罰則も考慮される可能性がある。・その他の認定済み人員が職種限定規則に違反した場合、その者は、あらゆるワークショップから退去させられ、選手 および/または エキスパートとそれ以上接触できなくなる。

どの罰則を適用するかを判断する前に、競技運営委員会マネジメント・チームおよび倫理委員会は、紛争の状況をより深く理解した上で調査機関(IA)の勧告を求めることになる。同様に、これまでに生じた類似的な紛争の際に適用された罰則適用に関して紛争解決事務局が助言を行う。

12.6.1 罰則の適用

（職種限定規則もしくは競技規則、または倫理行動規程に違反しない）紛争解決に関連した罰則は、（全職種を通じた一貫性保持のため）競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーの承認をもってのみ適用可能である。

競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーに上げられた職種限定規則もしくは競技規則の違反にかかる紛争解決に関連した罰則は、（全職種を通じた一貫性保持のため）競技運営委員会マネジメント・チームの承認をもってのみ適用可能である。

倫理委員会に上げられた倫理行動規程の違反にかかる紛争解決に関連した罰則は、（組織全体を通じた一貫性保持のため）、理事会および最高経営責任者の承認をもってのみ適用可能である。

選手が罰則ポイント/評点を付与された状況で、公式結果から当該選手の結果を除くことはできない。

紛争解決事務局は、また、ワールドスキルズの適切な人員もしくは部署に対し、あらゆる罰則の迅速な実施の徹底を促す。技能五輪国際大会後に執行すべき更なる罰則もしくは制裁をすべて記録する。

12.7 不服申し立てのプロセスおよびタイミング

12.7.1 不服申し立ての範囲

不服申し立て審査委員会への不服申し立ては、結果もしくは決定に対してではなく、問題および紛争解決プロセスに関してのみ行うことができる。不服申し立て審査委員会は、競技運営委員会マネジメント・チームもしくは倫理委員会の決定を変更することはできない。イベント期間の制約を考慮して、指定されたプロセスにおいて全てのステップが踏まれたか否かのみで決定することができる。不服申し立てプロセスが適切に行われなかったと不服申し立て審査委員会が判断した場合、委員会が唯一命じることができるのは、不完全であると考えられるあらゆるステップを再検討するため、その紛争を競技運営委員会マネジメント・チームもしくは倫理委員会に戻すことである。

12.7.2 不服申し立てできるのは誰?

加盟国/地域の技術代表もしくは公式代表のみが、元々の紛争に直接関与する自国人員に代わり、不服申し立てを提出することができる。

12.7.3 プロセス

不服申し立て審査委員会は提出された不服申し立て書の最初の審査段階において、提出された情報を基とする不服申し立て要因が無いものと決定することができる。このような場合、不服申し立て審査委員会は、不服申し立てした団体に対し、不服申し立てが、不服申し立て様式に書かれた情報を基とした結果、退けられた旨を通知するよう紛争解決事務局に指示することとなる。　不服申し立ての余地ありと不服申し立て審査委員会が判断した場合、紛争解決事務局は不服申し立てヒアリング会議を立てる。

プロセスが公正もしくは全て問題なく進められていると判断した場合、不服申し立て審査委員会は競技運営委員会マネジメント・チームもしくは倫理委員会へ紛争を差し戻す。

12.7.4 タイミング

不服申し立て人は、紛争解決事務局による紛争決定の伝達から 1 時間以内に（セクション 12.7.2 参照）不服申し立て書を完成されねばならない。

18:00 までに不服申し立てが登録された場合、不服申し立て審査委員会は、不服申し立て登録から 1 時間以内に、さもなければ翌朝 8:00 に会議を開かねばならない。 会議後 1 時間以内に決定を下さなくてはならない。

12.8 記録管理および結果

12.8.1 記録管理

職種競技中に解決した問題は、職種管理チームによって記録され、その職種競技の次版の文書、知識管理や手順に組み込まれることが期待される。

紛争解決事務局は、紛争解決事務局に登録されたあらゆる紛争に関連した全情報、文書、伝達および決定の管理および収集の責任を持つ。

12.8.2 結果

職種競技ディレクターは、競技終了後第 1 日目に、結果に影響を及ぼした全罰則が 技術代表および公式代表への公式結果の公開前の段階で適用されているよう徹底することに対し責任を負う。

12.9 倫理委員及び不服申し立て審査委員の任命

12.9.1 予備要員

大会の６ヶ月前に、理事会は現時点での公式代表、名誉会員および適した経験をもつ人物から予備要員を任命する。

12.9.2 倫理委員会

倫理委員会は委員長および少なくとも他 1 名、理想的には他 2 名で構成される。

委員長は理事会によって任命されるものとする。技能競技大会におけるこの人物の唯一の役割は倫理委員会の委員長となることである。ワールドスキルズの技能競技大会にかかる作業知識 および 同種の任務経験を有す者であることが理想である。法学的経歴や知識は有益となる。

各紛争に対し、倫理委員会の委員長は、予備要員から少なくとも 1 名、他の人物を選び、加盟国/地域の偏見が存在しないことおよび彼らが調査中の決定事項のどの部分にも関与していないことを確実にする。

12.9.3 不服申し立て審査委員会

不服申し立て審査委員会は、委員長および少なくとも他 1 名、理想的には他２名で構成されるものとする。

委員長は理事会により任命されるものとする。

各不服申し立てに対し、不服申し立て審査委員会の委員長は、予備要員および/または理事会から少なくとも 1 名、他の人物を選び、加盟国/地域の偏見が存在しないことおよび彼らが不服申し立て中の決定事項のどの部分にも関与していないことを確実にする。

13 情報伝達

13.1 大会開催組織

13.1.1 メディアへの情報

大会開催組織は、現地および海外のマスコミへの広報および情報提供に関して責任を負う。 大会イベントマニュアルに準じ、全文書に、大会開催国、大会開催組織、WSI について言及しなければならない。全ての文書および公開は公開前に WSI の承認を要する。

13.1.2 加盟国/ 地域への情報

大会開催組織は、加盟国/地域に対し、大会に向けた準備のための定期的かつ詳細な情報、ならびに、大会開催国に関し、その教育システム、産業と文化にかかる、大会開催前の情報提供について責任を負う。

13.1.3 観客への情報

大会開催組織は技能競技大会の観客への情報提供に関して責任を負う。

13.2 加盟国/地域の情報伝達

各加盟国/地域における情報伝達(マーケティング、マスコミ、広報関連)活動は、加盟国/地域それぞれの裁量に委ねられる。但し、大会開催組織と WSI 間の覚書(MOU)で定められた他の加盟国/地域における情報伝達活動については大会開催組織が支援する。

13.3 録画および写真撮影

13.3.1 メディア

大会前

技能競技大会が開始されるまで、会場/建物およびワークステーション内の、ワールドスキルズ公式メディアを除く如何なる人物による録画または写真撮影も厳禁とする。

大会期間中

大会期間中のワークステーションでの録画あるいは写真撮影に関しては、職種競技責任者である職種競技マネージャの承認や、必要に応じ、競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーあるいは職種競技ディレクターの承諾を条件として認められる。

大会期間中の競技課題または課題構成および、それらに関する競技者との議論に関しては、ワールドスキルズの公式メディア担当者を除き、如何なる人物による録画または撮影も、大会終了まで厳禁とする。

観客は、自身の私的利用目的であれば、競技を録画および撮影することが出来る。観客は、ワークショップ内にいる者とは、誰ともコミュニケーションをとってはならない。

13.3.2 その他、正式認定された人員

大会前

ワークショップ、あるいはワークステーションにおける大会前の録画または写真撮影に関しては、職種定義の職種限定規則に従うものとする。例外に関しては、競技運営委員会のリーダーシップに責のある

理事会メンバー、最高経営責任者、職種競技マネージャ、もしくは、マーケティング＆コミュニケーション・ディレクターの承認をもって認められる。

大会期間中

ワークショップ、あるいはワークステーションにおける大会期間中の録画あるいは写真撮影に関しては、職種定義の職種限定規則に従うものとする。

14 安全衛生および環境

14.1 大会開催組織

大会開催組織は、大会の安全衛生関連文書を作成せねばならない。また、大会開催組織は、インフラの全て、ならびに機材および設営が以下の 2 点に対して完全に準拠していることを確とする責任を負う。

- 開催国／地域に関連した法律
- 職種競技のための、独自のワールドスキルズ安全衛生および環境方針と規則

14.1.1 トレーニングおよび履行

大会開催組織は職種管理チームと連携し、安全な大会の確保要件となる情報およびトレーニングを、エキスパート、選手、ワークショップに立ち入る可能性のあるその他関係者全員に提供する。

14.1.2 安全衛生および環境同意書

トレーニングの完了後および、ワークショップでのあらゆる機材の使用前、「安全衛生および環境に関するトレーニング」を受けた者は、安全衛生および環境同意書に署名せねばならない。この同意書に、大会開催組織の安全衛生および環境の代表者が副署する。
正式認定を受けた全ての者は、大会後の荷造り時も含め、以下の規則に常時従わねばならない。

- 大会開催組織によって明示される安全衛生および環境規則
- 職種競技のためのワールドスキルズ安全衛生および環境方針と規則
- 1 つの職種競技につき 1 部存在するワールドスキルズ安全衛生および環境方針と規則

14.1.3 品質監査

安全衛生および環境の監査チームは競技規則に記された安全衛生および環境規則を考慮し、品質監査を実施する。

14.2 加盟国/ 地域

加盟国/地域における国内の安全衛生および環境規則が開催国の規則より高度または厳格である場合、その競技大会において、その加盟国/地域には、より高度/厳格な規則の方が適用される。

14.3 技術代表

技術代表は、大会開催組織の安全衛生および環境方針と規則、ならびに、ワールドスキルズ安全衛生および環境方針と規則に関する正確な情報の概要を、大会前に、自国の全選手と全エキスパートに確実に把握させる責任を負う。

14.4 エキスパート

加盟国/地域における国内の安全衛生および環境規則が大会開催組織の規則より高度または厳格である場合、その競技大会において、その国/地域のエキスパートは、同国の選手に対し、より高度/厳格な規則の方を適用せねばならない。

14.5 職種管理チーム、エキスパートおよびワークショップ・マネージャ

職種管理チーム、エキスパートおよびワークショップ・マネージャは、以下の点に準拠し、職種競技の計画および運営が行われることに責任を負う。

- 大会開催国/地域の規則
- 自国/地域固有の、国/地域内規則（大会開催国/地域より厳格な場合）
- ワールドスキルズの安全衛生および環境方針と規則内の、安全衛生および環境要件
- 職種定義内の職種限定要件

彼らはまた、エキスパート、選手および他の職員が上記規則に従うように責任を負う。

14.6 ワールドスキルズ事務局

ワールドスキルズ事務局は、職種競技のための安全衛生および環境方針と規則に関する文書を作成し、管理せねばならない。

文書には、選手が大会へ持ち込む電動手工具のテストと承認に関する正確な情報が盛り込まれていなければならない。安全衛生および環境の全文書は、**大会６ヶ月前**にウェブサイトで公開されねばならない。

14.7 監査チーム

安全衛生および環境監査チームは、競技規則を考慮に入れ、品質監査を実施する。

14.8 持続可能性

14.8.1 方針と手順

技能競技大会に関連する全ての活動は、WSI 持続可能性指針が掲げる５つの R の持続可能性の主要原則： リデュース（削減）、リサイクル（再生利用）、リユース（再使用）、リフォーマット（再設定）、そして、リジェネレート（再生） に従って実施されるものとする。

14.8.2 ワールドスキルズ事務局

ワールドスキルズ事務局は、WSI 事務局は、ワールドスキルズ主導の全取り組みにおいて持続可能性の主要原則を遂行する責任を負う。

14.8.3 大会開催組織

大会開催組織は、持続可能性の主要原則およびインフラ調達ならびに競技大会会場や宿泊パッケージの選定における取り組みを遂行する責任を負う。

14.8.4 技術代表

技術代表は、職種競技のフォーマット、ならびに、選手が持参する、または大会開催組織が支給する備品に関して、持続可能性の原則および取り組みを確実に支援せねばならない。

14.8.5 エキスパート

エキスパートは、職種競技の開発、競技課題作成や必要なインフラ等を含む持続可能性の主要原則およびその取り組みに則って職種競技大会を計画、運営する責任を負う。

15 パイロット・プロジェクト

15.1 定義と目的

パイロット・プロジェクトは、技能五輪国際大会の側面の改善に向けて設計されたプロジェクトである。パイロット・プロジェクトは競技運営委員会によって合意ならびに定義され、次回大会において小規模にて試験的（パイロット的）に実施し、大会後、前もって確立されている基準に照らして、再検討するプロジェクトである。

パイロット・プロジェクトの目的は、アイデアが技能競技大会の大会規模において適用されるべきかの是非を確認するため、小規模（即ち限定的な公開）に改善のためのアイデアを試すことである。

技術代表であれば、競技運営委員会管理チームに対し、パイロット・プロジェクトを提案することが可能であり、更なる展開を目的として、競技運営委員会管理チームがその提案を競技運営委員会作業部会に提出する。その後、承認を得るため競技運営委員会へ渡される。承認されれば、その提案は次回の技能五輪国際大会において試験的に実施される。

競技大会後、パイロット･プロジェクトは、適切な技術代表（陣）と競技運営委員会管理チームにより、その成果を再検討される。成果と提言が競技運営委員会に提出され、彼らはその提言を総会へ提出する。

15.2 職種競技で英語のみの使用

技能五輪国際大会は世界の職業を反映しているので、世界の産業とかかわりを持つワールドスキルズが、英語が既に世界中で職業及び/または産業では一般的になっている職種競技の実施に英語のみポリシーを採用するのは自然な流れである。

調査結果は 2021 年 10 月の競技運営委員会で提示されている。競技運営委員会および続いて行われた総会で、４職種において第 47 回技能五輪国際大会にてパイロット・プロジェクトを実施することが合意された。パイロット・プロジェクトの結果は、第 47 回技能五輪国際大会後に再調査され、今後の技能競技大会で英語のみ使用を継続するのか、また、追加の職種競技が追々検討される。

15.2.1 措置・原則

以下の措置及び原則がとられる。

- エキスパートは会議に通訳を同席させてもよい。
- 評価は英語のみで行われる。
- 競技課題と採点集計様式の文書は翻訳してもよい。
- 通訳者は選手のための競技課題説明会に同席してもよい。
- 選手が完成させる競技課題の一部として完成させる書類は、次の通りとする。
- 英語で作成され、翻訳はされない。
- 筆記英語と英会話の質は評価しない。－ 技術的な内容や職種特有の内容のみ。

15.2.2 実行プロセス

実行プロセスを発展させ、以下の 4 つの職種競技に登録されている WSI 加盟国/ 地域、エキスパート及び選手に提供する。

- ホテルレセプション
- 貨物輸送
- レストランサービス
- 航空機整備

技能競技大会ディレクターは、技能競技大会に至るまで、また大会では、実行プロセスを各職種競技マネージャと協力して行う。

15.3 AI を活用した競技課題翻訳

選手は、自分の選んだ言語で競技課題を受け取る権利がある。競技課題の翻訳が必要な場合は、通常、コンテストの準備期間中に通訳者またはエキスパートによって翻訳される。多くの職種競技では翻訳に何時間もかかり、限られた時間内に完了する。

さまざまなオンラインツールと翻訳ソフトウェアが調査およびテストされ、Smartcat という会社が WSI のニーズに最も的確であることが証明された。Smartcat は、翻訳の品質を保証するため、人間のレビューと組み合わせた AI ベースの翻訳プロセスを採用している。

これは、2023 年 9 月にダブリンで開催された競技委員会に提出された。競技委員会とその後の総会は、WSC2024 で５つから７つの技能競技会でパイロットプロジェクトを実施することに合意した。このパイロットプロジェクトの成果は、WSC2024 の後にレビューされる。

15.3.1 措置・原則

以下の措置及び原則がとられる。

- 競技課題の文書は、技能競技大会前に必要な言語に翻訳される。
- その後のコミュニケーションのために、ワークショップでは通常どおり通訳が許可される。
- AI ベースの各競技課題の翻訳は、必要な経歴とスキルを持つ独立した翻訳者によってレビューされる。
- レビューアーおよび校正者の役割を担う翻訳者は、Smartcat プラットフォームを介して組織される。
- 翻訳プロセスは WSI によって管理されるため、加盟国/地域は競技課題の翻訳プロセスに関与しない。

15.3.2 実行プロセス

- パイロットプロジェクトについて選手向けの翻訳が必要な加盟国/地域は、選手を登録する際に WSI にその必要性を示す必要がある。
- このパイロットプロジェクトが WSC2026 で完全に実装された場合、校正翻訳者のためにメンバーパッケージに少額の料金が追加される。WSC2024 では、加盟国/地域に費用はかからない。
- 競技課題が技能競技大会でエキスパートと選手に提示されるとき、事前に翻訳され、校正された競技課題のドキュメントは、選手が選択した言語で選手に与えられる。

パイロットプロジェクトは、WSC2024 で５つから７つの職種競技で実施される。

付録 1
職種競技における重要事項およびタイムライン

略称	役職（名称）
CO	大会開催組織
M	加盟国/地域
OD	公式代表
TD	技術代表
CEO	最高経営責任者
DSC	職種競技ディレクター
CCL	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー
SCM	職種競技マネージャ
SMT	職種管理チーム
CE	チーフ･エキスパート
EL	エキスパートリード
E	エキスパート
C	選手
WM, WSM	ワークショップ・マネージャ、ワークショップ・セクター･マネージャ

期限	任務	大会開催組織	加盟国/ 地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責任のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパート	エキスパートリード	エキスパート	選手	ワークショップ・マネジメント、ワークショップセッションマネージャ
大会開催 22 ヶ月前	技能競技大会ディレクターが、各技術代表に、次回技能競技国際大会の CE(チーフ・エキスパート) および DCE(副チーフ・エキスパート)に指名された同国エキスパート名を通知し、暫定支持を求める		▪				▪								
大会開催 21 ヶ月前	ワールドスキルズが、次回技能競技大会の SCM（職種競技マネージャ）を、技能競技大会直後の関心表明および申請手続を経て、任命する						▪	▪							
大会開催 21 ヶ月前から大会終了後 1 ヶ月目	SCM が大会開催組織および技能競技大会ディレクターと連携の上、任務を遂行	▪					▪	▪	▪						
大会開催 15 ヶ月前	**事前仮登録**														
大会開催 14 ヶ月前	ワールドスキルズ・インターナショナルが、各技術代表に対し、同国エキスパートを CE として任命することへの支持を求める				▪		▪								
大会開催 12.5 ヶ月前	技能五輪国際大会の 12 ヶ月前に開催される競技運営委員会会議に先立ち、承認された全 CE のリストを正式に公開														
≈大会開催 12 ヶ月前	**総会**														
大会開催 12 ヶ月前	選手の年齢制限にかかる、競技運営委員会と総会の可決による例外事項の承認期限		▪												
大会開催 12 ヶ月前	英文職種定義をウェブ上に公開						▪		▪						

大会開催 12 ヶ月前	**仮登録**						▪								

期限	任務	大会開催組織	加盟国/ 地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパート	エキスパートリード	エキスパート	選手	ワークショップ・マネジャ, ワークショップセクーマネージャ
大会開催 12 ヶ月前	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー、WSI 最高経営責任者、職種競技ディレクター、大会開催組織の技術代表による、技能五輪国際大会における正式職種の最終選定	▪				▪	▪	▪							
大会開催 12 ヶ月前からその 1 週間後	大会正式職種の最終選定結果を加盟国/地域へ通知						▪								
大会開催 12 ヶ月前	各加盟国/地域が自国選択職種競技仮登録に着手する期限		▪		▪										
大会開催 12 ヶ月前	大会開催組織が加盟国/地域に（最高経営責任者とともに作成された） 認証パッケージを提供	▪				▪									
大会開催 12 ヶ月前 または 選手団発表の、何れか早い方	ワークショップ（・セクター）・マネージャおよび SCM は、国内選手あるいは選手団の職種限定トレーニングを全て終了する								▪						▪
大会開催 9 ヶ月前	（ディスカッション・フォーラムのように、職種競技の立案や準備への参加を確保するため）エキスパートと技術代表に関する詳細を提供せねばならない		▪		▪										

大会開催 9 ヶ月前	加盟国/地域によるエキスパート登録の期限。競技大会での準備と評価における、エキスパートのその他の関与については SMT の自由裁量とする		▪												

期限	任務	大会開催組織	加盟国/地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責任のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパート	エキスパートリード	エキスパート	選手	ワークショップ・マネージャ, ワークショップセクションマネージャ
大会開催 9 ヶ月前	大会開催組織は競技運営委員会の決定に従い、全技術代表とエキスパートに対し、インフラ・リスト上の機械、装置、工具に関する詳細情報を提供せねばならない	▪													
≈大会開催 8 ヶ月前から同 6 ヶ月前	**大会準備週間 （CPW）**														
≈大会開催 8 ヶ月前から同 6 ヶ月前	CPW においてワークショップ・マネージャおよび職種競技マネージャが インフラ・リストを完成させる								▪						▪
大会開催 6 ヶ月前	安全衛生および環境に関する全文書をウェブ上に公開	▪					▪		▪						
大会開催 6 ヶ月前	倫理委員会（委員長および 2 名の代表）が任命される。２名の代表は現行の公式代表、名誉会員あるいは適切な経歴を持つ人物の中から選ばれ、理事会によって任命される														
大会開催 6 ヶ月前から同 3 ヶ月前	競技課題の公開						▪		▪						

大会開催 3 ヶ月前	加盟国/地域は、２つの必須トレーニング・モジュールを、新規エキスパートに確実に完成させる		▪										▪		
大会開催 4 ヶ月前	**本登録**	▪													
大会開催 4 ヶ月前	加盟国/地域が（自国参加職種競技の）登録を完了する。以降、大会開催組織および技能競技大会の WSI ディレクターの許可無き場合、いかなる変更も認められない	▪	▪				▪								

期限	任務	大会開催組織	加盟国/ 地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパート	エキスパートリード	エキスパート	選手	ワークショップ・マネヤ, ワークショップゼンーマネージャ
大会開催 4 ヶ月前	加盟国/地域毎の職種競技に対し、通訳がランダムに割り当てられる						▪								
大会開催 3 ヶ月前	選手のための 5-8 時間の習熟時間延長に関する、競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー、ならびに技能競技大会ディレクターによる承認の期限						▪	▪		▪					
大会開催 2 ヶ月前	選手、チーム・リーダー、通訳、公式代表および公式オブザーバーに関する詳細の提供期限		▪												
大会開催 2 ヶ月前	**チーフ・エキスパートの指名、選挙、承認の開始**														
大会開催 1 ヶ月前	全エキスパート、選手および代表は、デリゲート・センターのエキスパート、選手および代表のオンライン・タスクを 100%にする		▪	▪	▪								▪	▪	

大会開催 4 日前から同 1 日前	**準備期間**									▪			▪	▪	▪
大会開催 4 日前から同 1 日前	エキスパートが競技課題を仕上げ、同国選手向け言語への翻訳を準備する												▪	▪	
大会開催 4 日前から同 1 日前	エキスパート向けの必須評価トレーニング									▪			▪		
大会開催 3 日前	公開済み競技課題の 30%の変更に関するエキスパートの決定期限									▪			▪		
大会開催 2 日前	練習日									▪			▪	▪	▪
大会開催 2 日前から競技第 4 日目	工具箱のチェック									▪			▪	▪	

期限	任務	大会開催組織	加盟国/地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパー	エキスパートリード	エキスパート	選手	ワークショップ・マネ-ヤ, ワークショップセクーマネージャ
大会開催 1 日前	技術代表は認証を受けた全人員に、デリゲート・センターのオンライン・タスクを 100%達成させる				▪										
大会開催 4 日前から大会終了後第 1 日目	ワークショップ・マネージャがワークショップ・エリアに臨場する														
競技第 1 日目	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバーに対し、職種管理チームが評価手順 の変更を文書で求める申請期限						▪	▪		▪					
競技第 1 日目から第 4 日目	オブザーバー、メディアおよび入場を許可された一般の人々の競技会場への出入りが可能となる														

期限	任務	大会開催組織	加盟国/ 地域	公式代表	技術代表	最高経営責任者	技能競技大会ディレクター	競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー	職種競技マネージャ	職種管理チーム	チーフ・エキスパート	副チーフ・エキスパート	エキスパート	選手	ワークショップ・マネヤ, ワークショップセンーマネージャ
競技第 2 日目	非モジュール形式の競技課題を持つ職種のチーフ・エキスパートが、作業時間延長を求めて競技運営委員会のリーダーシップに責のある理事会メンバー、職種競技マネージャ、、技能競技大会ディ レクターの承認を受ける期限						▪	▪	▪		▪				
競技第 2、第 3、第 4 日目	CIS に入力され、承認された前日分（競技第 1 日目から第 3 日目）の副評価基準および、採点入力承認様式に、正午までにエキスパ ートの承認を受け、署名を得る										▪	▪	▪		
競技第 4 日目 22:00	競技第 4 日目の副評価基準を CIS に入力する										▪	▪	▪		
競技第 1 日目 10:00	エキスパートが、競技第 4 日目の 副評価基準を承認し、署名する										▪	▪	▪		
競技第 4 日目	エキスパートが、採点入力承認様式に署名する										▪	▪	▪		
競技第 4 日目 18:00	次回大会のチーフ・エキスパート （CE）および副チーフ・エキスパート（DCE）の選挙開始						▪		▪				▪		
競技第 4 日目 22:00	評価および CIS への採点入力完成期限									▪					
競技終了後 第 1 日目、10:00	競技第 4 日目に関する CIS の署名様式受領期限									▪					
競技終了後　第 1 日目	技能競技大会ディレクターは、公式結果が総会で技術代表および公式代表に見直しのため伝達される前に、成績に影響した罰則が 全て反映されているか確認する						▪								

競技終了後　第 1 日目	競技運営委員会による結果確認の期限				▪			▪							
競技終了後 第 1 日目、14:00	次回大会チーフ・エキスパート（CE） の選挙期間終了						▪		▪				▪		
競技終了後 第 1 日目、14:00	エキスパートリードは、技術代表への全変更内容報告が完了し、合意が得られ、少なくとも80%のエキスパートの署名を受け、電子様式で事務局へ送られたことを確認する											▪			

改訂履歴（機械翻訳）

バージョン	日付	変更点
10.0	08.01.24	技能五輪国際大会 2022 スペシャルエディション（WSC SE）に関する特別な追加事項をドキュメント全体から削除。 ドキュメント全体でイベントマニュアルの組織化ガイドの名前を更新。 ドキュメント全体で副チーフ・エキスパートの役割を削除。 3.3 エキシビション職種を導入するオプションを持つ WorldSkills International を追加。 3.4 最低限の選手/Teams を説明する脚注を削除。 3.5.1 更新されたイベント名と日付を使用してグラフを置き換えました。作業グループ名を「技能競技大会 of the future Advisory Group」に更新しました。 3.6 見出しを Advisory Group の新しい名前に更新しました。 6.11 鉄道車両技術の削除。 6.2.3 チームリーダーからワークショップ（各職種競技場）へのアクセスを変更しました。無制限アクセスではなく、アクセスを要求する必要があります。 6.3 職種管理チームメイクアップに変更。副チーフ・エキスパートの解任と 2 名以上のエキスパートリード（EL）の追加。 6.4 エキスパートリードを含む SCM エクスペリエンスへの変更。 6.5.5 選出開始時刻を C+1 の 12:00 に変更。 6.6 副チーフ・エキスパートの役割を解任し、エキスパートリードに交代。 6.7.2 CIS、競技課題と採点スキームの開発、およびワールドスキルズ職業基準に関する実務知識を持つためにエキスパートの追加資格が必要。 6.7.6 エキスパートによる CV 提出の日付を変更します。C-6 か月になりました。 6.17.3 WSI 加盟国/ 地域組織のサポートオブザーバーの役割を説明する詳細情報の追加。 6.17.6 WSI 加盟国/ 地域 Media の追加のオブザーバーの役割について説明します。 6.17.7 National Skill Organization の CEO の役割について説明します。 6.20 Lead Skill Advisor ロールの追加。 7.3.3 スケジュールされた同国人のコミュニケーションを朝の 15 分のみに変更。 9.3 秘密アイテムの色の削除。 10.10.1 職種競技の形式に応じた採点集計様式の配布の変更。 11.2.1 リードスキルアドバイザーへの重み付けバリエーションの承認者への変更。 11.5.3 採点チームがすべての選手に対して割り当てられた下位基準内のすべての側面を評点することを明確にする更新。 11.5.6 採点チームが使用する前に採点フォームから最大評点を削除することについて明確にした。

バージョン	日付	変更点	
		11.5.7	文字起こしに関するテキストを追加:採点チームが不在の場合、評点または得点を変更することはできない。
		11.5.8	評点を決定する計算を使用する場合、スプレッドシートなどの外部ツールを使用してはならないというテキストを追加。CIS 機能を使用する必要がある。
		11.6.2	WSC2019 の優秀な採点 パイロット・プロジェクトの詳細を追加。
		11.6.3	メジャメント（測定）とジャッジメント（判定）の両方について、デュアル評価と採点の詳細を追加。
		11.7.1	非同胞のエキスパート人がフォームを確認できるようにテキストを更新。
		11.7.2	「エキスパートは閉会式の前に職種競技の結果を見せられない」というテキストを含めるように更新。
		11.9	WSI 加盟国/ 地域比較報告書から、初めて公式職種に参加するために必要な登録 WSI 加盟国/ 地域の最小数に満たない職種競技を除外するように更新。
		11.10.4	「ベスト・オブ・ネイション賞は、少なくとも 2 つの職種競技に選手がある場合にのみ授与される」という運営規則のテキストを含める。
		11.10.5	本文の追加:WSI 加盟国/ 地域の登録者数が公式職種の初回登録に必要な最低数に満たないスキル職種競技は、アルバート・ビダル賞では考慮されない。
		15.2	WSC2024 パイロットプロジェクトの追加:職種競技では英語のみを使用する。
9.3.1	16.09.22	15.2	WSC2022 パイロット・プロジェクトの削除。
9.3	29.08.22	1.5	本文に、技能競技大会のマイルストーンおよびタイムラインは技能五輪国際大会 2022 スペシャルエディション（WSC SE）には関連しない可能性がある旨の記述を追加しました。
		3.7.6	WSC2022SE では Skills on Notice ルールが適用されないことを示すテキストが追加されました。
		6.1.2	WSC2022 の更新は、WSC2022SE の更新になりました。
		6.2.2	WSC2022SE では、追加のチームリーダーを登録できることに注意してください。
		6.3	WSC2022SE では、職種競技は CE と DCE のみ、または SCM と CE のみで実施できることに注意してください。
		6.5.5	SMT の適格性に関して追加された WSC2022SE に関する注記。
		6.7.4	必須トレーニング要素の完了日の変更に関する WSC2022SE に関する注記。
		6.9	追加の技術代表補佐が登録される可能性があるという WSC2022SE に関する注記。
		6.11.1	前および現在の技術代表が CCD として任命される資格があるという WSC2022SE に関する注記。
		6.11.2	CCD の役割を実行しない場合の結果に関する WSC2022SE に関する注記。

バージョン	日付	変更点	
		10.12	翻訳準備期間を「C-4 から C-1」から「C-3 から C-1」に更新。「C-3 から C-1」。
		11.2.1	WSOS の重み付けに対してより大きな許容範囲が許可されることに注意してください。
		11.7.1	承認とサインオフに関するパラグラフを**「評価と採点の完了」**セクションに移動。
		11.7.2	結果のサインオフのタイミングに関する WSC2022SE の注意。
		11.10.1	メダルはワールドスキルズ・スケールの 1 位、2 位、3 位に基づいて授与されるという説明が追加されました。 WSC2022SE では、登録数が 4 以下の職種競技はすべてのメダルを授与しないことに注意してください。
		11.10.5	WSC2022SE では、アルバート・ビダル賞は授与されないことに注意してください。
		11.10.6	セクション名が**参加のためのデジタルバッジ**に変更されました。
		12	WSC2022SE では、ポリシー、ルール、原則は引き続き維持され、プロセスはリモート解決を可能にするように更新されることに注意してください。
9.2	01.03.22	6.1.5	**Duty of Care** セクションにテキストを追加。
		6.7.4	必須要素を完了するために以前の職種競技にいなかったエキスパートに戻ることを含むようにテキストを更新。
		8.1	職種定義の内容と範囲を更新し、要素を追加。
		15.2	WSC2022 パイロット・プロジェクトを追加。
9.1	19.11.21	1.4	倫理行動規程を含むように文言を更新し、「およびその他すべての技能競技大会の公式ドキュメント」という文言を削除した。
		2.3.1	テキストを「C-9 か月で」から「C-9 か月から」に変更した。
		3.1.3	テキストを「ボラティリティ」から「不安定性」に変更した。
		3.1.7	「現在」という文言を削除した。
		3.4	登録済みの選手/Teams として最小値を定義する脚注を追加した。 公式チームスキルの初年度の最低条件として「6」を追加
		3.5.1	新しい公式職種を提案する人にパートナーを含めるためのテキストを追加しました。
		3.7.4	チーム職種の初回と 2 回目の最小登録の両方をカバーするテキストを追加しました。
		3.7.7	新しい公式職種を提案する人にパートナーを含めるためのテキストを追加しました。
		4.1	ステージ 1 の登録のリストを拡張し、「国家技能機構の CEO、チームリーダー、公式オブザーバー、オブザーバー、通訳者、コミュニケーション・オフ

バージョン	日付	変更点
		ィサー、WSI 加盟国/ 地域機構のサポート担当者、WSI 加盟国/ 地域・オブザーバー」を追加しました。
	5.4.2	「and/or 選手」を含めるようにテキストを更新しました。
	6.1.2	スキルの名前を「ビルディングインフォメーションモデリング」から「デジタルコンストラクション」に変更しました。
	6.3	「SMT の各 WSI 加盟国/ 地域は、異なる国/地域の出身でなければならない」というテキストを追加しました。
	6.5.1	文章および音声による英語のコミュニケーションスキルを明確にするためにテキストを更新しました。
	6.7.4	必須テストの内容を説明するために「必須要素であると同時に、さらなる学習のための補助要素でもある。学習時間の目安は各要素 20 時間」というテキストを追加しました。 補足要素の利用可能性に関する情報を追加しました。
	6.7.6	CV 提出の期間と関連性を示すテキストが追加されました。
	6.7.14	「決定および投票結果は、次の場所にある決定、アクション、および/または合意フォームを使用して、職種競技マネージャまたはチーフ・エキスパートによって記録される」というテキストが追加されました。 http://skill-management.worldskills.org」をディスカッション・フォーラムでなされた決定に関して採択した。
	6.11	「すべての技術代表が競技運営委員会代理人の責任を果たすことは必須要件である」というテキストが追加されました。
	6.12	CCDL が監督するスキル職種競技の数を含めるようにテキストが更新されました。
	6.17	追加されたオブザーバーの種類（WSI 加盟国/ 地域 Organization Support、WSI 加盟国/ 地域 オブザーバー、コミュニケーション・オフィサー）について説明する新しいセクションが追加されました。
	6.24	WSI 加盟国/ 地域委員会の代理技術代表の任命に関するテキストを削除しました。
	7.1.3	職種競技が交代で勤務する場合の競技課題の適時の提供に関する例外を追加しました。
	7.3.3	義務的な準備を完了していないエキスパートが同国人のコミュニケーションに参加できることに関する情報を追加しました。 既に配布されている競技課題語の解釈について、エキスパートはいかなる支援も提供できないことを明確にしました。
	9.7.1	インフラリストにリストされていない機器の持ち込みに関する新しいテキスト「承認は、決定ログに記載するものとする。セクション 6.7.14 を参照してください。」を追加しました。 選手が大会開催組織から提供された独自の機器を持ち込むことに関する新しいテキスト「ただし、選手が複製した工具を持ち込むことができることが技能競技大会ディレクターと合意されており、かつ、その工具がインフラリストに記載されている場合はこの限りでない。」を追加しました。

バージョン	日付	変更点
		10.2 「例外は技能競技大会ディレクターによって承認される場合がある」という新しいテキストが追加されました。 10.6 競技課題の機能、構造、または完成の証明を提供するための C-2 か月の期間が指定されました。 11.6.5 独立した評価者に関するテキストを「任命された」から「承認された」に変更しました。 独立した評価者の準備に関して「評価に関連するアクセスプログラム要素の完了を含む」という新しいテキストが追加されました。
9.0	18.02.21	文書全体で、戦略開発委員会、競技運営委員会のリーダーシップを担当する WSI 加盟国/ 地域理事会、およびワールドスキルズ職業基準の名前を更新しました。 1.4 安全衛生および環境ポリシーとガイドラインを参照するように表現を更新しました。 2.1.1 技能競技大会マネジメントチームの構成を更新しました。 3.1.1 「仕様」から「標準」への参照を更新しました。 3.1.11 **指名された CE または DCE および/または指名された SCM のないスキル職種競技**に関する新しいセクションを追加しました。 3.2.1 選択順序から「大会開催国職種」を削除しました。 3.5.1 次の技能競技大会のチャートを更新しました。パートナーを含めるための手順を更新しました。プレゼンテーション時間に関する手順を更新しました。 3.7 表の文言を「公的地位を維持する」に更新しました。 4.1 手順 4 に「通訳者の全詳細を C-4 か月以内に提供する必要がある」というテキストを追加しました。 5.1 **WSI 加盟国/ 地域の義務**に関する新しいセクション。 6.1.1 チーム職種を追加:サイバーセキュリティ (2)、インダストリー4.0 (2)、鉄道車両技術 (2)、産業用ロボット (2) 。 6.1.2 年齢制限の例外に 3D プリント、ビルディングインフォメーションモデリング、工業デザイン技術、インダストリー4.0、光電子技術、産業用ロボットを追加。 WSC2022 のみの更新を追加。 6.1.3 追加テキスト:「選手は次の技能五輪国際大会で異なるスキルで競技することはできない」。 6.4.1 WSI 加盟国/ 地域の組織提携を明確にする追加テキスト:「来る技能競技大会に出場する選手/チームの技術トレーニングに関して」。 6.4.2 特別責任エキスパートを削除。 6.4.3 追加文「来るべき技能五輪国際大会のために」及び「彼らはまた、技能五輪国際大会の 12 カ月前までに開催される地域職種競技に参加することができる」。 6.7.3 テキスト「エキスパートをスポンサーなどのサードパーティに所属させることはできません。」を削除。

バージョン	日付	変更点
		6.7.4 WSC2022 のみの更新を追加。 必修モジュールを修了していないエキスパート向けにテキスト「... 採点プロセスへの参加は許可されていません。職種競技の運営に関わる業務を変更しています。」を更新。 6.9 「... 技術代表が任務を遂行することを支援する」を更新。 6.11.1 CCD の追加資格要件。 6.12 **競技運営委員会代理人リード（CCDL）**に関する新しいセクション。 6.14.2 追加テキスト:「グローバル・パートナーやイベントスポンサーから任命されることもあります。グローバル・パートナーやイベントのスポンサーと対立する企業や代理店に勤務している場合は任命されない。」。 6.17 オブザーバーを定義する追加および更新されたテキスト。 古いセクション **6.27 倫理委員会**および **6.28 抗議（上訴）委員会**の削除。 8.1 説明に関する追加テキスト:「業界協議の参考文献」。 8.4.1 既存のテキストを新しいセクション**エキスパートレビュー**に移動しました。 8.4.2 **品質保証、協議、および更新**に関する新しいセクション。 10.1 追加テキスト:「...職業上の卓越性を示す。競技課題は、占領の状況、目的、プロセス及び成果を把握しなければならず、その際に採点スキームの実施を支援しなければならない。」。 10.4 CAD 図面の仕様に関するテキストを更新しました。 10.5 テキストを「draft 評価基準」から「採点スキーム」に変更 10.6 品質保証管理に関するテキストを更新。 10.7 テキストを更新:「スキルアドバイザーは、設計コンセプトの段階で関与する必要があります。その後、必要性、専門知識、および可用性に応じて、別の信頼できる担当者が QAC の後続の 3 つの段階の 1 つ、2 つ、またはすべてを引き受けることができます」 表を更新し、「設計コンセプト」列を追加。 10.10.2 競技課題の発行に関連するテキストを更新し、30%の変更を加えた。 10.11 非モジュラー競技課題の定義を更新しました。 10.11.2 モジュール形式の競技課題のテキストを更新しました。 10.12 更新されたテキスト:「エキスパートが開発した競技課題については、30%の変更を含む。」。 11.1.1 「評点」の定義を削除しました。 11.5.6 追加テキスト:「バイアスの可能性を排除するために、SCM は、使用中に採点 Forms からアスペクトごとの最大評点数を削除するよう要求することができる。」。 11.5.9 セクション名が**採点スキームのバリエーション**に変更されました。 11.6.2 追加テキスト:「本ルールでは、採点チームのジャッジおよび WSI 加盟国/地域を指す場合に「エキスパート」を使用している。これは通常であるが、

バージョン	日付	変更点
		必ずしもそうではない。なぜなら、他の資格のある独立した人々が裁判官として行動することがあるからである。規則 11.6.5 は、」。
	11.6.4	**指定されたインスタンスのバリエーション**に関する新しいセクション。
	11.6.7	テキストを「0 から 3 の範囲内」に更新しました。
	11.6.8	テキストを「タブレットまたはコンピューター」に更新しました。
	11.7.1	本文を「タブレットまたはコンピュータ」に更新。 追加本文:「手書きの採点フォームが使用されていない場合は、主な目的を考慮すると、エキスパートが PDF をレビューする必要はありません。」。 評点最終エントリー受諾フォームに署名するオプションを削除。 追加本文:「すべての評価の承認と承認は、C+1 の 10:00 までに CIS チームが受け取る必要があります。C+1 のワークショップ（各職種競技場）にいないエキスパートは、同国/地域選手 採点フォームをレビュー、承認、サインオフする権利を失う。このような場合、エキスパートの不在は文書化され、同国/地域選手の結果は SMT によって承認されます。すべての紛争が終了した後、エキスパートが同国/地域選手の結果のサインオフを拒否した場合は、これが文書化され、SMT によって結果がサインオフされます。」。
	11.7.5	結果に関する異議申し立ては、C+1 の 10:00 まで受け付けます。総会が承認した時点で（競技運営委員会会議で結果を確認した後）、結果は最終的なものとなり、それ以上の異議申し立てはできません。選手の受賞を剥奪する重大なミスがあったことを示す明確な証拠が、閉会式から 1 週間以内に CEO または技能競技大会のリーダーシップを担当する WSI 加盟国/ 地域理事会に提出された場合、異議申し立てが検討されます。この場合、理事会はさらに 1 週間以内に最終決定を下します。Note:採点または評点の加盟に関する異議申し立ては検討されません。これは、C+1 の 10:00 までに審査し承認するのが同国/地域エキスパートの責任であるためです。(11.7.1 を参照）″。
	11.9	結果レポートの名前を更新し、「得点」を削除。
	11.10.2	「同点」を「同点」に置き換え。
	11.10.4	追加テキスト:「ベスト・オブ・ネイションは、スキル別ルールに違反した選手、または競技規則で、600 点を獲得するか、全職種競技で最低得点の選手の最低得点を下回る 5 点を獲得するかのいずれか低い方、および/または倫理行動規程に違反した選手であってはならない」。
	12	イベント期間を C-6 から C+1 に調整。 任命または割り当てられた人を含めるため、セクション内にテキストを追加。
	12.2	追加テキスト:「適用される罰則は、競技運営委員会管理チームと協議して行われなければならない」。
	12.3	用語を「犯罪に基づく」および「民事に基づく」に更新 追加テキスト:立証責任に「主張を立証する」を追加
	12.4	プロセスファイル名を更新。
	12.4.1	用語を「considered」および「alleged」に更新。
	12.4.3	テキストを「代表者に関する個人情報の悪用」に更新しました。

バージョン	日付	変更点
		12.4.4 「イベント情報センター」を「技能競技大会ディレクター」に置き換えました。 12.4.5 紛争の配分に関するテキストを更新しました。 12.4.8 調査エージェントの役割に関するテキストを更新しました。 12.5.1 コミュニケーションとペナルティの適用に関するテキストを更新しました。 12.5.2 コミュニケーションとペナルティ適用に関するテキストを更新。 12.5.4 時間を「17:00」から「18:00」に変更。 12.6 テキストを更新し、「確率のバランスを使用」を追加し、「明確かつ明確」を削除。 テキストを「すべてのスキルで点の量が最も少ない選手よりも...または5点低い」に変更。 追加テキスト:「エキスパートの違反またはそれに関する決定がC4で発生し、現時点でエキスパートを却下した場合、ほとんどまたはまったく影響がないと考えられる場合、紛争に関連するWSI加盟国/ 地域へのペナルティも考慮される」。 12.7.1 テキスト「適切かつ比例した厳しさで」を削除。 12.9 セクション名を**「倫理および上訴委員会の任命**」に変更しました。 12.9.1 新しいセクション**プール**。 12.9.2 構成と任命に関するテキストを更新しました。 12.9.3 構成と任命に関するテキストを更新しました。 15 WSC2019 パイロット・プロジェクトの削除。 付録1。WSI加盟国/ 地域が新しいエキスパートが2つの必須トレーニングモジュールを完了することを確認するために、C-3か月に変更されました。 C4のタスクから「最終評点エントリ承認フォーム」を削除
8.2	27.07.19	現在のブランディングのドキュメントテンプレートを更新しました。 3 **ホストされるスキル職種競技**セクションのテキストを追加しました。 6.1.3 文言を「選手は、1つの技能五輪国際大会で1つの公式職種に出場することに制限されています。例外的な状況は、理事会が検討することができる。」に更新しました。 6.5.2 追加テキスト:「決定は、職種競技マネージャまたはチーフ・エキスパートがhttp://skill-management.worldskills.orgにあるDecisions, Actions, and/or Agreementフォームを使用して記録するものとする。」 6.7.6 **技能競技大会開催前の**項に箇条書きを追加:「技術代表経由で技能競技大会のWorldSkills Internationalに履歴書を提出する」 7.3.2 全選手に認められるという点で、期間延長の明確化。 7.3.3 **競技の時間開催中の**項に追加テキスト:「...自国の選手と連絡を取ることに同意するエキスパート以外の国の臨席なしに」。

バージョン	日付	変更点	
		7.3.5	6.1.3 項に相互参照を追加。
		9.3	インフラリストの色分けシステムの詳細が追加されました。
		10.6	**検証**セクションを新しい**品質保証と管理**セクションに置き換えました。
		10.7	タイムテーブルと人員に関する新しいセクション。
		11.10.2	「700 スケール」を「ワールドスキルズ・スケール」に変更しました。
		11.10.3	**敢闘賞**に関する新しいセクション。
		11.10.4	**ベスト・オブ・ネイション**に関する新しいセクション。
		11.10.5	アルバート・ビダル賞に関する新しいセクション。
		11.10.6	参加証明書に関する新しいセクション。
		12	**紛争解決**に関するセクションにテキストを追加。
8.1	18.01.19	6.1.2	年齢制限の例外にサイバーセキュリティ、クラウドコンピューティング、水技術を追加。
		6.1.3	文言を「選手は公式職種 職種競技に 1 回のみ出場できる」に更新。
		6.5.5	表に脚注を挿入。「このスケジュールの例外は、事前に議長および副競技運営委員会委員長と合意されている必要があります。
8.0	11.01.19	<WSI_OD03A_職種競技_rules_organization_v7.1_EN>と<WSI_OD03B_職種競技_rules_skill_職種競技_v7.0_EN>を 1 つの文書に統合。	